

北向遺跡

第2次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第154集



2006

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



きたむかえ

北向遺跡

第2次発掘調査報告書

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第154集



平成18年

財団法人 山形県埋蔵文化財センター





調査区完掘 全景（南西から）



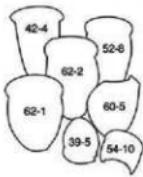
SH533 合口甕出土状況（南から）



ST400 完損状況（北から）



調査区北側 完損状況（北東から）



出土遺物 壺形土器



41-3
38-6
56-11
59-3
44-3
39-1
60-3
38-3
43-12
39-2
43-10
61-4
41-5
38-4
61-3
46-1
53-12

出土遺物 壺・皿

序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した、北向遺跡の調査成果をまとめたものです。

北向遺跡は、奥羽山脈の面白山に源を発して西流し須川に注ぐ立谷川と、立谷川の南を西流して馬見ヶ崎川に注ぐ高瀬川との2つの河川によって形成された、複合扇状地の扇央部に当たる楯山地区にあります。遺跡の中には楯山小学校などもあり、この地区は古くから住まいする場所として、あるいは農地として利用されてきました。また、本地区周辺は最近県立病院などが建設されるなど、再開発が進むのに伴い、道路網の整備も進んできています。

道路網の整備に関わって一般県道東山七浦線の工事が進められることとなり、工事に先だって本遺跡の発掘調査を実施することとなりました。平成15年度に第1次調査が実施され、今回は第2次調査に当たります。

調査では、複合扇状地上に営まれた、奈良～平安時代を中心とした集落跡が確認され、竪穴住居跡や土坑、集落を区画したであろう溝跡や杭列跡、墳墓跡などが検出されました。また、それらの遺構に伴って土師器や須恵器などの土器が多く出土し、当時の人々の生活を研究する上で、大変貴重な資料を得ることができました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの重要な責務と考えます、その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力頂いた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成18年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

理事長 佐藤 敏彦

本書は一般県道東山七浦線建設工事に係る「北向遺跡」の第2次発掘調査報告書である。
既刊の年報、調査説明資料などの内容に優先し、本書をもって本報告とする。
調査は山形県の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。
出土遺物、記録類は、報告書作成終了後、山形県教育委員会に移管する。
調査要項は次の通りである。

調査要項

遺跡名	北向遺跡
遺跡番号	平成14年度登録
所在地	山形県山形市大字青柳字十文字
調査委託者	山形県
調査受託者	財団法人山形県埋蔵文化財センター
理事長	佐藤 敏彦
受託期間	平成17年4月1日～平成18年3月31日
現地調査	平成17年8月22日～平成17年11月17日
調査担当者	調査第二課長 佐藤 庄一 主任調査研究員 伊藤 邦弘 主任調査研究員 伊藤 成賢（調査主任） 主任調査研究員 今田 秀樹
調査指導	山形県教育庁社会教育課文化財保護室
調査協力	山形県村山総合支庁建設部道路課 山形県村山教育事務所 山形市教育委員会

凡　例

- 1 本書の作成並びに本文の執筆は、伊藤成賢・今田秀樹が担当した。
- 2 遺構図に付す座標値は、平面直角座標形第X系（日本測地系）により、高さは海拔高で表す。また、方位は座標北を示す。
- 3 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記の通りである。

ST …堅穴住居	EL …炉・カマド	EK …住居内土坑
EP …柱穴	ED …住居内溝	SB …掘立柱建物
SD …溝	SE …井戸	SX …性格不明遺構
SK …土坑	SP …ピット	RP …登録土器・陶磁器
RQ …登録石器・石製品	F …覆土	Y …床面
P …土器片	S …石	
- 4 遺構番号は、現地調査段階での番号を、そのまま報告書での番号として踏襲した。
- 5 遺構実測図は1/40～1/100の縮図で探録し、各々スケールを付した。
- 6 土層観察においては、基本層序をローマ数字で、遺構覆土を算用数字で表している。
- 7 遺構実測図中に焼土は（■）、炭化層は（■）で示している。
- 8 遺構実測図中のグリッド「○-×」は「X軸-Y軸」を表し、「○+□-×+△」はX軸○から□m東、Y軸から△m南の位置を表す。
- 9 遺物実測図・拓本図は1/3～1/6で探録し、各拵図にスケールを付した。
- 10 遺物実測図中の土器については、土師器：断面白抜き、須恵器：黒ベタ、スヌ：（）、黒色処理：（）を実測図中に付している。
- 11 遺物観察表中に於いて、（）内の数値は図上復元による推定値を示している。
- 12 基本層序及び遺構覆土の色調記載については1999年版農林水産技術会事務局監修の「新版基準土色帳」に従った。
- 13 発掘調査及び本書を作成するに当たり、下記の方々からご協力、ご助言を頂いた。ここに記して感謝申し上げる。（順不同・敬称略）

須藤 隆 植松 薫 國井 修 桐谷 優
- 14 委託業務は下記の通りである。

基準点測量業務	共栄測量設計株式会社
図面編集（遺構・遺物）	株式会社セビアス
自然化学分析	パリノ・サーヴェイ株式会社

目 次

I 調査の経過	1
II 遺跡の立地と環境	3
III 遺構と遺物	7
IV まとめ	19
付編 自然科学分析	

報告書抄録	卷末
-------------	----

表

堅穴住居跡観察表	78	構跡観察表	79
掘立柱建物跡観察表	78	土坑跡観察表	79
杭列・横列跡観察表	79	土器観察表	80

図 版

第 1 図 北向遺跡（第 2 次）調査概要図	1	第 20 図 ST522, ST523, ST597	35
第 2 図 地形分類図	2	第 21 図 ST522, ST523, ST597 遺物出土状況	36
第 3 図 遺跡位図	3	第 22 図 ST599, ST589, ST591	37
第 4 図 基本順序	5	第 23 図 ST488, ST532, ST616	38
第 5 図 主たる堅穴住居の変遷図	19	第 24 図 SB601, SB605	39
遺構			
第 6 図 遺構配図	21	第 25 図 SB609, SB610	40
第 7 図 遺構分側図（北側）	22	第 26 図 SA606, SA607, SA608	41
第 8 図 遺構分側図（中央）	23	第 27 図 SH533	42
第 9 図 遺構分側図（南側）	24	第 28 図 SD396, SD407, SD410, SD419	43
第 10 図 ST69, ST70, ST367	25	第 29 図 SD440, SD566	44
第 11 図 ST400 (1)	26	第 30 図 SD567	45
第 12 図 ST400 (2)	27	第 31 図 SD496, SD566	46
第 13 図 ST425	28	第 32 図 SD581, SD582, SD585	47
第 14 図 ST460	29	第 33 図 SK201, SK202, SK203, SK206, SK209, SK210	48
第 15 図 ST470	30	第 34 図 SK320, SX456, SX457, SK500	49
第 16 図 ST491	31	第 35 図 SX494, SX497	50
第 17 図 ST492	32	第 36 図 SK621, SK625, SK626	51
第 18 図 ST504	33	第 37 図 SK590, SK595, SX529	52
第 19 図 ST526, ST530, ST522	34		

	遺 務	
第 38 図	ST69・70 出土遺物	53
第 39 図	ST400 出土遺物 (1)	54
第 40 図	ST400 出土遺物 (2)、ST425 出土遺物	55
第 41 図	ST460 出土遺物 (1)	56
第 42 図	ST460 出土遺物 (2)、ST488 出土遺物	57
第 43 図	ST491・ST492 出土遺物	58
第 44 図	ST504 出土遺物 (1)	59
第 45 図	ST504 出土遺物 (2)	60
第 46 図	ST528 出土遺物、ST522 出土遺物 (1)	61
第 47 図	ST522 出土遺物 (2)、ST523 出土遺物	62
第 48 図	ST530 出土遺物 (1)	63
第 49 図	ST530 出土遺物 (2)	64
第 50 図	ST530 出土遺物 (3)	65
第 51 図	ST589 出土遺物、ST597 出土遺物 (1)	66
第 52 図	ST597 出土遺物 (2)	67
第 53 図	ST597 出土遺物 (3)	68
第 54 図	ST616 出土遺物	69
第 55 図	SD440 出土遺物、SD496 出土遺物 (1)	70
第 56 図	SD496 出土遺物 (2)、SD567 出土遺物、SD581	
	出土遺物 (1)	71
第 57 図	SD581 出土遺物 (2)、SD582 出土遺物、SD585	
	出土遺物 (1)	72
第 58 図	SD585 出土遺物 (2)、SK206・SK224・SK568・	
	SK595・SK500 出土遺物	73
第 59 図	SK622・SK624・SK625・SK626 出土遺物	74
第 60 図	SK627 出土遺物	75
第 61 図	SK629・SX457・SP408・SP570・SP555	
	出土遺物	76
第 62 図	SH553・中壇溝出土遺物他	77

写 真 図 版

卷頭写真 1 調査区完掘全景、合口甕出土状況	写真図版 19 SD566 断面他
卷頭写真 2 ST400 完掘状況、調査区北側完掘全景	写真図版 20 SD581・582 完掘状況他
卷頭写真 3 出土遺物 变形土器	写真図版 21 SB603 完掘状況他
卷頭写真 4 出土遺物 壁・皿	写真図版 22 SB609 完掘状況他
写真図版 1 B 区完掘全景他	写真図版 23 SA606・607・608 完掘状況他
写真図版 2 ST69 出土状況他	写真図版 24 SK206 完掘状況他
写真図版 3 ST400 出土状況他	写真図版 25 SK201・202・203 完掘状況他
写真図版 4 ST400・EL420 南北断面他	写真図版 26 SK625 断面他
写真図版 5 ST425 完掘状況他	写真図版 27 SX352・353 完掘状況他
写真図版 6 ST460 出土状況他	写真図版 28 SX529 出土状況他
写真図版 7 ST470 完掘状況他	写真図版 29 出土遺物 (1)
写真図版 8 ST488 出土状況他	写真図版 30 出土遺物 (2)
写真図版 9 ST491 完掘状況他	写真図版 31 出土遺物 (3)
写真図版 10 ST492 完掘状況他	写真図版 32 出土遺物 (4)
写真図版 11 ST504 出土状況他	写真図版 33 出土遺物 (5)
写真図版 12 ST522・597 出土状況他	写真図版 34 出土遺物 (6)
写真図版 13 ST523 南北ベルト断面他	写真図版 35 出土遺物 (7)
写真図版 14 ST530 出土状況他	写真図版 36 出土遺物 (8)
写真図版 15 ST589 出土状況他	写真図版 37 出土遺物 (9)
写真図版 16 ST589 出土状況他	写真図版 38 出土遺物 (10)
写真図版 17 E 区東西ベルト断面他	写真図版 39 出土遺物 (11)
写真図版 18 SD390 断面他	写真図版 40 出土遺物 (12)

I 調査の経過

1 調査に至る経緯

本遺跡は、一般県道東山七浦線整備事業に伴い、平成14年度に県教育庁社会教育課文化財保護室によって行われた遺跡分布調査により遺跡の存在が確認され、東西約500mの規模を持つ大きな集落跡であることがわかり、新規発見遺跡として登録された。同年に、文化財保護室は更に遺跡の試掘調査を行い、そこから古代の器である土師器や須恵器等の土器片が出土した。また、堅穴住居跡が重なり合っている状況が確認され、奈良～平安時代の大規模な遺跡であることが判明した。

工事に先立って、県教育庁社会教育課文化財保護室と村山総合支庁建設部道路課との間で、遺跡の記録保存を前提に施工方法の変更等による協議が進められ、財団法人山形県埋蔵文化財センターが県から委託を受けて、平成15年度に第1次発掘調査が行われた。第1次調査の現地調査期間は、平成15年5月7日から同年7月25日まで、事業に係る1140m³について調査され、主に平安時代のものと思われる、多くの堅穴住居跡が重なって検出され、また須恵器や土師器などの多数の遺物が出土した。

集 落 隡

奈良～平安時代

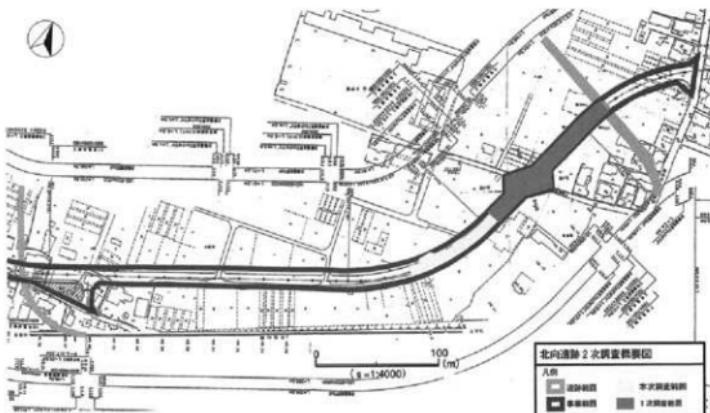
第1次発掘調査

堅 穴 住 居 跡

須恵器や土師器

2 調査の概要

本次調査は、更に南側に延伸する整備事業に伴って、第1次調査を受けて行われたものである。平成17年8月4日に北向遺跡に係る遺跡発掘調査の打合会が行われ、調査体制・方法等について話し合わせられた。その席上、1次調査の南進部分800m³について調査を行うことが確認さ

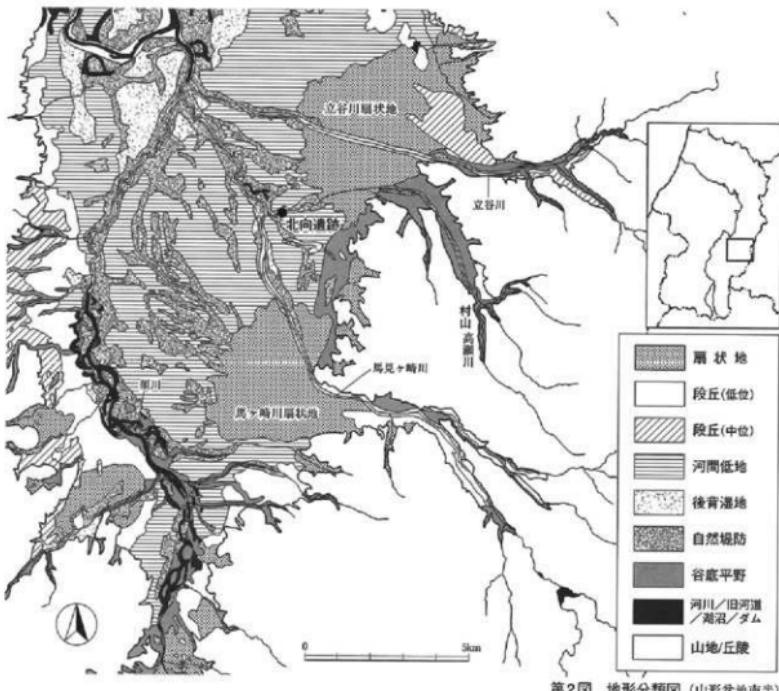


第1図 北向遺跡（第2次）調査概要図

れた。

調査は8月22日から開始された。1次調査との連続性を考慮し、遺構番号を200番台から、また遺物番号を600番台から引き続いて使用するものとし、グリッドも $5m \times 5m$ の大きさで設定し、1次調査を踏襲している。また、調査の便のため、調査区を大きく4区に分け、北側からA～D区を設定した。調査は一次調査に近い北側から順次進め、最初に表土を重機で除き、
調査説明会 遺構の検出、遺構精査の順で行った。調査説明会は10月14日に行われ、約100名の参加者を得た。

その後、事業の計画上、調査区中央より若干西側に道路が拡張されることが判明し、およそ追加調査 $100m^3$ を追加調査することになり、本来の $800m^3$ が終了した後に合わせて調査され、すべての調査は11月17日に終了した。調査面積は全調査で $900m^3$ となった。なお、本調査に当たり、1次調査の主たる所在地は山形市大字風間字北向であったが、今回の調査の主たる所在地が山形市大字青柳字十文字であったため、本調査の所在地を山形市大字青柳字十文字で記載している。



II 遺跡の立地と環境

1 地理的・歴史的環境

北向遺跡が所在する山形市樋山地区は、西流して須川に注ぐ立谷川と、立谷川の南を西流し馬見ヶ崎川に注ぐ村山高瀬川による複合扇状地の扇部に当たる場所である。本遺跡はその村山高瀬川の自然堤防上に位置し、標高はおよそ125mを測る。現在は宅地以外の土地利用としては、果樹園や畑なども多い。

村山高瀬川は流路を変え、時折氾濫を起こしながら上流の土砂などを堆積しており、地形の形成だけでなく、生活と密接に関わっている。後述の通り、本遺跡内でも旧河道と思われる砂礫の堆積や遺構等の覆土に多くの砂礫層が見られ、本遺跡周辺の集落形成と大きく関わるものと考えられる（図2）。



村山高瀬川流域には、すぐ西側の一本木遺跡や、お花山古墳群、浜田館跡など多くの遺跡が自然堤防上に存在する。また、村山高瀬川の流域の自然堤防上にも多くの遺跡が存在し、近くは下柳A、C遺跡、北柳遺跡、更に馬見ヶ崎川の自然堤防上には境田C、D遺跡、七浦遺跡などが存在する。自然堤防下の湿地は、時折襲う洪水により冠水し、適度の肥料分を供給したとされ、弥生時代以降の水田經營による稻作を生活基盤とした社会にとっては、好条件を備えた地域であったと考えられ、例えば鶴遺跡や梅野木前1遺跡などのような水田遺構なども散見される（図3）。同様に、低地への冠水による適度の肥料分の供給は、田畠を經營する上で多くの利益があったものと想像され、従って多くの或いは大規模な集落が形成されたものと考えられ、その1つが本遺跡での集落の形成ではなかったかと思われる。今のところ水田遺構などは本遺跡ないし周辺遺跡では見つかってはおらず、わずかに下柳A遺跡で筑状遺構が見られる程度ではあるが、より多くの調査結果が積み重なっていけば、古墳～奈良・平安時代での農耕のようすや農耕と結びついた生活の有り様なども明らかになるものと思われる。

2 遺跡の層序

南側に傾斜 本遺跡の基本層序は第4回の通りである。地形としては北側が高く南側に傾斜しており、地層も南側に傾斜している。今次調査の調査区は果樹園、あるいはその農道として利用されていた場所に設定された。従って、表土の大部分は果樹園として利用された耕作土であり、また農道などをつくるに当たって他の場所から盛り土された砂礫も多い。

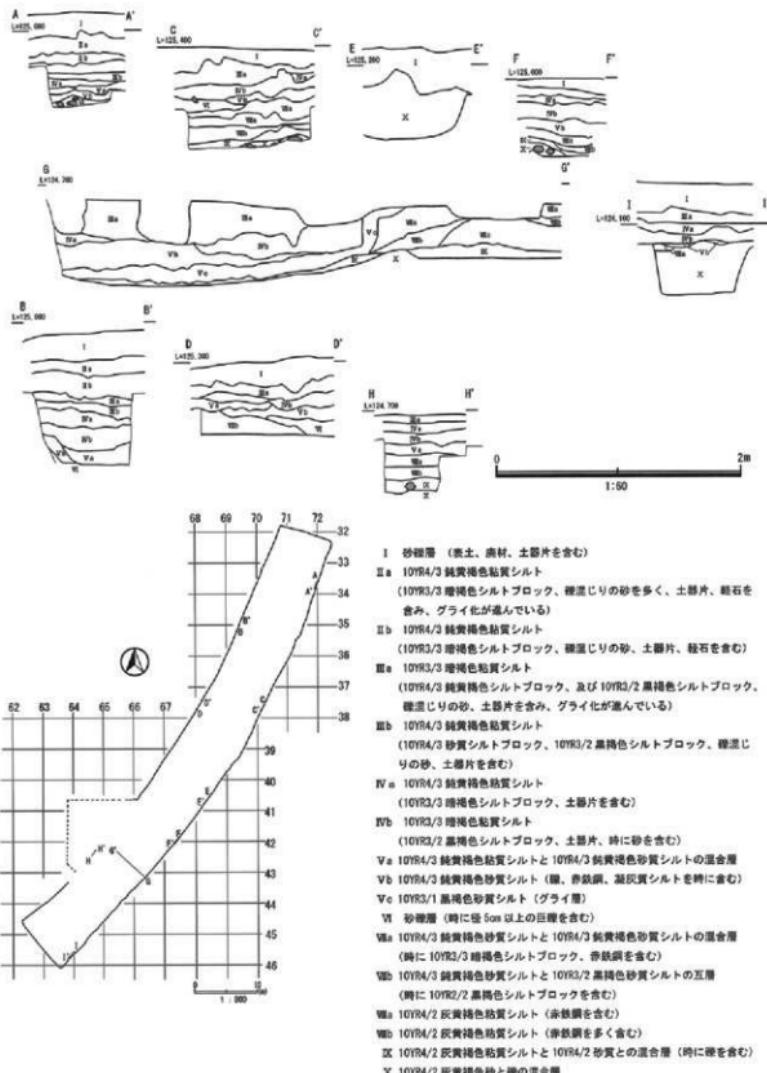
粘質シルト層 表土の層から下の地山までの層は割合一定しており、層厚や土質は微妙に異なるが概ね粘質シルト層である。場所により層を構成する粒子が粗くなったり、或いは大きな礫を含んだりと変化し、その要因も自然堆積と土地利用のための盛り土を含むものと思われるが、それぞれの明瞭な差は見られない。地山の大部分は砂礫を伴う粘質シルトないし砂質シルト層であり、下位層の砂質シルト層を多く含んでいる。地山は粘質シルトと砂質シルトの二層に及び、更に粘質シルト2層（Ⅲ及びⅣ）の間に若干の堆積差を伴うと観察される遺構が見られる。地山の下位層は細粒～粗粒砂層或いは砂礫層であり、上位層の傾斜に関係なく厚く調査区全体を覆っている。また、ところによっては砂礫層が厚く堆積し、直接表土に覆われている部分も見られ、部分的な河川の流水の変化による乱堆積の痕と思われる。

土地利用の時期 特筆しておきたいことは2つあり、1つは前述の通り本遺跡の時期について、2～3回土地利用の時期が考えられることである。例えば、中世溝と呼ぶ溝跡乃至河川跡とその下層を掘り込んでいる遺構の部分、SD440とSB607の関係などからもこのことが伺える。

向斜構造 今1つは、図4の柱状図中央の断面に見られるように、調査区のやや東側に大きな向斜構造が見られることで、調査区の東側付近に大きな河川があったことが推定されることである。この向斜構造を境に東側と西側では土質などの違いが見られ、特に東側では余り見られない粗粒～中流砂層が西側に見られる。従って遺構検出面での土質の違いなどは、この河川の左岸と右岸の堆積物、引いてはかつての地理的構造の違いに起因するものと思われる。

3 遺構・遺物の分布

今次の調査では、豊穴住居跡22棟（住居構のみ検出のもの及び1次調査で確認されたもの



第4図 基本層序

を含む)、掘立柱建物4棟、溝跡、土坑、柱穴跡、性格不明遺構等が検出された。まとめでも後述するように、調査区全体に多くの遺構が検出されたが、北側には柱穴跡等の遺構は見られるものの概して大きな遺構は見られず、南側に多くの住居が重なって検出されるものの柱穴跡などの遺構があまり見られないことが特徴としてあげられる。1次調査では更に北側に多くの住居跡が見つかっており、今次調査区の北側のような、ごくわずかではあるが建物跡の少ない場所が存在することは、集落の成立と構造を考える上で注目して良いことのように思われる。

遺物は箱数にして35箱出土した。平安時代のものと思われる須恵器や土師器などの遺物が大半を占め、わずかに合口甕棺付近から弥生土器や中世の所産と思われる溝跡から中世陶器と思われる破片は出土したが、古墳時代の土器や土器片などは出土しなかった。多くの遺物は堅穴住居跡を主とする遺構に伴って出土しており、覆土から出土した遺物も遺構の分布に沿って出土している。溝跡からも出土しているが、その分布には偏りがあり、かつ住居跡の遺物とおよそ同時期の遺物が出土しており、おそらく溝跡を構築する際に混入したものと考えられる。

III 遺構と遺物

今次調査において検出された遺構は、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡などの古代に属する遺構、及び中世のものと思われる大きな溝跡や土坑などである。これらの遺構や遺物の主なものについて、以下に概略を記す。なお、遺構や遺物についての詳細は図版及び観察表を参照されたい。

1 竪穴住居跡（第10図～22図）

竪穴住居跡は調査区中央から南側にかけて多く検出され、およそ22棟の検出をみた。一部 竪穴住居跡 調査区外にかかるため、部分的な検出に止まつたものもあるが、以下にそれぞれの位置、規模、カマドほかの施設、出土遺物などの概要を記述する。

ST69 竪穴建物跡（第10図）

ST69 竪穴建物跡

調査区北端（72-32グリッド）より検出した。南西隅のみ検出しており、大部分が調査区外に伸びる。平面形は不明だが、検出した部分から隅丸方形を基調とするものと推定される。床面は平坦で固くしまり、部分的に貼床がなされており、壁はほぼ垂直に立ち上がる。主軸方向等は不明であるが、検出面からの深さは6cmを測る。カマドは検出されず、主柱穴は1つだけ検出できた。出土遺物は、須恵器の壺、甕が出土している（38-1～2）。1次調査でも同じ 須恵器 ような結果を得ているが、須恵器壺の底径や立ち上がる角度から考えると、9世紀中葉の所産 9世紀中葉 と考えられる。

ST70 竪穴住居跡（第10図）

ST70 竪穴住居跡

調査区北端（71-32グリッド）より検出した。南東隅のみ検出しており、大部分が調査区外に伸びる。平面形は不明だが、検出した部分から隅丸方形を基調とするものと推定される。床面は平坦で固くしまり、粘質シルトの貼床が全面になされており、壁はほぼ垂直に立ち上がる。主軸方向等は不明であるが、検出面からの深さは14cmを測る。カマドは検出されず、主柱穴なども検出されなかった。出土遺物は、須恵器の壺、高台壺、甕、甕、十郎器の壺、甕、甕が出土している（38-3～17）。おもに須恵器壺の底径、立ち上がりなどを考えると、9世紀前～中葉の所産と考えられる。なお、1次調査での検出と今次調査の大きさを合わせても、1辺が2.5～3mほどの大きさにしかならず、後述するSK206やSK322のような貯蔵穴や工房跡などと思われる土坑と同じような性格の遺構とも考えられるが、それらに比べ出土遺物が比較的多いことから住居跡の性格が強いものと推定される。

ST252 竪穴住居跡

ST252 竪穴住居跡

調査区北側東端（34-72グリッド）より検出した。西辺を僅かに検出するのみで、1辺がおよそ3～4m、検出面からの深さが5cmを測る。検出した部分をみると、方形の住居か、あるいはSK232のような土坑とも想像されるが、大部分が調査区外に伸びるため詳細は不明である。遺物なども出土しておらず、時期なども不明ではあるが、西に近接するSA607などと同じ面から検出しており、覆土も同じ土質であることから、9世紀～10世紀頃の所産と思われる。

ST367 穫穴住居跡 ST367 穫穴住居跡（第10図）

調査区中央（37-69グリッド）、中世溝跡の下から検出された。およそ半分が調査区外に伸びることと、SK366に切られるため、不明な部分も多いが、主軸方向がほぼ南北で、1辺がおよそ2.5mを測る。ほとんど深さがなく、遺物の出土もみられなかった。従って時期も不明ではあるが、切り合いなどから、概ね9世紀頃の所産と考えて良いと思われる。

ST400 穫穴住居跡 ST400 穫穴住居跡（第11・12図）

調査区中央（39-68グリッド）より検出された。平面形が隅丸方形、主軸方向がN6°5'Wで、1辺がおよそ5mを測る。床面は厚さおよそ7～8cmの純黄褐色粘質シルトで貼床され、壁は斜めに立ち上がる。主柱穴6基（EP421、EP540～543、EP545）、その他の柱穴1基（EP544）、煙道のあるカマドが検出された。カマドは南東隅に位置し、煙道の方位がほぼ南、全体に焼土と炭化物の広がりが見られた。カマド袖は破壊されており確かな検出はできなかつたが、芯材に丸い花崗岩と安山岩の礫を使用しており、中央には恐らく土器を埋設したと考えられる小さな凹みも認められた。遺物の多くはカマド及びその周辺から出土している（39-1～40-4）。遺物としては須恵器の壺、有台壺、土師器の壺、甕が出土している。須恵器壺の底径、口径、あるいは立ち上がりを考えて、9世紀中葉頃の所産と思われる。

9世紀中葉 ST425 穫穴住居跡 ST425 穫穴住居跡（第13図）

調査区中央（39-68グリッド）より検出された。一辺が3mの方形で、主軸方向がN2°Wを測る。床面は部分的に厚さ5cmほどの純黄褐色粘質シルトで貼床され、固くしまっていた。柱穴は主柱穴を含め4基検出されたが、カマドなどの付属施設は検出されなかつた。ただし南西隅はST400やSD440に切られていると思われ、しかもSD440の切っているところから多くの遺物が出土していることから、南西角にカマドなどの施設があった可能性もある。遺物はそれ以外のところからはほとんど出土せず、ST400の付属施設だった可能性もある。出土遺物としては、覆土の遺物はあるが、須恵器の壺、甕、土師器の甕がある（40-5～8）。須恵器の壺の立ち上がりとSD440との切り合いから考え、本遺構は9世紀前～中葉の所産と考えられる。

ST460 穫穴住居跡 ST460 穫穴住居跡（第14図）

調査区中央東壁（41-68グリッド）より検出された。平面形は隅丸長方形で、壁が斜めに立ち上がり、長辺が4.4m、短辺が3.6m、主軸方向がN12°Wを測る。カマドや柱穴などは検出されなかつたが、調査区外に伸びると推定される粘土の固まりや焼土が東側に認められたため、おそらくカマドは東壁中央にあったものと推定される。深さは検出面からおよそ20cmを測り、住居直下が乱堆積したと思われる砂礫層であることから明確ではないが、砂礫を多量に含む粘土ないし砂礫を貼床したものと思われる。遺物は床面で潰れた状態で出土したが多く、機種としては須恵器の壺、壺、土師器の壺、甕が出土した（41-1～42-4）。特に土師器の壺、甕が多く、須恵器の割合が少ない。土師器の壺はロクロ整形を行っておらず、内面にミガキ、黒色処理を施した、立ち上がりが垂直に近いものが多く見られ、恐らく供膳形態として多く用いられたものと考えられる。出土している須恵器の有台壺なども考えると、恐らく8世紀後葉～9世紀前期の所産と考えられる。

8世紀後葉～9世紀前期 ST470 穫穴住居跡 ST470 穫穴住居跡（第15図）

調査区中央（41-67グリッド）より検出された。平面形は長方形で、長辺が3.2m、短辺が

2.8m、主軸方向がN16°Wを測る。SD496、SD567に切られており、部分的に貼床と思われる暗褐色シルトも見られ、床面はほぼしまっていた。検出面から床面までの深さはおよそ14cmを測り、壁は斜めに立ち上がる。カマドは煙道のみ検出されたが、ほとんどが壊されており、焼土が僅かに見られただけで遺物の出土なども少ない。主軸方向はN16°Wで住居の主軸方向とほぼ一致する。柱穴は主柱穴が2基確認された(EP546、EP462)。ただし、SB609掘立柱建物跡と同じ時期のものと思われる柱穴が、住居内にも多く検出されており、その中には元々の柱穴を掘り直して使用したと思われる痕跡もあり、主柱穴の数は明確ではない。溝跡に大部分を削平されたためか、出土遺物は少なく、覆土から破片が見つかっただけである。従って営まれた時期などは不明であるが、本遺構と溝跡(SD496、SD567)とST491竪穴住居跡の切り合いの関係とそれら遺構の出土遺物、及びST400と覆土がほぼ同じことを考えると、およそ9世紀中葉頃の所産と思われる。

ST491 竪穴住居跡（第16図）

ST491 竪穴住居跡

調査区中央(42-67グリッド)より検出された。SD496、及びST470に切られ、平面形が隅丸長方形、長辺が3.8m、短辺が3.2m、主軸方向がほぼ磁北、深さはおよそ25cmを測る。床面は部分的に純黄褐色粘土で貼床され、全体としてはややしまり不良であったが、貼床がしまり不良と感じられたのは、SD496による削平されたことも原因の一つと思われる。主柱穴は1つ検出され(EP527)、それ以外の付属施設などは検出されなかった。SD496に切られている中央部分に焼土や炭化物が見られたことを考えると、カマドは南辺中部につくられていた可能性があるが検出されなかった。出土遺物は多くはないが、須恵器の壺、土師器の壺、甕が出土している(43-1～4)。中でも、墨書きされた須恵器の有台壺(43-1)が見つかっている。 ■ 書出土遺物から考えて、9世紀前半の所産と思われる。

ST492 竪穴住居跡（第17図）

ST492 竪穴住居跡

調査区中央(42-66グリッド)より検出された。ST532に切られ、そのため西壁が削平され必ずしも明確でないが、平面形が長方形で一辺が約2.8m、主軸方向がN10°Wの竪穴住居跡と推定される。検出面からは深さが10cmで、壁は斜めに立ち上がり、床面は部分的に純黄褐色粘土で貼床されていた。柱穴やカマドは検出されなかったが、床面を一部掘り込んでつくられたと思われる土坑(SK568)が検出された。土坑(SK568)に連なる形で、カマド状の構造物(EL578)が見つかっており、SK568と段のようなものがあるなど構造上やや問題もあるものの、EL578はSK568に付属する施設と推定される。EL578からは小型甕の破片と思われる土器(58-12、13)が出土しており、EL578でちょっとした煮炊きをしたと考えられるが、構造が小さくまた他のカマドも検出されないため、明確な用途などは不明である。出土遺物としては、須恵器の壺、土師器の壺、甕など数点がわずかに出土した(43-5～16)。ただし検出面に近く、すぐ近くに土器を捨てるなどの目的で掘られたと思われる土坑(SK627、SK629など)があるため、流れ込みの可能性もある。従って時期は明確ではないが、ST532竪穴住居跡の出土遺物やST491竪穴住居跡と同じ土層に当たると思われる覆土であることから、9世紀前～中葉の所産と思われる。

ST504 竪穴住居跡（第18図）

ST504 竪穴住居跡

調査区南側(43-65グリッド)より検出された。SD581及びSD585、SD496に切られ、長辺

が5.2m、短辺が5.0m、主軸方向がN8°Eを測る。今次調査区の中では平面形の最も大きな住居跡である。床面は部分的に粘質シルトで貼床され、深さは40cmを測る。付属施設として柱穴は見つかっていないが、カマド跡と思われる炭化物や焼土が僅かに東辺中央に見つかっており、おそらくカマドが東壁中央にあったものと推定されるが、SD581に削平されたためか検出できなかった。遺物としては、須恵器の壺、壷、土師器の壺、甕の他、石匙が出土した（44-1～45-10）。ただし覆土より出土した遺物が多く、特に溝跡付近からの出土が多いため、流れ込みの可能性も低くはないと思われるが、床面より出土した須恵器壺（44-1）などから考へ、9世紀中葉～後葉の所産と思われる。

ST528・ST530竪穴住居跡（第19図）

調査区南側（64-44グリッド）より検出された。ST530竪穴住居跡はST528竪穴住居跡の中を掘り込んでつくられたと思われる。ST528竪穴住居跡は從って辺々の僅かな部分を検出しただけであり、遺物なども少ない。

ST528竪穴住居跡

ST528竪穴住居跡は平面形が長方形で、長辺が4.6m、短辺が3.8m、主軸方向はN5°Wを測る。僅かではあるが、SD585に北東隅を、SK595土坑に西辺を切られている。柱穴、カマドなどの付属施設は検出できなかったが、南東角におそらくカマドの構築材として使用された暗褐色の粘土の固まりが見つかったため、南辺西部に合った可能性がある。ただし、その周間に炭化物や焼土は見つけられず、また明らかな煙道跡と思われる部分も見られなかった。すぐ傍にST530竪穴住居跡のカマド（EL614）が存在することから、EL614カマドの構築材が、ST528竪穴住居跡に流れ込んだ可能性もある。遺物としては、須恵器の壺、土師器の壺、甕が出土している（46-1～6）。出土遺物の中でも特に須恵器の壺の底径や立ち上がりから考えて、8世紀末～9世紀中葉の所産と思われる。

ST530竪穴住居跡

ST530竪穴住居跡は平面形がほぼ隅丸長方形で、長辺3.6m、短辺3.0m、深さは45cm、主軸方向がST528竪穴住居跡とはほぼ同じN6°Wを測る。床面は純黄褐色砂質シルトで貼床され、しまりがよい。柱穴は検出されず、カマドは南辺西隅に検出された（EL614）。また、住居跡中央付近には粘土でできた僅かな高まりがあり、焼土、炭化物が多く見つかっている。鉄滓も出土したことから、製鉄などの作業をしたり、煮沸したものなどを置いたり、炉として使用した可能性などが考えられる。出土遺物は中央粘土の固まり、カマドの付近から多く出土しており、機種としては須恵器の壺、有台壺、甕、土師器の壺、甕等がある（48-1～50-5）。破片ながら墨書き土器（48-1）も出土した。なお、覆土から出土した遺物はST504出土の遺物と接合するものがあり、同じ時期の住居跡の可能性を示す例として考えて良いと思われる。時期としては、出土遺物の特に須恵器の壺の底径や立ち上がりなどから、9世紀後葉～10世紀初期の所産と考えられる。なお、ST528竪穴住居跡の内側をST530の形で掘り込んで段を設けただけで、同じ住居跡である可能性も考えたが、出土遺物やST528の床面のしまりがよいことなどから、別の住居か、あるいはつくり変えたものと考えた。

ST522・ST523・ST597竪穴住居跡（第20・21図）

調査区南側（63-44グリッド）から検出された。ST522竪穴住居跡はST523竪穴住居跡に、ST523竪穴住居跡はST597竪穴住居跡に切られる形で検出された。

ST523竪穴住居跡

ST523竪穴住居跡は南辺及び東西辺の一部が検出された。平面形がほぼ長方形と推定され、

東西4.2m、南北2.2m、主軸方向がN9°Wを測る。貼床はされておらず純黄褐色粘質シルトの地山を床として利用したものと思われる。主柱穴として3基検出された（SP611、SP612、SP641）。カマドは見つかっていないが、SP611付近に多くの遺物が出土したこと、及び南辺の東部が後の削平を受けていることから、この辺りにカマドがあり、後に壊されたものと考えたい。遺物は須恵器の双耳有台坏、有台坏、土師器の壺、及び船状石製品が見つかっている（47-4～7）。船状石製品は、他の類例が散見できず、用途が不明である。出土遺物が少ないため明確ではないが、有台坏の底径及び立ち上がりや切り合いを考慮すると、9世紀前葉の所産と考えられる。

ST522 壓穴住居跡は、東辺の一部と南辺の一部が検出された。平面形は隅丸長方形と推定され、大きさは不明であるが、南北方向で3.8mを測る。深さは検出面から20cmを測り、ST523 壓穴住居跡と同様貼床はされておらず純黄褐色粘質シルトの地山を床として利用したものと思われる。柱穴などは検出されなかったが、カマドの袖の一部を構成していたと思われる粘土の固まりと、煙道のような溝状の部分が検出された。ただし、煙道のような溝状の構造物がそのままカマドであると、東西方向の辺が極めて短いことから、おそらく破壊されたカマドの一部が場所を変えて検出されたものと思われる。床面には多くの焼土や炭化物が散っており、遺物もその中から出土している。出土遺物としては須恵器の坏、土師器の坏、壺が出土している（46-8～47-3）。切り合いや須恵器の坏の底径、立ち上がりなどから9世紀初頭～中葉の所産と思われる。

ST522 壓穴住居跡

ST597 壓穴住居跡は北辺周囲以外の部分が検出された。平面形は不整形で、南北3.7m以上、東西3.0m、主軸方向がN3°5'Wを測る。床面は砂礫層の上に薄く褐色粘質シルトの貼床がされ、比較的しまりはよい。付属施設として柱穴は検出されなかったが、カマドは南辺東部に検出された。ただし、袖石として利用されたと思われる被熱した安山岩はバラバラな状態になってしまっており、カマドらしいつくりは見られず、後に壊されたものと思われる。出土遺物は覆土、床面の遺物とも多く、須恵器の坏、蓋、壺、土師器の坏、壺が出土した（51-6～53-6）。中には刻書土器も見られる（52-4）。營まれた時期については、赤焼土器（52-1～6）から考えると9世紀中～後葉と考えるのがもっとも妥当と思われる。なお、底径の大きな須恵器杯（51-6～10）は9世紀前半まで遡るものであり、古い時期の遺構に伴うものと考えられる。

ST597 壓穴住居跡

ST589・ST591 壓穴住居跡（第22図）

南西端（45-63グリッド）より検出された。北東辺の一部しか検出しておらず、大部分が調査区外に伸びるため、平面形、規模、主軸方向などは不明である。いずれの住居跡も床面は貼床されておらず、純黄褐色粘質シルトの地山を床に利用していたものと思われ、壁は斜めに立ち上がる。ST591 壓穴住居跡はST589 壓穴住居跡の内側を掘り込む形で検出し、床面の土質が違うことなどから、別の住居と考えたが、必ずしも明確ではない。遺物としては、ST589 壓穴住居跡の壁際から、須恵器の坏、土師器の坏、壺が出土している（51-1～5）。須恵器の坏の底径、立ち上がりから考えて、9世紀後葉の所産と思われるが、更に今後の調査で詳細は明らかになると思われる。

ST591 壓穴住居跡

ST589 壓穴住居跡

ST599 壓穴住居跡（第22図）

ST599 壓穴住居跡

南東端近く（45-64グリッド）より検出された。大部分が調査区外に伸びるため、詳細は不

明であるが、平面形は隅丸方形と推定され、主軸方向はN10°Wを測る。床面は黒褐色砂質シルトの地山を床に利用していたと思われ、壁はほぼ垂直に立ち上がる。主柱穴などは検出されなかったが、カマドの煙道のみ北辺西部に検出された（EL600）。焼土、炭化物は見つかったが、カマドを構築していたと思われるようなものや、構造を示す痕跡などは一切検出されていない。遺物としては土師器の壺（53-7）、その他甕の小片のみ出土した。從って営まれた時期などは明確ではないが、土師器の壺の底径、立ち上がりなどから、9世紀代の所産と考えられる。

ST488・ST532・ST616竪穴住居跡

中央西櫛際（41-64～65グリッド）より検出された。一部はその前に検出されたが、大部分は追加調査により検出・調査されたものである。ST488竪穴住居跡にST532竪穴住居跡が切れ、ST488竪穴住居跡がST616竪穴住居跡に切られる関係で検出された。いずれの竪穴住居跡も溝跡（SD567）に切られている。

ST532竪穴住居跡 ST532竪穴住居跡は南辺の一部と東辺の一部が検出され、北側をSD567溝跡とST488、西側をST616に切られる。平面形は方形と推定され、東西が3.2m以上、南北が6m以上、主軸方向がほぼ方位北を測る。今次調査の中ではおそらくもっとも大きな竪穴住居跡である。床面は鈍黄褐色粘質シルトと砂質シルトの混合層の地山を利用しており、壁はほぼ垂直に立ち上がる。貼床は検出されなかった。面積がわずかに大きいあってか、柱穴やカマドなどの付属施設は検出されなかった。ただし、南辺の西寄りから比較的多くの遺物が出土しているため、南辺中西部にあったと推定されるが、明確ではない。遺物としては須恵器の壺、有台壺、土師器の杯、甕が出土している（53-8～13）。特に土師器の杯（53-12）は時代的に比較的古く、本住跡が早い時期から営まれていたことを示すものと推定される。須恵器の壺なども底径が大きく、このことから、8世紀～9世紀前葉の所産と考えられる。

ST488竪穴住居跡 ST488竪穴住居跡は南辺の一部と東辺の一部が検出され、北側をSD567溝跡に、西側をST616竪穴住居跡に切られている。平面形は隅丸方形と推定され、東西が2.5m以上、南北が3.3m以上、主軸方向がST532と少しずれてN4°Wを測る。床面は直床で、壁面は斜めに立ち上がる。柱穴は全部で3基検出され（EP632、EP633、EP646）、カマドは検出されなかった。ただし、その後に設営されたと思われた柱穴跡も見つかっている。遺物はほとんど覆土の遺物であり、床面から出土したものは小片のみであるが、須恵器の壺と土師器の瓶が検出された（42-5～6）。從って時期は明確ではないが、切り合いかから考え、9世紀前～中葉の所産と思われる。

ST616竪穴住居跡 ST616竪穴住居跡は、平面形が長方形で、南北が5.7m、東西が4.9m、主軸方向がN4°Wを測る。床面は鈍黄褐色乃至暗褐色粘質シルトで貼床され、壁はほぼ垂直に立ち上がる。主柱穴は6基（EP638、EP639、EP641、EP635、EP644、EP645）、貯蔵穴は2基（EK627、EK629）検出された。ただし、ST616竪穴住居跡にはその後につくられた、おそらく捨て場としたであろう土坑が検出されている。カマドは、その後に掘られた土坑（SK624）により壊されていたが、焼土や炭化物、あるいは構築材と思われる粘土の固まりの検出により、北辺中央にあったものと確認された。遺物としては、須恵器の壺、甕、土師器の壺、甕が、貯蔵穴と思われる土坑などから出土している（54-1～12）。須恵器壺の底径や立ち上がり、土師器壺の底径や底部

の調整技法及び切り合いなどから9世紀後葉～10世紀初頭の所産と思われる。

2 捜立柱建物跡（第24～25図）

捜立柱建物跡は4棟検出した。それ以外にも調査区北側から中央部にかけて多くの柱穴跡を検出し、特に調査区中央には、深さや理土が同じことから、おそらく同じ時期に掘られたと思われる柱穴跡も見られたが、積極的に捜立柱建物と認知できる組み合わせは見いだせなかった。ここでは、検出を見た4棟と、1次調査で検出された1棟について位置、規模などを列挙する。

SB156 捜立柱建物跡

SB156 捜立柱建物跡

1次調査南側（本次調査区北側、32-72グリッド）で検出されている。ただし、南西角の柱穴が、1次調査区外のため、検出できなかったものである。今回その部分についても調査を行ったが積極的に該当する柱穴は見られない。ただし、SK201～SK203土坑の中央に柱根の落ち込みと思われる痕が存在すること、及び位置がほぼ一致することから、土坑との関係は不明ではあるがおそらくSB156を構成するものと考えて良いと思われる。ただし、出土遺物もなくそれ以外の詳細については不明である。

SB601 捜立柱建物跡（第24図）

SB601 捜立柱建物跡

調査区北東端（33-72グリッド）より検出された。半ばが調査区外に伸びるため全体の詳細は不明であるが、梁行が3間で桁行が2間以上、柱間が $1.7m \sim 1.9m$ 、主軸方向が $N11^{\circ}5'W$ を測る。総柱と思われるが、全体が検出されていないため不明である。柱穴掘方の径は様々であるが、平面形は概ね東西方向に伸びた梢円形を呈し、SP219柱穴跡を除いては約30cm内外の深さを測る。特にSP216柱穴跡とSP217柱穴跡は荷重による落ち込みも見られる。遺物などは出土していないが、ST69竪穴住居跡と交差する位置にあり、かつST69竪穴住居跡と同じ覆土からなることから、ST69竪穴住居跡と前後する9世紀前葉か後葉のいずれかの時期の所産と考えられる。

SB605 捜立柱建物跡（第24図）

SB605 捜立柱建物跡

調査区中央（35-70グリッド）より検出された。一部は中世溝跡ないし河川跡上にあり、検出されなかつたが、梁行2間、桁行3間の建物と推定され、柱間が桁行で $1.4m$ 、梁行で $1.8 \sim 1.9m$ を測る。主軸方向が $N26^{\circ}W$ を測り、柱穴掘方はおよそ様々であるが、比較的角張った長方形に近い平面形を呈し、深さが検出面からおよそ $20cm$ を測る。総柱の建物ではないため倉庫などの用途で建てられたものではないことは考えられるが、それ以上のことは不明である。SA608などと同じ深さで掘られており、覆土も同じ土質であることから、同じような時期の建物跡と考えられる。

SB609 捜立柱建物跡（第25図）

SB609 捜立柱建物跡

調査区中央（40-67グリッド）より検出された。一部は調査区外に伸びており、全体の詳細は不明であるが、梁行3間、桁行2間以上と推定される。柱間が $1.2 \sim 1.4m$ 、主軸方向が $N5^{\circ}E$ 、柱穴掘方の径がほぼ $50cm$ を測り、梢円形を呈する。総柱の建物と考えられるため、倉庫等の使用目的が考えられるが、遺物などもなく明確には不明である。SD440溝跡を切り、SD440溝跡の周囲にある柱穴なども切って建てられていることから、SD440溝跡より時期を置いて建てられたと考えられる。そのことから、おそらく9世紀末～10世紀以降の所産と思われる。

SB610掘立柱建物跡 SB610掘立柱建物跡（第25図）

追加調査を行った調査区西側（41-65グリッド）より検出された。SD567に沿って柱穴跡が並んでおり、北側が調査区外に伸びるため詳細は不明であるが、掘立柱建物跡かあるいは杭列・柵列のようなものではないかと推定する。桁間は3間で、柱間がほぼ1.4mを測る。SD567の縁を切っており、そのためSD567より新しく建てられたことが分かるが、SD567そのものの時期も9世紀末以降と不明確であり、時期は不明である。

3 杭列・柵列（第26図）

杭列 杭列ないし柵列は3本検出された（SA606～SA698）。いずれも集中した場所で、かつ平行に検出されたため、同じ時期・目的のものと考えてよいと思われる。いずれも構成する柱穴の掘方はさまざまで、深さは10cm～30cmを測る。個々の土質はやや違いがあるものの純黄褐色粘質シルトの地山に黒褐色～灰褐色シルトの覆土であり、平面形が南北に長い梢円形もしくは方形を呈する。中には溝状を呈するもの（SD244）もあるが、方向や位置から一連の柱穴跡と同じ時期に同じ目的で掘られたものと考えてよいと思われる。おそらく垣根のような場所を区画する目的で設けられた杭列と推定されるが、どの建物を隔てる目的だったかは明確ではないため、柵列の可能性もある。遺物としてはSK224土坑から須恵器の壺（58-11）が出土しており、その底径と立ち上がりから9世紀中～後葉の所産と考えられる。

4 溝 跡（第28～32図）

溝跡は規模のごく小さいものを除き17条検出された。その内、他の遺構を構成していると考えられるもの（例えばSD244など）を除き、主立ったものの概略を列記する。なお、本来の水路等に用いられただろう溝跡と設けられた目的の異なる遺構は、本来別に扱うべきものと思われるが、推定の域を出ないため、ここに合わせて記しておく。

中世溝跡 中世溝跡

調査区北側（37-69グリッド）に推定される。調査区を東西に横切り、東側、西側とも調査区外に伸びるため明確ではないが、長さは9m以上、幅が5.0mと推定され、検出面からの深さは40cmを測る。底面よりST367竪穴住居跡などの遺構が検出され、出土遺物としては中世陶器、須恵器の壺と思われる破片のみが出土している（62-7～8）。このことから12世紀以降の溝跡ないし河川跡と思われるが、それ以上の詳細は不明である。

SD390溝跡 SD390溝跡（第28図）

調査区中央（38-68グリッド）より検出された。長さが3.6m、幅が0.5mで、検出面からの深さは20cmを測り、北から緩やかに南西に曲がる。4基ほど柱穴跡を伴っており、ST400を切るが、ほとんど壁から伸びているような形状を呈する。遺物などは出土していないが、形態からみて、おそらくST400に付属する道路跡乃至通路跡ではないかと推定する。

SD407、SD410、SD419溝跡（第26図）

調査区中央、ST400竪穴住居跡の南側（39-68～40-69グリッド）より検出された。SD407溝跡は長さが4.3m、幅が0.3m、検出面からの深さが10cm、SD410溝跡は長さが6.4m、幅0.3m、検出面からの深さが20cm、SD419溝跡は長さが2.4m、幅0.4m、検出面からの深さが0.15cm

を測る。いずれも直行する溝であり、それぞれ平行する。深さ及び形状から、おそらく同時期に同じ目的をもって設けられたものと推定できる。遺物の出土がほとんどないため、時期などは不明であるが、ST400 竪穴住居跡と同じ面から掘られていること、位置などから見て、同じ時期に、おそらく杭列や柵列を設ける目的でつくられたものと推定される。

SD440 溝跡 (第29図)

SD440 溝跡

SD440 溝跡は調査区中央西部際 (39-68 ~ 41-67 グリッド) より検出された。長さが 12.5m、幅が 1.0m、検出面からの深さが 25cm を測り、緩やかな S 字を描く平面形を呈する。ST400 竪穴住居跡及び ST425 竪穴住居跡を切り、SB609 据立柱建物跡やその他の柱穴跡に切られる。柱穴跡は 2 層になっており、SD440 は SB609 の 2 時期前に設けられたことが分かる。ただし、それが短い期間なのかどうかは明確ではない。出土遺物は ST425 より流れ込んだ遺物と思われる遺物も少なくないが、須恵器の壺、甕、横瓶、土師器の甕、内黒土師器の壺が出土している (55-1 ~ 7)。ほとんどが覆土の遺物であるが、比較的底面近くから出土していたのが須恵器壺 (55-1) である。このことや切り合いなどから、9世紀末以降の所産と考えられる。

SD567 溝跡

SD567 溝跡

調査区中央 (41-64 ~ 67 グリッド) より検出された。西側部分が調査区外に伸びるため、詳細は不明であるが、長さが 15.6m 以上、幅は 0.4 ~ 1.3m、検出面からの深さが 15cm を測り、東西に伸び直行する溝跡である。SD496、ST460、ST470、ST616 竪穴住居跡などを切り、SK624 に切られる。どの住居跡等の遺構とも併存しないことから、つくられた目的などは不明である。また、覆土には砂礫をほとんど含まないが、SD567 を切る SK624 土坑からは砂礫が検出されており、流水して使用したらしいことが分かるが、それ以上は不明である。遺物としてはロクロ調整された土師器の壺、甕が出土している (56-8 ~ 9)。出土遺物及び ST616 や SK624 との切り合いの関係から、9世紀後葉～10世紀初頭の所産と思われる。

SD496、SD566 溝跡

SD496、SD566 溝跡

SD496 溝跡は調査区中央 (41-66 ~ 43-65 グリッド) から検出された。長さが 16.9m で、幅が 0.4m ~ 2.5m と推定され、検出面からの深さは 20cm を測る。SD567 溝跡に切れ、ST470 竪穴住居跡、ST491 竪穴住居跡、ST504 竪穴住居跡などを切る。ST470 竪穴住居跡との切り合いの部分より、底に大きな糠の混じる部分が見られ、そのことから流水して使用したと思われる。出土遺物としては須恵器の壺、甕、土師器の壺、甕などが出土している (55-8 ~ 56-5)。SD567 溝跡や ST504 竪穴住居跡との切り合いなどから、9世紀末以降の所産と思われる。

SD566 溝跡は同じく調査区中央西部際 (41-67 グリッド) より検出され、長さが 1.5m、幅が 0.5m、検出面からの深さが 15cm を測り、直行する。SB609 据立柱建物などに切られる。柱穴跡による切り合いが多いため明確ではないが、位置やつながりからみて、SD496 溝跡の一端を構成するものと推定される。従って、時期的には SD496 溝跡と同じく 9世紀末以降の所産と思われる。

SD581、SD582、SD585 溝跡

SD581、SD582、SD585 溝跡

調査区中央東側から調査区東西に横切り調査区南側西部にかけて (43-64 ~ 43-65 グリッド) 検出された。検出に沿ってそれぞれ番号を付したが、調査の結果同じ遺構であると判明した。北側部分及び南側部分とも調査区外に伸びるため詳細は不明であるが、遺構全体では長

き21m以上、幅が0.7~1.0m、深さが40~45cmを測り、北から直行し、そのまま直行する部分（SD581）と緩やかに屈曲して南西に伸びる部分（SD581~SD585）に分岐している。ST504を切り、ちょうど刃をかすめる形になるため判然とはしなかったが、ST528堅穴住居跡を切る。出土遺物としては須恵器の壺、有台壺、甕、壺、土師器の壺、有台壺、甕などが出土している（56-10~58-10）。須恵器の壺、有台壺は底径が小さく、底面の調整技法なども平安時代後半の様相を呈していることから、10世紀以降の所産と思われる。

5 土坑・性格不明遺構（第33~37図）

土坑は37基検出された。特に追加調査部分での集中が見られた。主な土坑と性格不明な遺構について概略を列記する。

SK201・202・203土坑（第33図）

調査区北側（32~71グリッド）で検出された。SK201は、長軸約1.2m、短軸約1.0mのほぼ円形の遺構で、柱穴と考えられる掘り込み部分の深さは検出面から約30cmである。遺物は、SK201土坑でのみ土師器、須恵器片数点が出土している。重複関係は、古い順にSK202→SK203→SK201となっている。

SK205土坑（第33図）

調査区北側（32~71グリッド）で検出された。西半は調査区外にあり全体の規模は不明であるが、壁際での長さは約45cmでST70の南端を切る。出土遺物はない。

SK206土坑（第33図）

調査区北側（32~70グリッド）で検出された。西半は調査区外にのびているため、全体の規模は不明である。壁際での長さは約1.5mの方形の遺構で、検出面からの深さは約20cmを測る。底面はほぼ平坦で貼床があることから、貯蔵用の施設の可能性がある。遺物は、土師器の甕などが数点出土している（58-7~10）。時代は奈良時代~8世紀後半と推定される。

SK209・210土坑（第33図）

調査区北側（33~71グリッド）で検出された。ともに出土遺物はない。SK209は、長軸が約2.8m、短軸約1.6mの方形の遺構である。検出面からの深さは約12cmである。覆土は一層で、人為堆積とみられる。床面はほぼ平坦で貼床が検出されたことから、貯蔵用の施設の可能性がある。SK210は、長軸が約1.7m、約1.2mの東西に長い楕円形を呈する。検出面から最も深いところで約12cmを測り、SK209とはほぼ同じ深さとなっている。

SK320土坑（第34図）

調査区北側（34~70グリッド）で検出された。長軸約1.2m、短軸約0.5mの不定形を呈する。底面は平坦で、検出面からの深さは約10cmである。出土遺物はない。

SK500土坑（第34図）

調査区中央（42~67グリッド）で検出された。遺構検出時は、調査区外の東方面にのびる住居跡の可能性もあるのではと考えたが、平面形や規模などから土坑扱いとした。壁際での長さは約1.2m、深さは約20cmで、底面からの壁の立ち上がりは緩やかである。覆土から土師器の甕が出土している（58-16）。甕の外面にはロクロの調整痕が認められ、9世紀ごろのものとみられる。

SK590 土坑（第37図）

SK590 土坑

調査区南側（45 - 64 グリッド）で検出された。長軸約1.0m、短軸約0.9mの円形の遺構で、検出面からの深さは約30cmある。遺物は、土師器、須恵器の壺の一部などが数点出土している。

SK595 土坑（第37図）

SK595 土坑

調査区南側（44 - 64 グリッド）で検出された。長軸約2.9m、短軸約0.6mの南北に細長い遺構で、検出面からの深さは約25cmである。ST522・528の境に位置し両者を切っている。遺物は、須恵器の壺と壺が出土している（58-14～15）。壺の底部の切り離しはヘラ切りで、平安時代、9世紀初めごろのものと思われる。

SK622・624・625・626 土坑（第36図）

SK622・624・
625・626 土坑

調査区西側（41 - 64 グリッド）で検出された。いずれの土坑も ST616 を切っている。SK622は長軸約2.0m、短軸約0.9mの楕円形の遺構で、検出面からの深さは20cmである。SK624は、長軸約2.2m、短軸約1.8mの楕円形の遺構で、検出面からの深さは約20cmである。SD567を切っており、溝側の部分と底面には溝跡が残っている。SK625は、長軸約1.4m、短軸約1.2mのはば円形の遺構で、検出面からの深さは約20cmである。SK626は、長軸約2.0m、短軸約1.7mのはば円形の遺構で、検出面からの深さは約30cm、底面は平坦である。

出土遺物は、須恵器の壺・甕、内黒土師器の壺、土師器の甕などがある（59-1～10）。須恵器の壺の底部の切り離しが糸切りで底径が小さいことや、内黒土師器の壺に小さな台がつくことなどから、時期は9世紀後半ころと思われる。底面および覆土中にも土器片が多く含み、所により土器が固まって出土していることからも、これらの土坑は捨て場として作られた可能性が高い。

SX456・457（第34図）

SX456・457

調査区中央（40 - 68 グリッド）で検出された。SX457がSX456を切り、また両遺構とも旧河道に切られている。SX457は、直径が40cm程の柱穴とも考えられるような掘り込みの遺構で、検出面からの深さは約15cmである。遺物は、外面全体に縁が付着した土師器の甕が出土している（61-6）。

SX494（第35図）

S X 4 9 4

調査区中央（42 - 66 グリッド）で検出された。SD496に切られ、全体の規模は不明である。溝跡に接する位置に底面からの深さが30cm程の円形のくぼみがあり、水成堆積と思われる粘土質シルトが見られた。

SX497（第35図）

S X 4 9 7

調査区中央（43 - 65 グリッド）で検出された。ST504とSD496に切られ、全体の規模は不明である。検出された部分に限って見ると、長いところで約4.8mの方形を呈し、検出面から深いところで約55cmを測る。底面は、ST504に向かって緩やかな傾斜をなしている。

SX529（第37図）

S X 5 2 9

D区44 - 63 グリッドで検出された。ST522内に位置する、長軸約1.6m、短軸約1.3mの楕円形の遺構で、検出面からの深さは約20cmである。SX529からさらに20cm程掘りこんだ EU574を含む。そこからは獸骨が一体分発見され、地元の方の話などを総合すると昭和初期

ごろに埋めた馬の骨と考えられる。

6 その他の遺構・遺物

合 口 壺 1～5で述べた以外に検出された遺構に、合口壺を出土した掘り込み（SH533）がある。

S H 5 3 3 SH533は調査区北側（69-37 グリッド）中世溝跡の縁から検出された。全体は砂礫の層を掘り込んで土師器の壺の口を合わせて埋設されており、墳墓ないし祭祀的なものとしてつくられたものと思われる。合口に用いられたのはロクロ調整された土師器の長胴壺で、底に網代痕と思われる痕が見られ、体部にはカキメがある（62-1～2）。煤痕が見られることから、煮沸用の転用壺を転用したと考えられ、調整技法などから9世紀中頃の所産と思われる。同じ出土面から土師器（赤焼土器）の坏、弥生土器片、縞刻のある火山灰（軽石）が出土した（62-3～5）。流れ込みによるものか、副葬の意味があったかは不明ではある。なお、合口壺に流れ込んでいた覆土を使ってリン・カルシウム分析を行ったところ、ややリンの値が高い傾向が見られたが、骨が埋められたなどの痕跡を推し量れるほど優位な結果とはならなかった（付図参照）。

それ以外の遺物としては、柱穴跡から出土した須恵器や土師器の坏などがある（61-7～9）。いずれも底径と立ち上がりから、9世紀後葉以降の所産と思われる。

IV まとめ

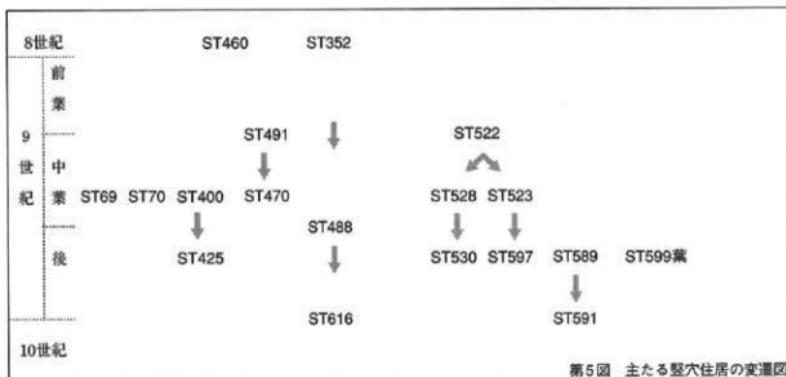
以上、遺構・遺物について概略を述べた。ここでは調査全体から、遺構・遺物について概観できることを述べてまとめに変えたい。

1次調査では今次調査区の北側に31棟の竪穴住居跡が、折り重なるように検出されている。ところが、ちょうど途切れたように調査区北側には竪穴住居跡の検出がほとんどなく、代わりにSK209のような土坑やSA608のような杭列（ないし柵列）が検出された。SK209のような土坑がどのような役割を集落の中で担っていたかは今のところ明らかではないが、山形市教育委員会の調査が本次調査と重なるように行われ、同じような土坑が検出されていることと、今後更に南側部分の調査も行われる予定であるので、それらの資料を蓄積していく中で明らかになってくる部分もあるうと思われる。ここでは、2次調査の北側の部分から竪穴住居跡がほとんど見られない空白の部分が見られることを指摘しておく。

中央～南側に検出された主な竪穴住居跡について、その構築時期をまとめると第5図のようになる。ただし、本報告では主に須恵器の壺を中心として時期を特定している。これは、「「底径の縮小化や器高の増大化に時期的な変化の方向性」が認められる」（阿部他・2004）ことに由来する。このような年代観が正しいとすれば、今次調査の竪穴住居跡、引いては本集落は8世紀末～9世紀一杯に營まれたことになる。また、切り合った住居が見られることから建て替えなどが行われた可能性も高く、従って短い期間の中で集落の建て替えが（第5図に従えば3～5回）行われた可能性がある。また、ST460やST597竪穴住居跡のような遺物を床面から多く出土するものと、ST470竪穴住居跡やST491竪穴住居跡のようなほとんど床面からは出土しない住居の2種類が見られる。これは廃絶した際の理由の違いなのか、あるいはこの時期に生活した人によるのか、旧河道の近くの自然堤防上に營まれていることと関係はないのか、等々いくつか理由は考えられるものの明確な証拠は見つけられないが、本遺跡を含めた地史と

8世紀～9世紀一杯

建て替え



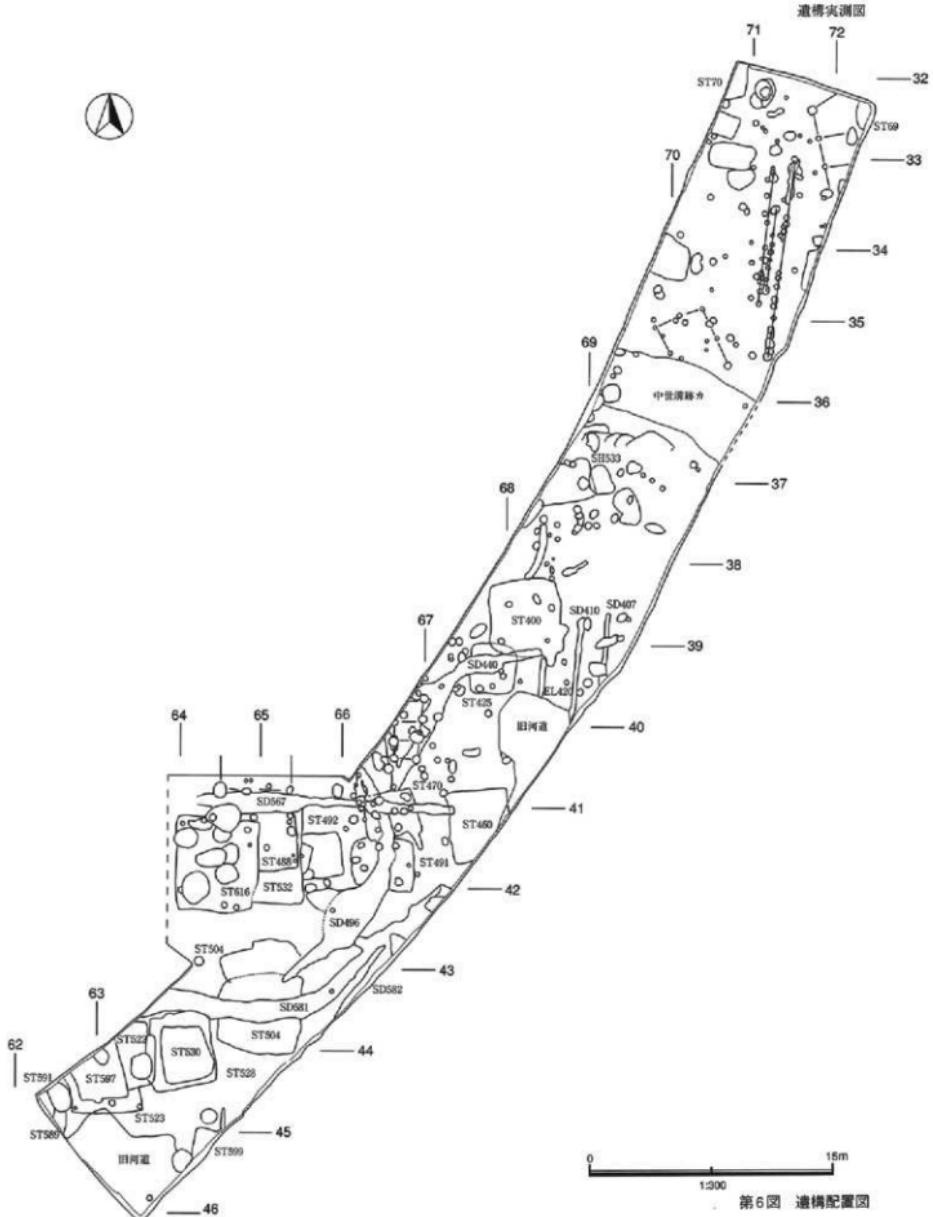
関わって考慮に加えてよいと思われる。

今次調査で出土した遺物を概観すると、須恵器と土師器が共伴しており、かつ土師器の中では内黒土師器の割合がやや高い。今回実測できた遺物の坏及び有台坏で言えば、全体の44.9%が坏ないし有台坏であるが、そのうち須恵器が23.0%、土師器が21.9%、土師器のうち内黒が実測した土器全体の14.2%にのぼる。当時の供膳形態土器の供給がどのようになされていたのかは不明な点であり、これがどのようなことを意味するかは分からぬが、調査の結果として報告しておきたい。

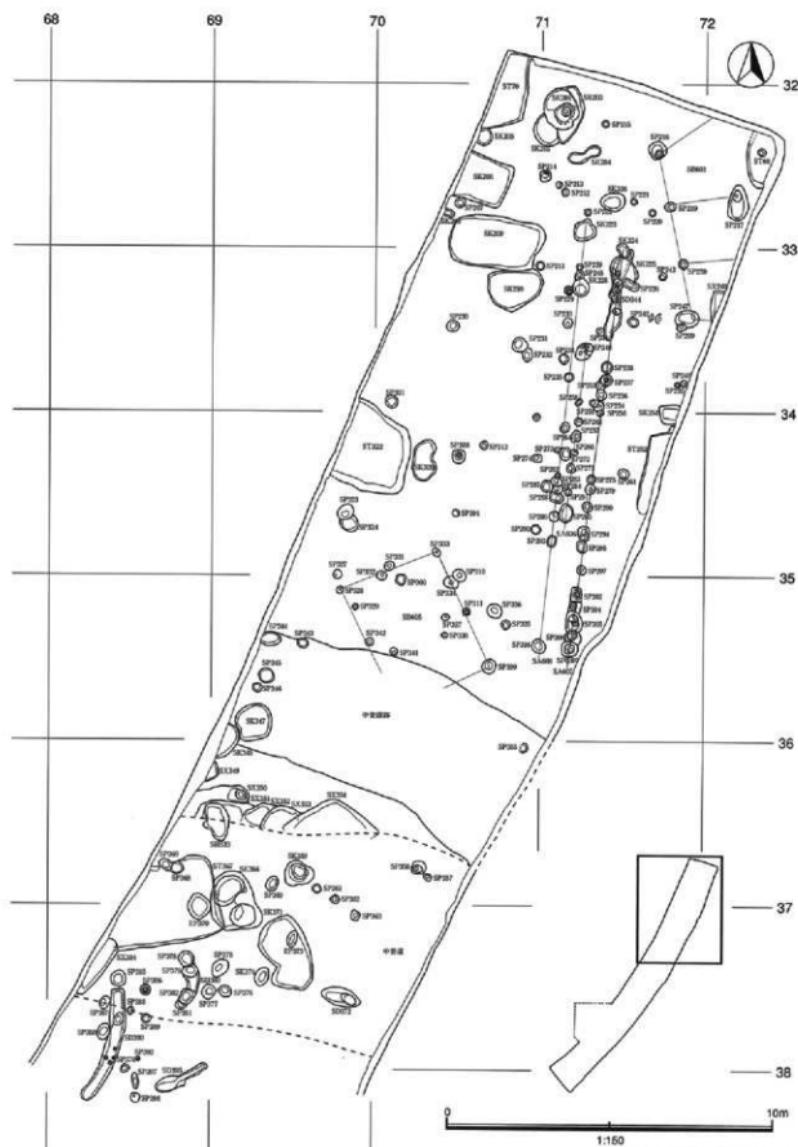
参考・引用文献

- | | | |
|------------------|------|--|
| 財団法人山形県埋蔵文化財センター | 1987 | 『お花山古墳群発掘調査報告書』 |
| 財団法人山形県埋蔵文化財センター | 2005 | 山形県埋蔵文化財調査報告集第108集
『向河原遺跡第5・6次発掘報告書』 |
| 財団法人山形県埋蔵文化財センター | 2004 | 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第141集
『遠藤寺遺跡第3次発掘調査報告書』 |
| 阿部・水戸 | 1999 | 山形県埋蔵文化財センター調査報告書第127集
『山形県の古代土器編年』第25回古代城櫓官衙遺跡検討会資料
城櫓官衙遺跡検討会 |

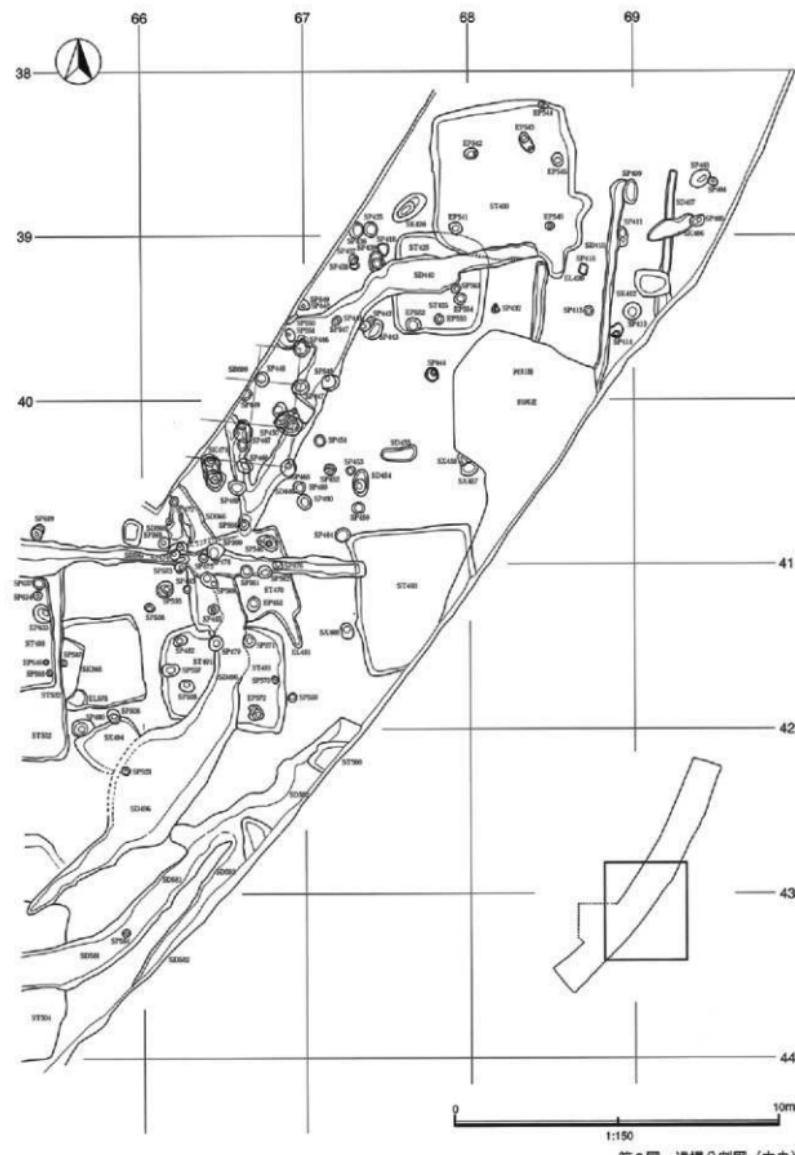
遺構実測図



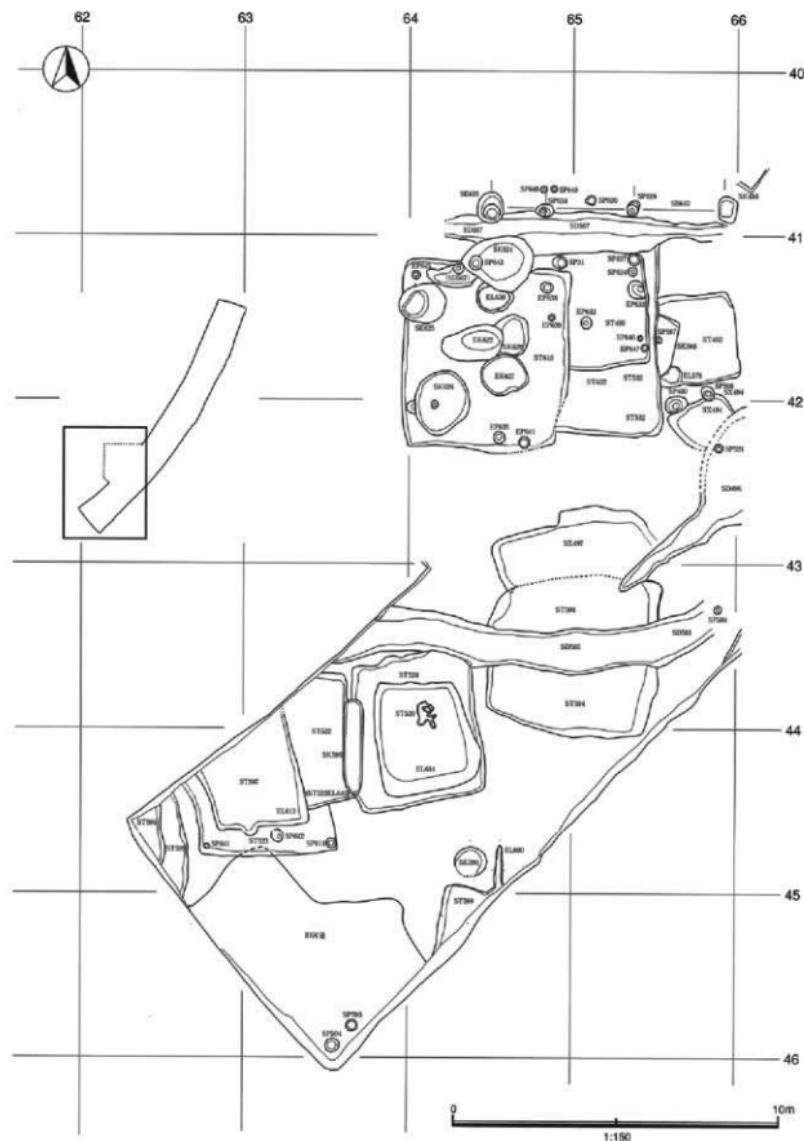
第6図 遺構配図



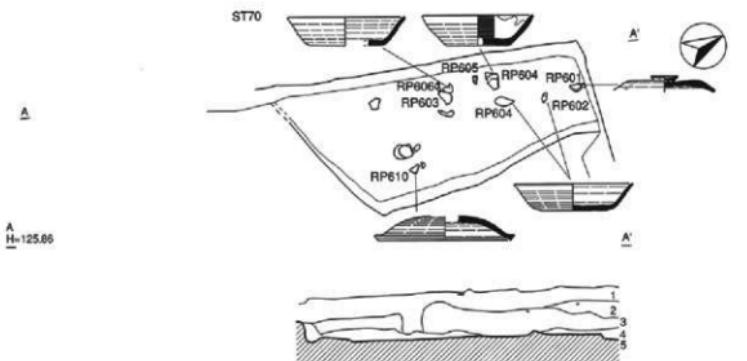
第7図 遺構分割図（北側）



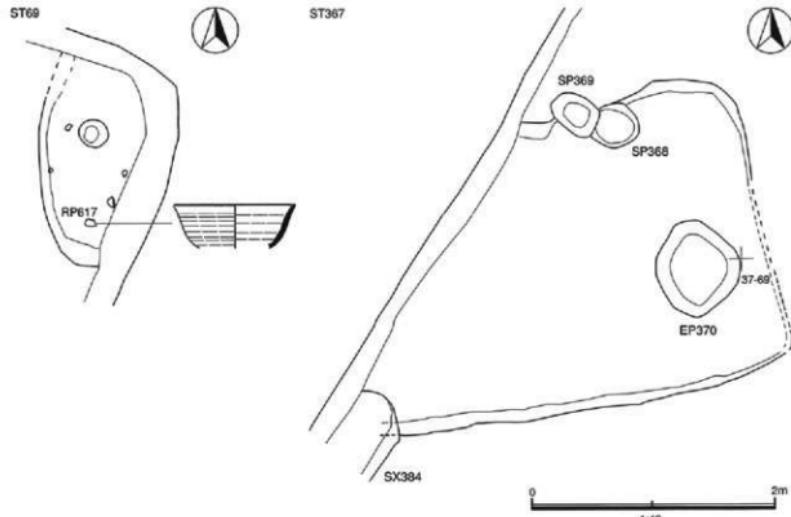
第8図 造構分割図（中央）



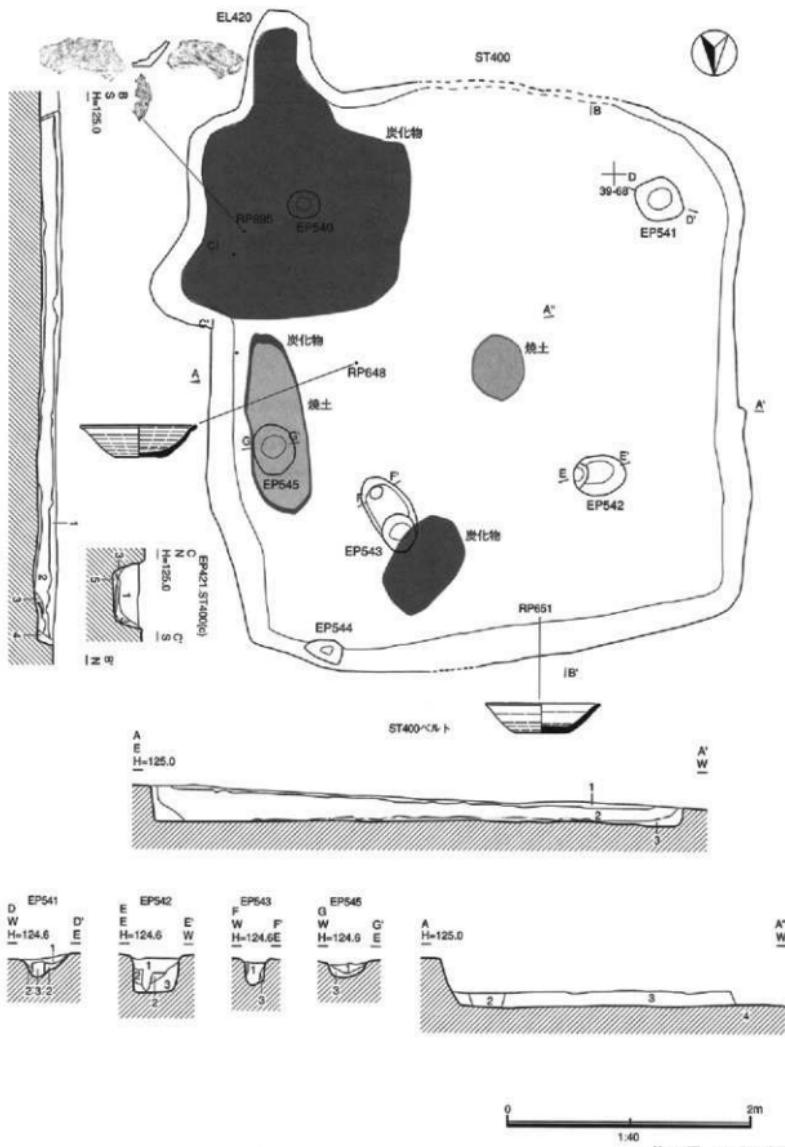
第9図 遺構分割図（南側）



- 1 . 7.5YR3/2 黒褐色粘質シルト 10YR2/2シルトブロック（植物灰）が約10%程度、10YR4/3 シルトブロックが約5%、石英・長石等の砂粒、及び ヘマタイト微量混入
- 2 . 7.5YR3/2 と 10YR3/3 單褐色粘質シルトの混合層
- 3 . 10YR3/3 單褐色粘質シルト 10YR3/2シルトブロック（植物灰）が約5%、長石粒を中心とする砂粒が約10%混入
- 4 . 10YR3/3 單褐色粘質シルト 地床と思われる。ヘマタイトが約7%混入
- 5 . 10YR4/3 黄褐色粘質シルト 10YR3/3 シルトブロック（植物灰）が約5%、ヘマタイトが略に混入



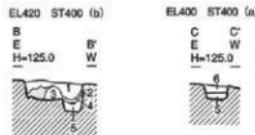
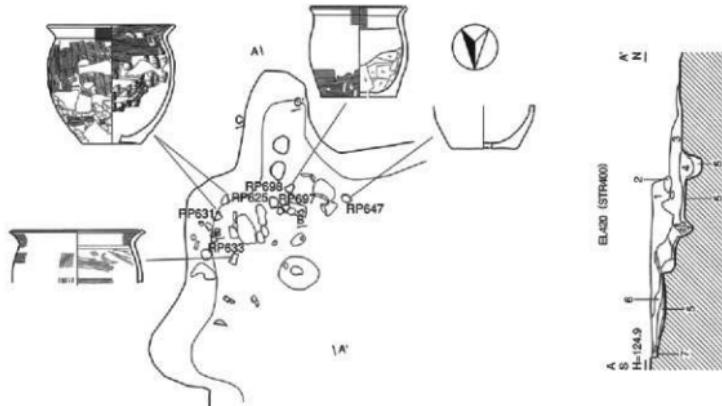
第10図 ST69、ST70、ST367



第11図 ST400 (1)

A - A', B - B'

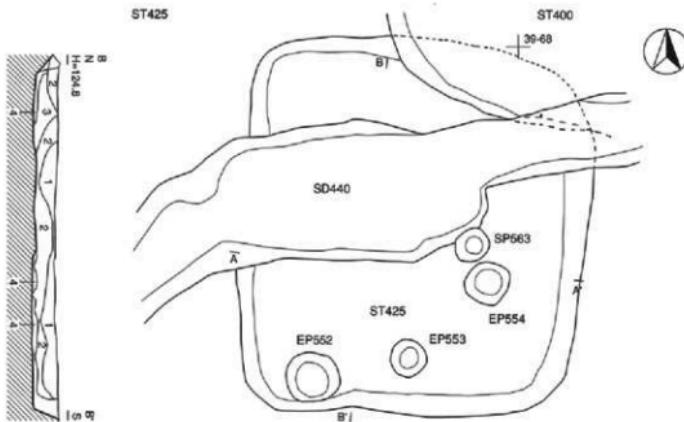
1. IOYR4/3純黄褐色粘質シルト 砂混じり (径 1mm ~ 3mm)、植物根が間に混入、しまり良し
2. IOYR4/3純黄褐色粘質シルト IOYR3/2黒褐色粘質シルトブロック (植物根) 径 3mm 位を多量に、根に土器片、焼土 (径 5cm 以下、7.5YR4/6 間色)、炭 (径 5cm 以下) を含む
3. IOYR5/4 純黄褐色粘質シルト IOYR4/3純黄褐色シルトブロック (径 1cm 度) を複数に、焼土、灰、土器片等時に含む (底床) しまり良し
4. IOYR5/4 純黄褐色砂質シルト IOYR4/3純黄褐色シルトブロック (植物根) を含む
- C-C'
1. IOYR4/3純黄褐色粘質シルト IOYR2/3粘質シルトブロック (径 20mm、植物根) 伊勢・御剣混在 (径 5mm 以下) (石英・其石) 土器片混在 (微量)
2. IOYR2/3粘褐色粘質シルト IOYR5/4純黄褐色シルトブロック (径 2 ~ 3mm) (火山灰) 灰・焼土 (5YR4/6 間色) 土器片混在 (微量)
3. IOYR5/4純黄褐色粘質シルト
- D-D', E-E', F-F', G-G'
1. IOYR4/3純黄褐色粘質シルト IOYR2/3純褐色シルトブロック (径 1 ~ 2cm) を底に、土器片、灰・焼土 (5YR4/6 間色)、砂、雜を若干含む
2. IOYR4/4褐色粘質シルト IOYR2/3純褐色 ~ 10YR4/4褐色シルトブロックを底に、10YR3/2純褐色シルトブロックを若干混入
3. IOYR4/4褐色粘質シルト IOYR4/3純褐色シルトブロック (径 1cm 以下) 砂り底付と同じ土質
4. IOYR5/4純黄褐色砂質シルト IOYR2/3純褐色シルトブロック (植物根) を若干混入 地山の土



H-H' ~ J-J'

1. IOYR4/3純黄褐色粘質シルト IOYR2/3黒褐色粘質シルトブロック (径 5mm 以下)、
IOYR5/4純黄褐色シルトブロック (径 2 ~ 3mm、火山灰?)、
砂板を若干、灰・焼土微細に含む しまり良し
2. IOYR2/3純褐色粘質シルト IOYR2/2黒褐色粘質シルトブロック (径 5mm、植物根) IOYR4/6褐色シルトブロック
(径 1cm 以下、火山灰?)、砂板を若干、燒土、灰を微量に含む。しまり不良
3. IOYR2/4褐色粘質シルト 烧土 (径 3mm 以下)、灰 (1mm × 2mm) を多量に、土器片を若干含む しまり良し
4. IOYR2/4褐色粘質シルト
5. IOYR4/4褐色砂質シルト
6. IOYR4/3純黄褐色粘質シルト IOYR3/4褐色シルトブロック (植物根) を底に、焼土、灰を微量に含む。しまり良し
7. IOYR4/4褐色砂質シルト 砂板を若干、焼土、灰を微量に含む





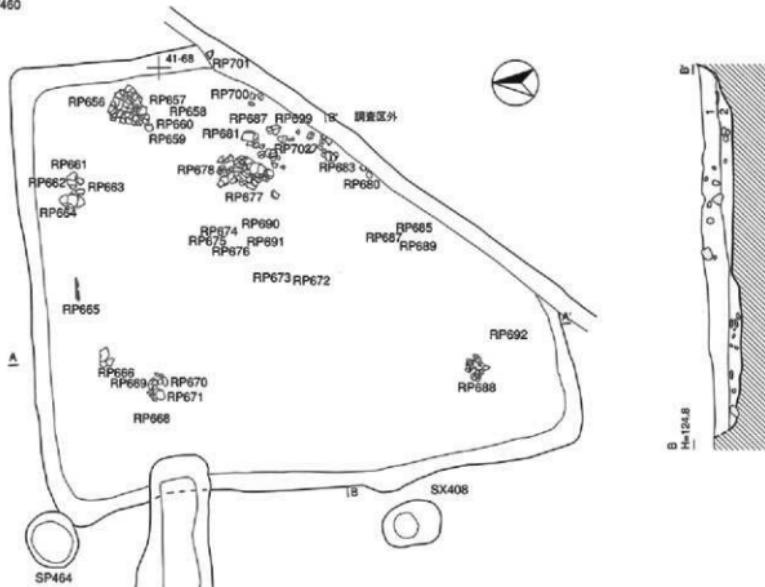
A-A', B-B'

- 1 10YR4-2純黄褐色粘質シルト 10YR3-3暗褐色シルトブロックを間に含む
- 2 10YR4-2純黄褐色粘質シルト 10YR5-3暗褐色砂質シルトブロック、10YR3-3暗褐色シルトブロック（径1~3 cm）を間に含む
- 3 10YR5-3純黄褐色砂質シルト 10YR3-3暗褐色シルトブロック（植物根）を間に、細胞じりの砂粒（石英、長石粒）を微量に含む
- 4 10YR5-3純黄褐色砂質シルト 10YR3-3暗褐色シルトブロック、細胞じりの砂粒を微量に含む



第13図 ST425

ST460

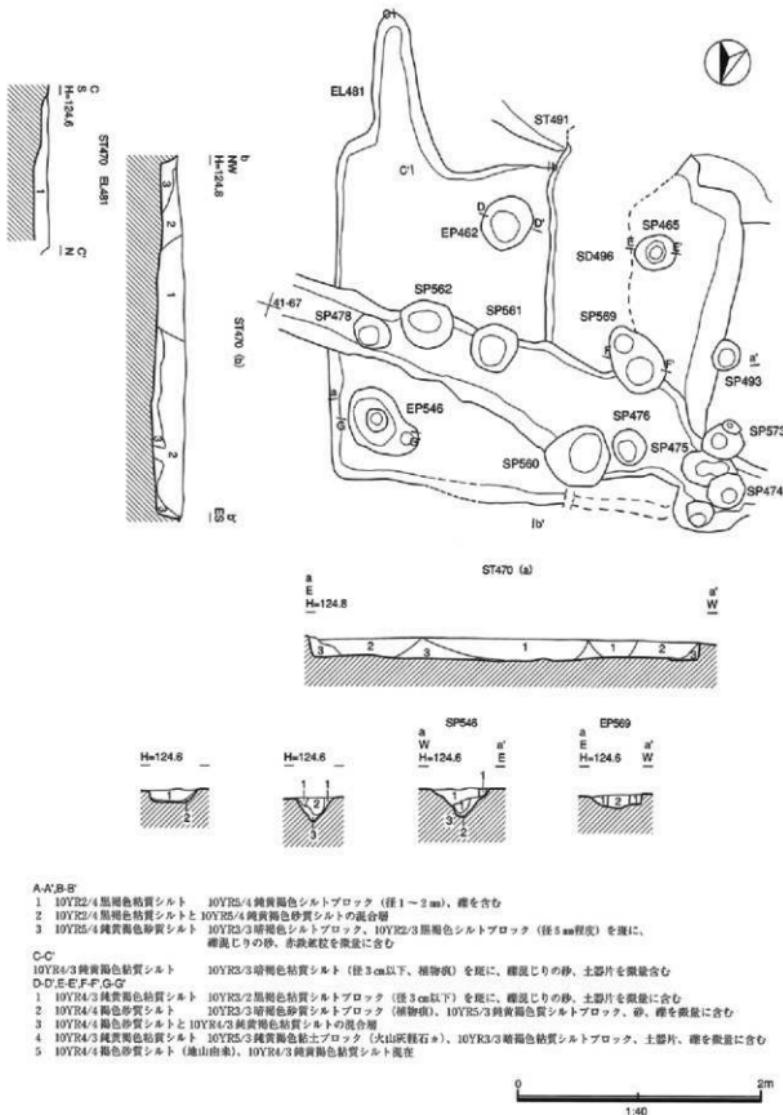


A-A', B-B'

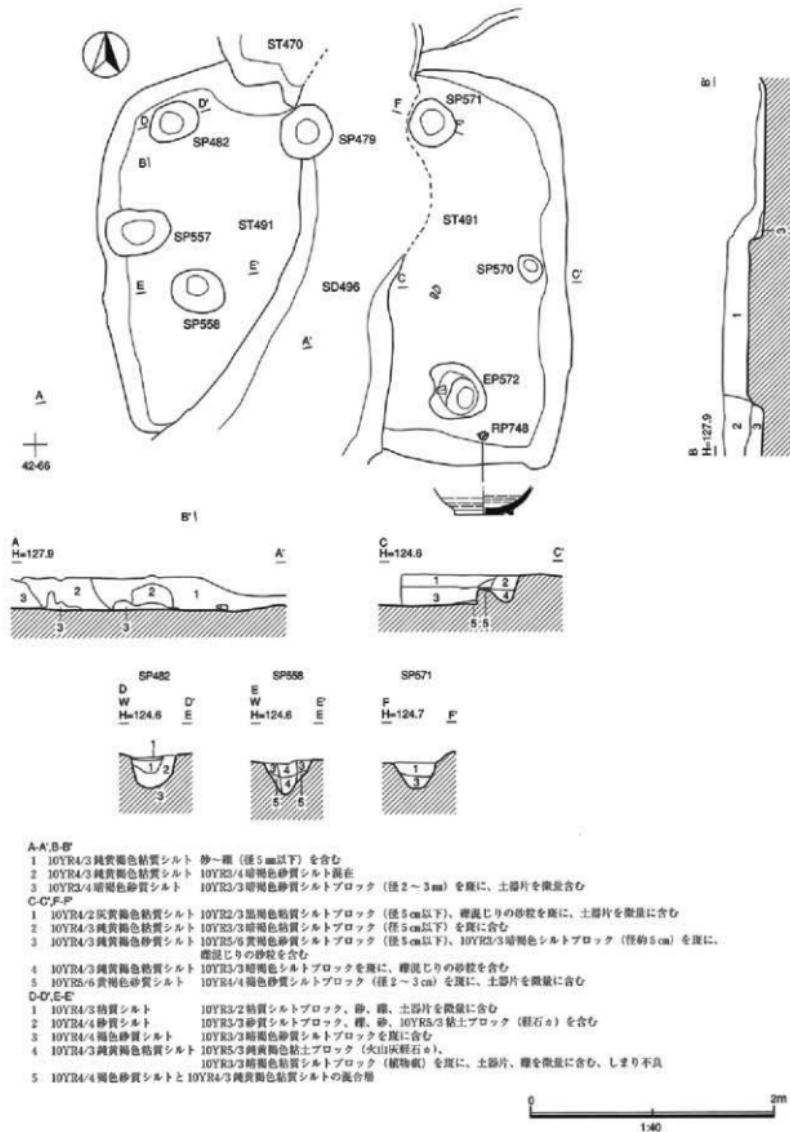
- 1 10YR4/3暗赤褐色粘質シルト 10YR3/3暗褐色シルトブロック (径1mm程度) 砂～繊混入 (径2・3mm以下) を産に含む しまり不良
- 2 10YR3/3暗褐色粘質シルト 繊混じりの砂粒 (径10mm以下)、土壟片を含む 植土、炭を微量に含む しまり不良
- 3 10YR3/4暗褐色砂質シルト 10YR3/3暗褐色シルトブロック (径2・3mm)、植土 (5YR4/4暗赤褐色)、炭を含む



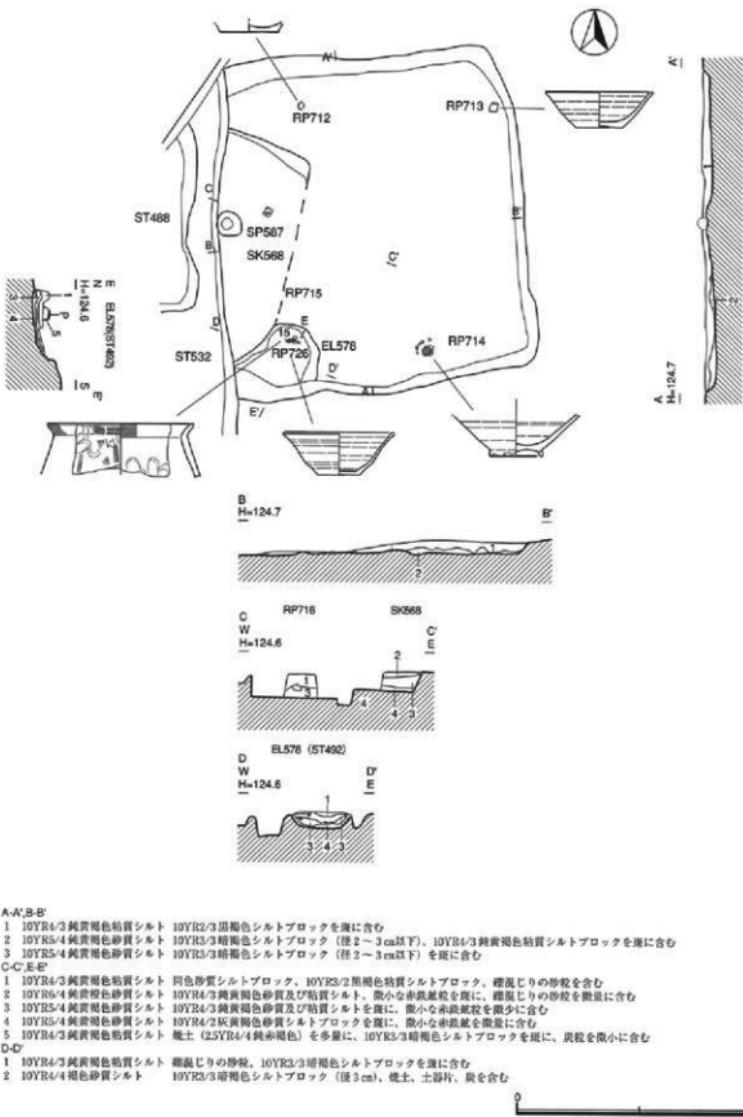
第14図 ST460



第15図 ST470

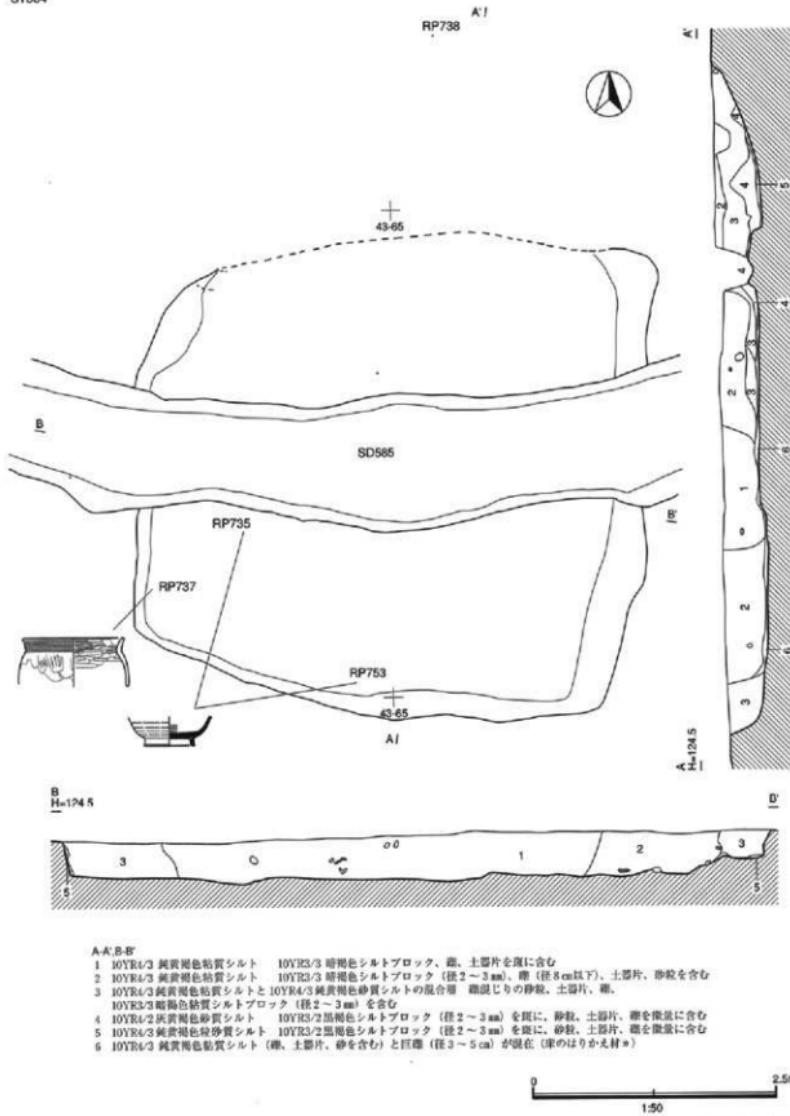


第16図 ST491



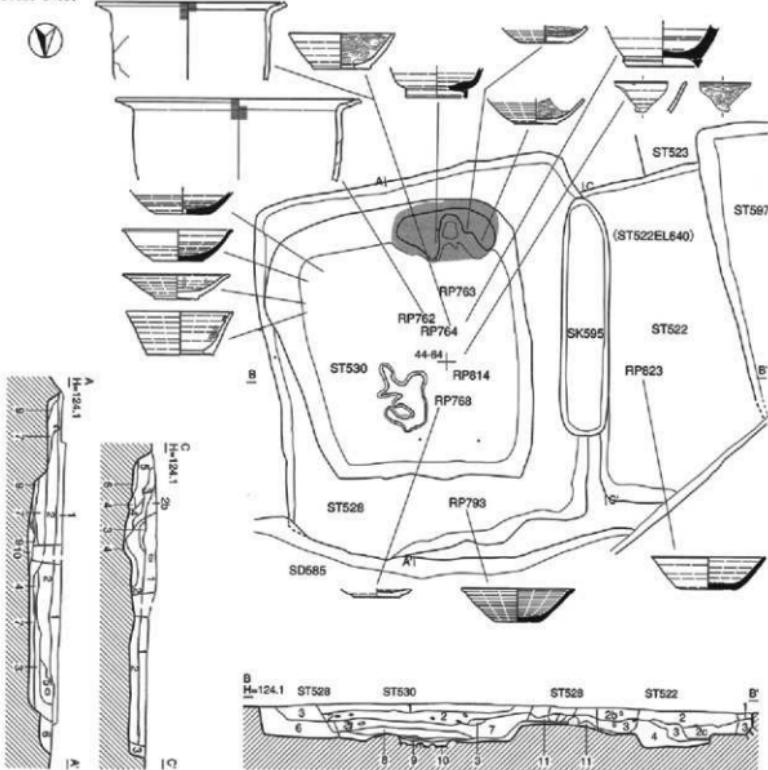
第17図 ST492

ST504



第18図 ST504

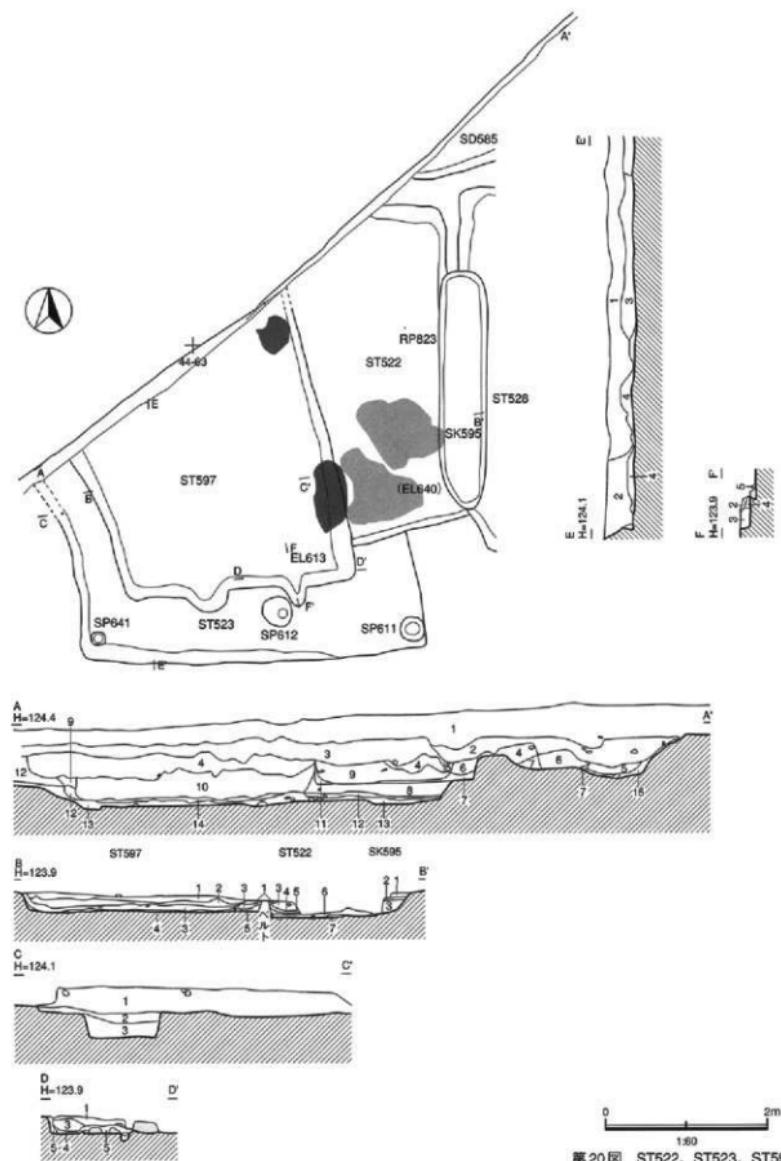
STS28-ST530



A-A'-C-C'

- 1 10YR4/2灰褐色粘質シルト 糜混じりの砂。土器片を微量に、10YR3/2暗褐色シルトブロックを含む
2 b 10YR4/3灰褐色粘質シルト 糜混じりの砂。土器片、炭を微量に、10YR3/3暗褐色シルトブロックを微量に含む
2 c 10YR4/2灰褐色粘質シルト 10YR4/3純黄褐色粘質シルトの混合
3 10YR4/3純黄褐色粘質シルトと10YR4/3純黄褐色粘質シルトの混合 石英を多く、成土を微量に含む
4 10YR4/2純黄褐色粘質シルト 10YR4/3純黄褐色粘質シルトの混合 砂土を多く、成土を微量に含む
5 10YR4/3純黄褐色粘質シルト 糜混じりの砂。土器片を微量に、10YR3/2暗褐色シルトブロックを微量に含む
6 10YR4/3純黄褐色粘質シルト 糜混じりの砂。土器片を微量に、10YR3/2暗褐色シルトブロックを微量に含む
7 10YR4/3純黄褐色粘質シルト 10YR4/3純黄褐色粘質シルトブロック、10YR3/3暗褐色シルトブロックを微量に含む
8 10YR4/3純黄褐色粘質シルト 10YR3/3暗褐色シルトブロック、成土を微量に含む
9 10YR4/3純黄褐色粘質シルト 10YR4/3純黄褐色粘質シルトブロック、成土を微量に含む
1 0 10YR4/2灰褐色粘土 石英、瓦石の粉粒を多く含む、礁は安山岩が多く、河川堆積物
1 1 砂礫層
B-B'
- 1 10YR4/3純黄褐色粘質シルト 10YR3/2暗褐色シルトブロック、糜混じりの砂、土器片を含み、グライ化が進んでいる
2 10YR4/3純黄褐色粘質シルト 10YR4/3純黄褐色粘質シルトブロック、10YR3/2暗褐色シルトブロック、糜混じりの砂、土器片を含む
3 10YR4/3砂質シルト 10YR4/3純黄褐色粘質シルトブロック、10YR3/2暗褐色シルトブロック、糜混じりの砂、土器片を含む
4 10YR4/3砂質シルトと10YR4/3砂質シルトの混合層
5 10YR4/3砂質層
6 砂礫層 10YR4/3純黄褐色粘質シルトと径2~3cm以下の礁の混合層

第19図 ST528、ST530、ST522



第20図 ST522、ST523、ST526

A-A'

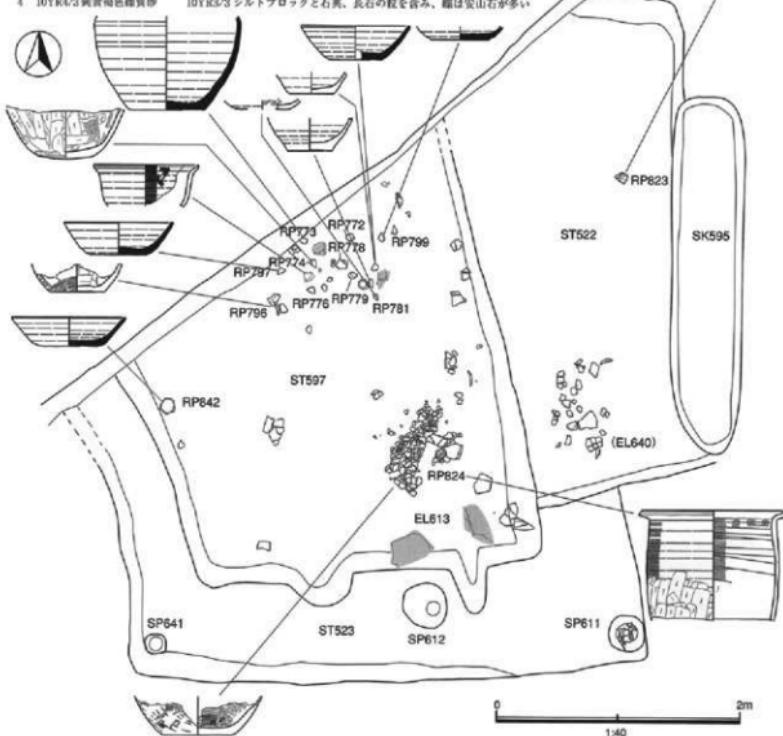
- 1 IOYR3/3暗褐色粘質シルト
- 2 IOYR4/3純黄褐色粘質シルト
- 3 IOYR3/3暗褐色粘質シルト
- 4 IOYR3/3暗褐色粘質シルト
- 5 IOYR3/3暗褐色粘質シルト
- 6 IOYR4/3暗褐色粘質シルト
- 7 IOYR4/3暗褐色粘質シルト
- 8 IOYR4/3純黄褐色粘質シルト
- 9 IOYR4/3純黄褐色粘質シルト
- 10 IOYR4/3純黄褐色粘質シルト
- 11 IOYR4/3純黄褐色粘質シルト
- 12 IOYR4/3純黄褐色粘質シルト
- 13 砂鉄層 (IOYR4/3純黄褐色粘質を底に、時に径5cm以上の柱状石を含む)
- 14 IOYR4/4褐色粘質シルト
- 15 IOYR4/2灰褐色粘質シルトと IOYR4/2砂質層、時に礫を含む

B-B'

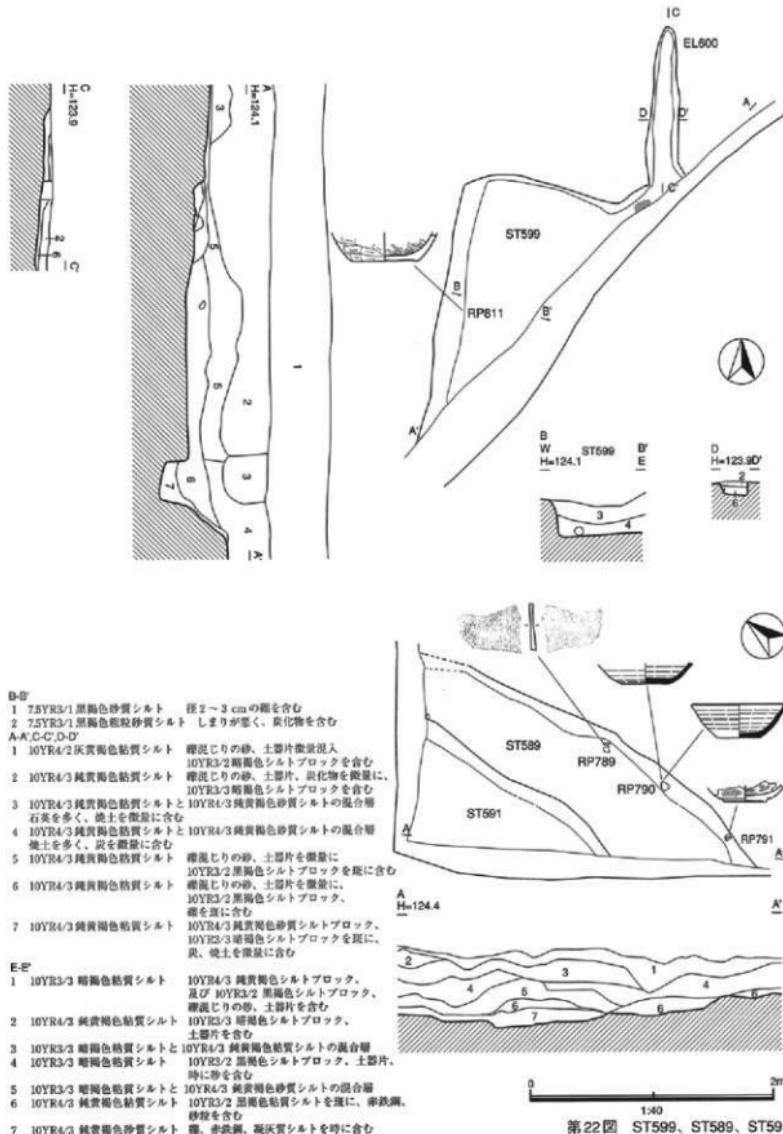
- 1 IOYR4/3純黄褐色粘質シルト
- 2 IOYR4/3純黄褐色粘質シルト
- 3 IOYR4/3粘質シルト
- 4 IOYR4/3砂質シルト
- 5 IOYR4/3粗粒砂質シルト
- 6 SYR4/3シルト
- 7 IOYR2/3粘質シルト

D-D'

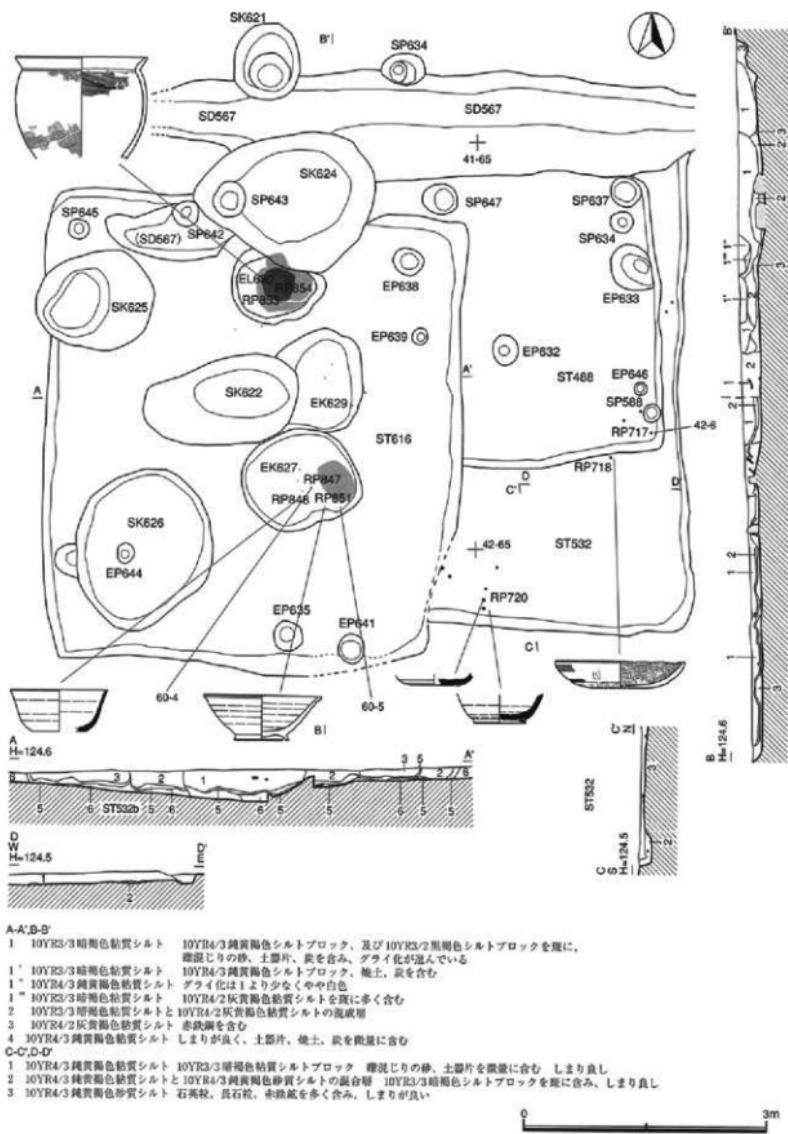
- 1 IOYR4/2灰褐色粘質シルト
- 2 IOYR4/2灰褐色粘質シルト
- 3 IOYR4/3純黄褐色粘質シルト
- 4 IOYR4/3砂質シルト
- 5 IOYR4/3褐色粘質シルト
- 6 SYR4/3シルト
- 7 IOYR2/3粘質シルト



第21図 ST522、ST523、ST597遺物出土状況

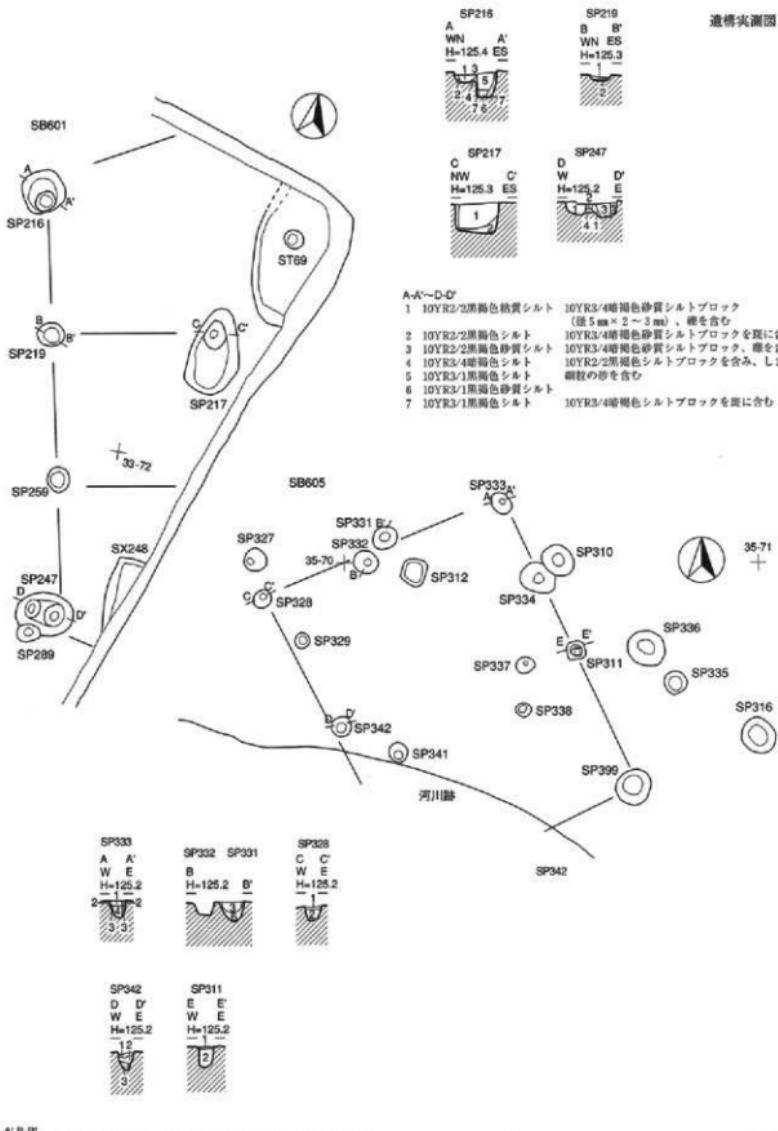


第22図 ST599、ST589、ST591



第23図 ST488、ST532、ST616

讀書者請取

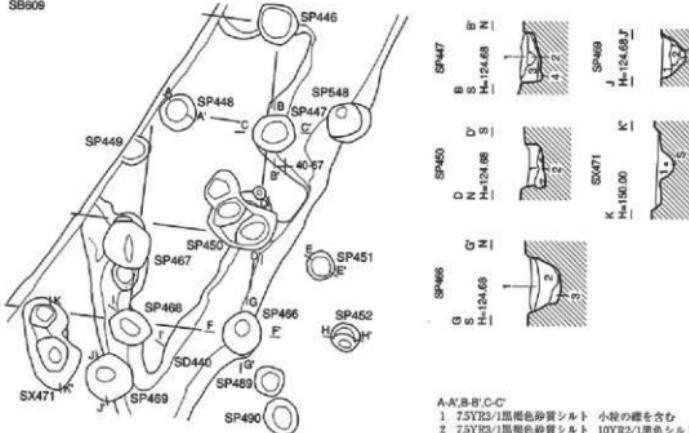


八九四四

- | A-A'-B-B' | |
|---------------------|-------------------------------|
| 1 10YR2/3 黑褐色地黒質シルト | 10YR3/2 シルトブロック、粒状を多く含む |
| 2 10YR2/2 黑褐色地シルト | 10YR4/3 黏質シルトブロックを多く、粉砂を微量に含む |
| C-C' | |
| 1 10YR2/4 黑褐色地黒質シルト | |
| 2 10YR3/1 黑褐色地黒質シルト | |
| D-D' | |
| 1 10YR2/1 黑褐色地黒質シルト | |
| 2 10YR2/1 黑褐色シルト | 細粒の砂を含む |
| 3 10YR3/1 黑褐色地黒質シルト | |
| E-E' | |
| 1 10YR4/1 黑褐色地黒質シルト | |
| 2 10YR2/1 黑褐色シルト | 暗褐色の粘土を1%程度含む |

第24図 SB601, SB605

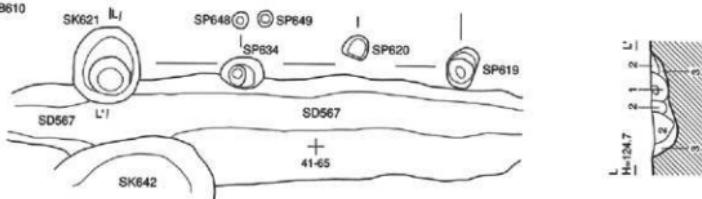
SB609



A-A'-B-B'-C-C'

- | | | |
|--------------|------------------|-----------------------|
| 1 | 75YR2/1黒褐色色調シルト | 小穂の穂を含む |
| 2 | 75YR2/1黒褐色色調シルト | 10YR2/1黒色シルトを含む |
| 3 | 75YR2/1黒褐色色調シルト | 10YR2/1黒色シルトを含む |
| 4 | 10YR2/2黒褐色色調シルト | 10YR2/1黒色シルトを含む |
| D-D' | | |
| 1 | 75YR2/1黒褐色シルト | 穀粒の縦を多く含む |
| 2 | 75YR2/1黒褐色シルト | 穀粒の縦を含む |
| E-E'F-F'G-G' | | |
| 1 | 75YR2/1黒褐色色調シルト | |
| 2 | 75YR2/1黒褐色色調シルト | |
| 3 | 75YR2/1黒褐色色調シルト | 穂を複数に含む |
| 4 | 75YR2/1黒褐色粗粒質シルト | |
| H-H'J-J' | | |
| 1 | 75YR2/1黒褐色色調シルト | 10YR2/2黒褐色シルトを含む |
| 2 | 75YR2/1黒褐色色調シルト | 10YR2/2黒褐色シルトを複数に含む |
| 3 | 75YR2/1黒褐色色調シルト | 10YR2/2黒褐色シルトを含む |
| J-J' | | |
| 1 | 75YR2/1黒褐色色調シルト | 砂粒、穂子を含む「E」 |
| 2 | 75YR2/1黑褐色色調シルト | 75YR2/1黒褐色色調シルトを含む |
| 3 | 75YR2/1黒褐色色調シルト | 75YR2/1黒褐色色調シルトを複数に含む |
| 4 | 75YR2/1黒褐色色調シルト | 75YR2/1黒褐色色調シルトを含む |

SB610

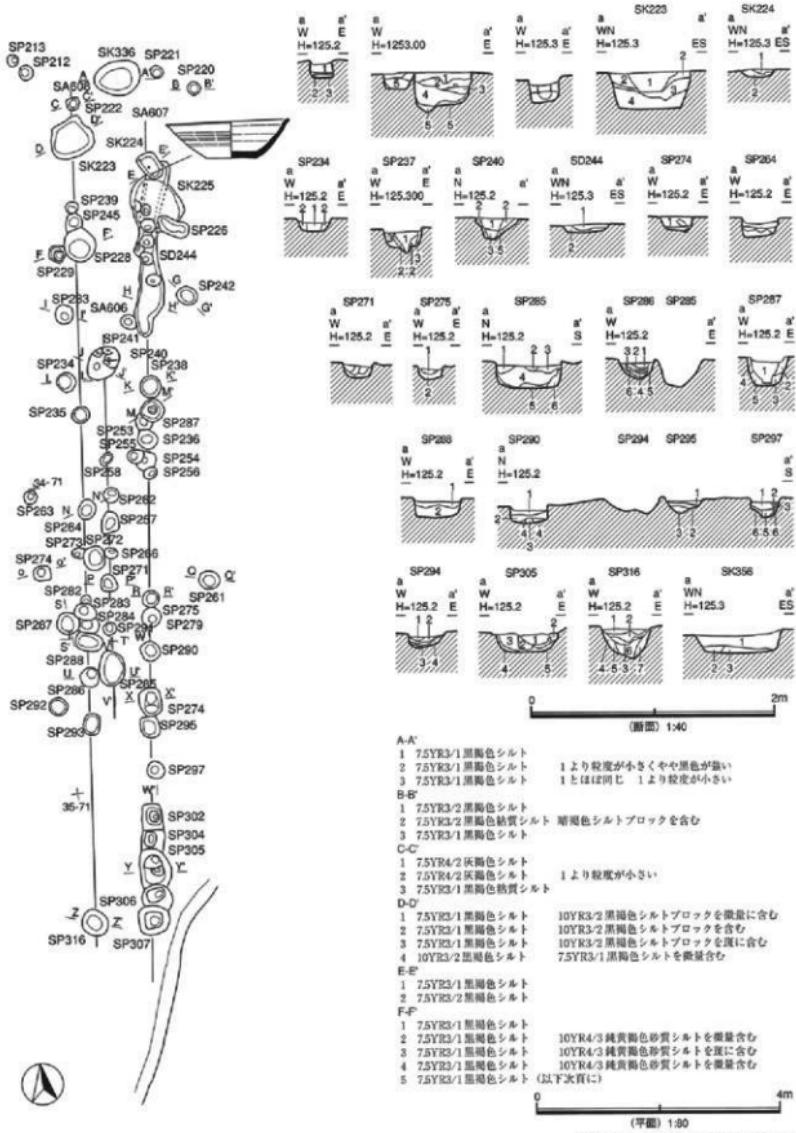


L-1

- 1 10YR3/3暗褐色粘質シルト
 - 2 10YR3/2暗褐色シルトブロック。土器片、時に砂を含む
 - 3 10YR3/3暗褐色粘質シルトと10YR4/3純黄褐色砂質シルトの混合層
 - 4 10YR4/4純黄褐色粘質シルトと10YR4/3純黄褐色砂質シルトの混合層

A horizontal number line starting at 0 and ending at $3m$. There is a tick mark on the line between 0 and $3m$, representing the value m .

第25圖 SB609, SB610



第26図 SA606、SA607、SA608

G-G'・H-H'

- 1 10YR4/4 黑褐色砂質シルト 10YR3/3 暗褐色シルトブロックを含む
- 2 10YR2/3 細褐色シルト 10YR4/3 細黄シルトブロックを斑に含む
- H-

 - 1 7.5YR4/2 黑褐色砂質シルト 10YR3/2 暗褐色シルトを斑に含む
 - 2 7.5YR4/2 暗褐色砂質シルト 10YR3/2 暗褐色シルトを含む
 - 3 10YR2/2 黑褐色砂質シルト 7.5YR4/2 黑褐色砂質シルトブロックを含む
 - 4 10YR2/2 黑褐色砂質シルト

J-J'・K-K'・L-L'

 - 1 10YR2/2 黑褐色シルト 10YR3/4 暗褐色シルトブロックを斑に。砂粒、土部片を含む
 - 2 10YR2/2 黑褐色シルト 10YR3/4 暗褐色シルトブロック、砂粒を斑に含む
 - 3 10YR2/2 黑褐色砂質シルト
 - 4 10YR2/2 黑褐色シルト 10YR3/4 暗褐色シルトブロック、砂粒を微量に含む
 - 5 10YR3/4 暗褐色シルト 10YR2/2 黑褐色シルトブロック (径約 5 mm) を含む

M-M'

 - 1 7.5YR3/2 黑褐色シルト
 - 2 7.5YR4/2 黑褐色シルト
 - 3 7.5YR4/2 暗褐色シルト
 - N-N'

 - 1 7.5YR3/1 黑褐色シルト
 - 2 7.5YR3/1 黑褐色シルト
 - 3 7.5YR4/2 黑褐色シルト
 - O-O'

 - 1 10YR2/1 黑褐色シルト
 - 2 7.5YR3/2 黑褐色シルト
 - P-P'

 - 1 10YR4/1 黑褐色シルト
 - 2 10YR3/1 暗褐色シルト
 - 3 10YR4/1 黑褐色シルト
 - 4 7.5YR3/1 黑褐色シルト

C-C'

 - 1 7.5YR2/1 暗褐色シルト 7.5YR2/1 黑褐色シルトブロックを斑に多量に含む
 - 2 7.5YR2/1 黑褐色シルト 7.5YR2/1 黑褐色シルトブロックを斑に含む
 - 3 7.5YR4/2 黑褐色シルト 7.5YR2/1 黑褐色シルトブロックを斑に含む
 - 4 7.5YR3/2 黑褐色シルト 7.5YR2/1 黑褐色シルトブロックを斑に含む
 - 5 7.5YR3/2 黑褐色シルト

R-R'

- 1 10YR4/1 暗褐色シルト
- 2 10YR3/1 黑褐色シルト
- S-S'

 - 1 10YR3/1 黑褐色シルト
 - 2 10YR3/1 黑褐色シルト
 - 3 10YR3/1 黑褐色シルト
 - 4 10YR3/2 暗褐色シルトブロックを斑に多く含む
 - 5 10YR3/2 暗褐色シルト

T-T'

 - 1 10YR3/2 暗褐色シルト
 - 2 7.5YR3/1 黑褐色シルト
 - U-U'

 - 1 10YR3/2 暗褐色シルト
 - 2 7.5YR3/1 黑褐色シルト
 - 3 10YR3/2 暗褐色シルト
 - 4 7.5YR3/1 黑褐色シルト
 - 5 7.5YR3/1 黑褐色シルト
 - 6 10YR3/2 暗褐色シルト

V-V'

 - 1 7.5YR3/1 黑褐色シルト
 - 2 7.5YR3/1 黑褐色シルト
 - 3 7.5YR3/1 黑褐色シルト
 - 4 7.5YR3/1 黑褐色シルト
 - 5 7.5YR3/1 黑褐色シルト
 - 6 7.5YR3/1 黑褐色シルト

W-W'・Y-Y'

 - 1 7.5YR3/1 黑褐色シルト
 - 2 7.5YR3/1 黑褐色シルト
 - 3 7.5YR3/1 黑褐色シルト
 - 4 7.5YR3/1 黑褐色シルト
 - 5 7.5YR3/1 黑褐色シルト
 - 6 7.5YR3/1 黑褐色シルト

X-X'

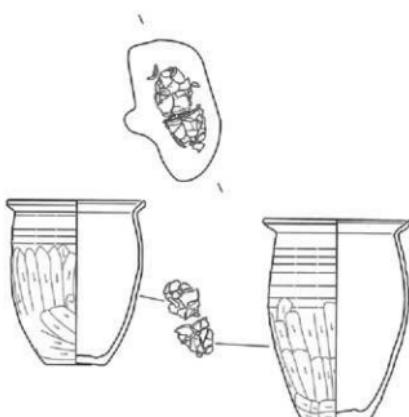
 - 1 7.5YR3/1 黑褐色シルト
 - 2 10YR2/2 黑褐色シルト
 - 3 10YR3/2 黑褐色シルト
 - 4 10YR3/2 黑褐色シルト

Z-Z'

 - 1 7.5YR3/1 暗褐色シルト
 - 2 7.5YR3/1 黑褐色シルト
 - 3 10YR3/2 黑褐色シルト
 - 4 7.5YR3/2 暗褐色シルト
 - 5 7.5YR3/2 暗褐色砂質シルト
 - 6 7.5YR3/2 暗褐色砂質シルト
 - 7 7.5YR3/2 暗褐色シルト

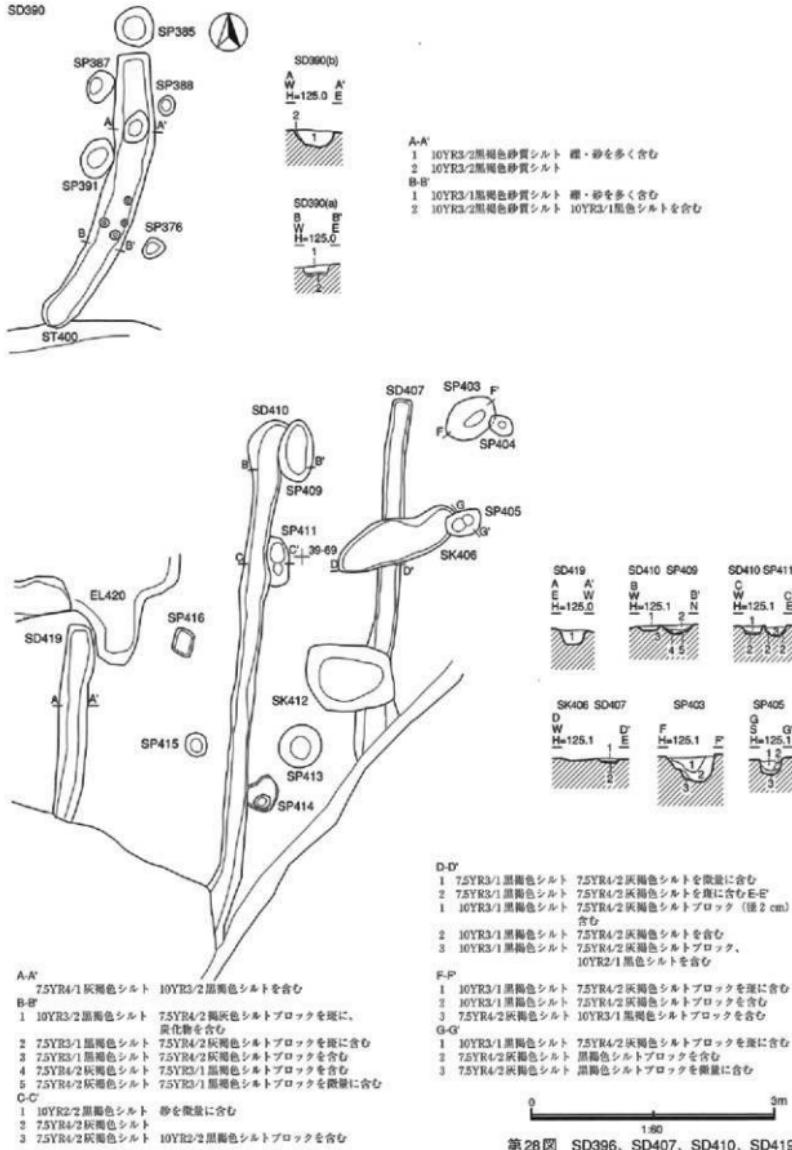


- 1 10YR4/3 暗褐色砂質シルト
1' 10YR4/3 暗褐色砂質シルト ブロックを斑に含む
2 10YR3/2 細褐色シルト
3 10YR3/3 細褐色シルト

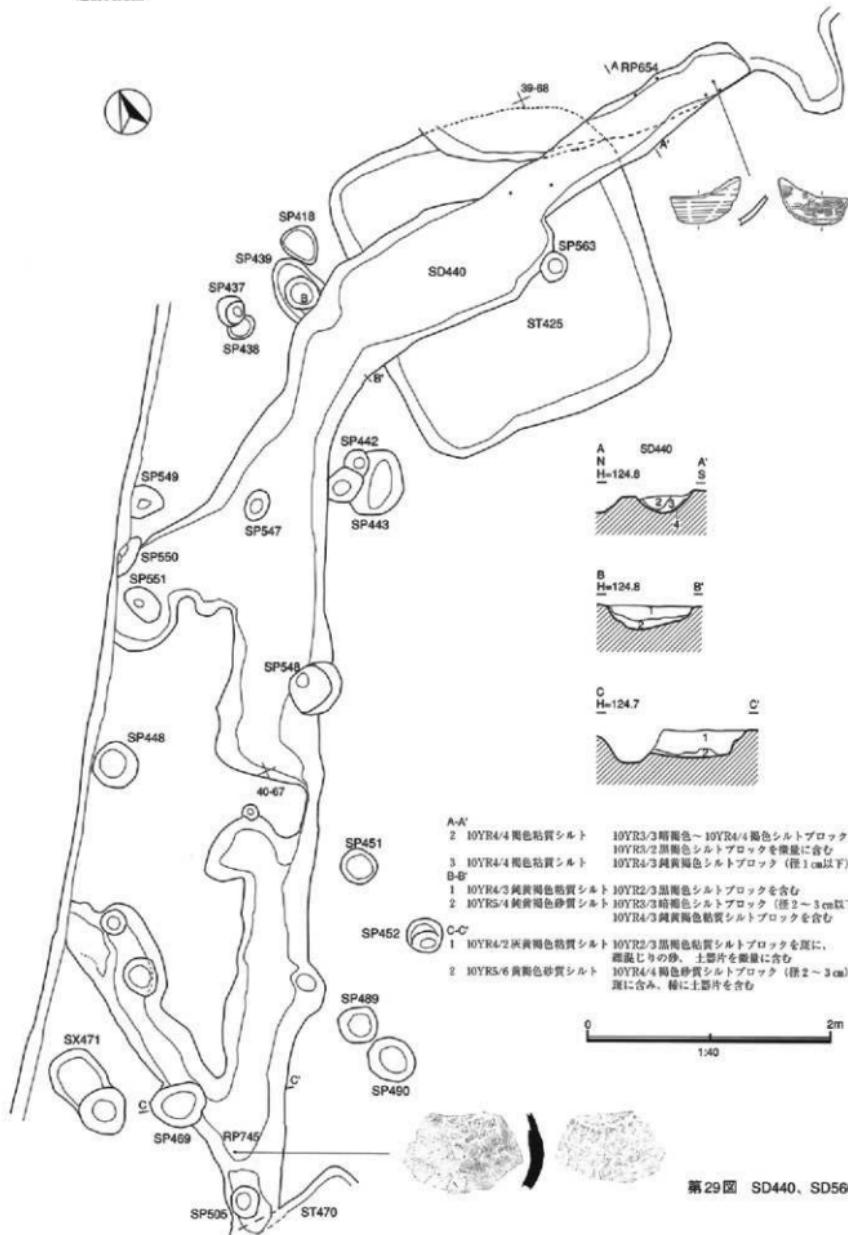


1: 10YR4/3 暗褐色砂質シルト
1': 10YR4/3 暗褐色砂質シルト ブロックを斑に含む
2: 10YR3/2 細褐色シルト
3: 10YR3/3 細褐色シルト

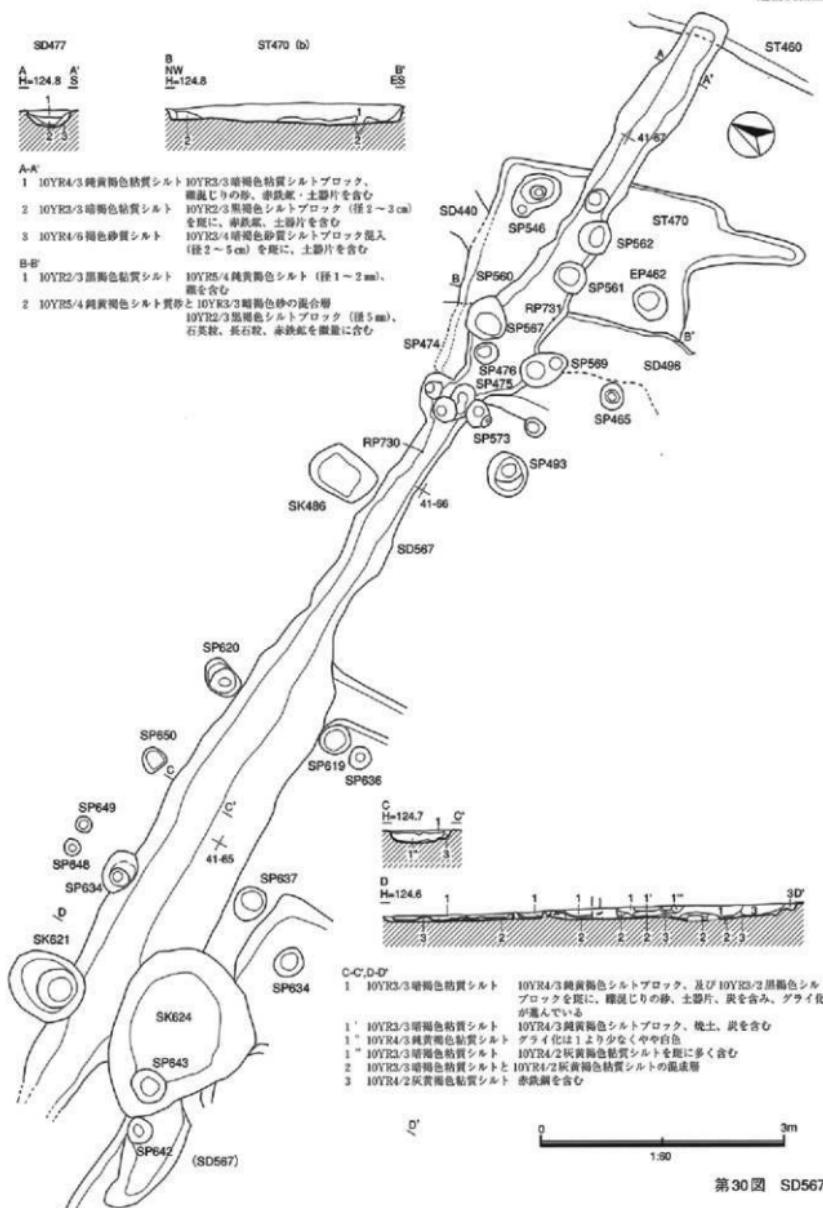
SD390



第28図 SD390、SD407、SD410、SD419



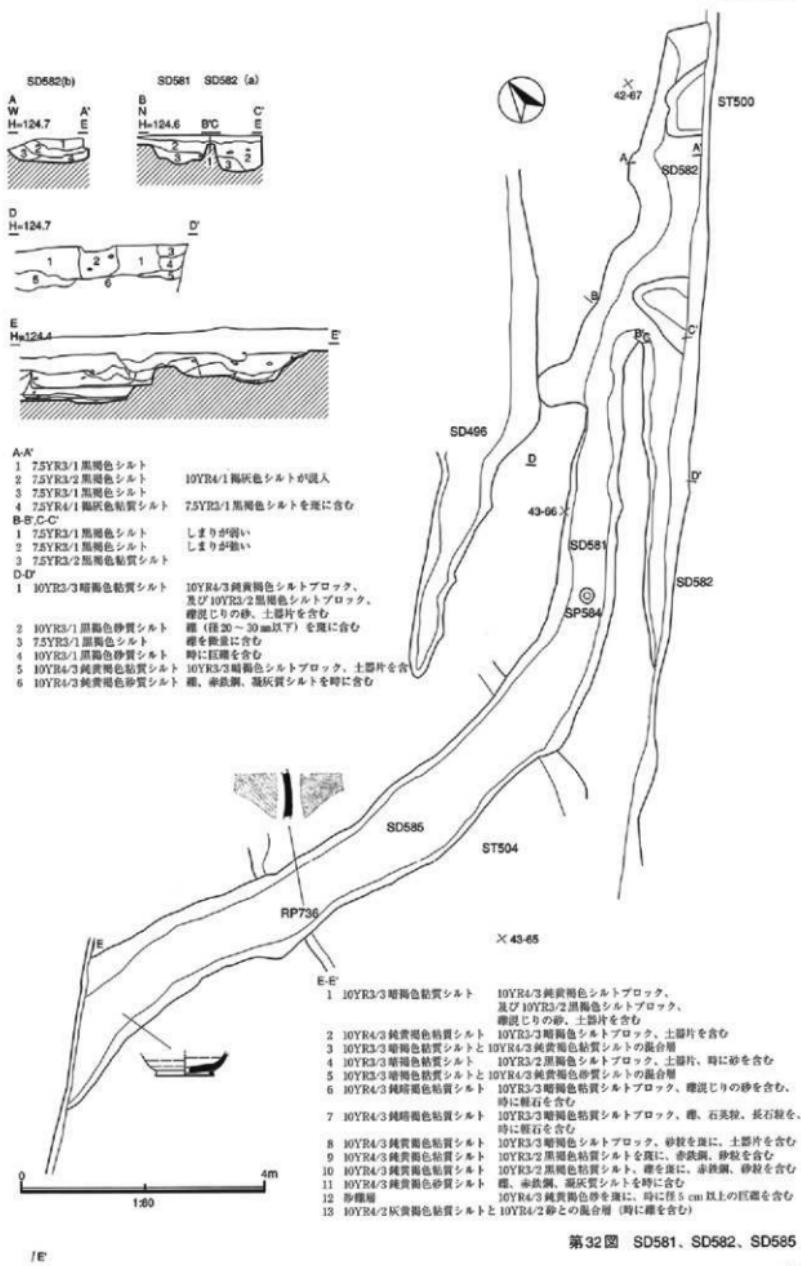
第29図 SD440、SD566



第30図 SD567



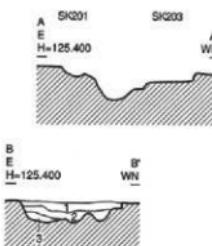
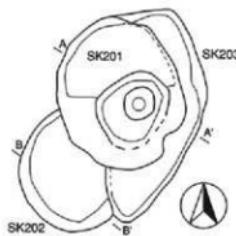
第31図 SD496・SD566



第32図 SD581、SD582、SD585

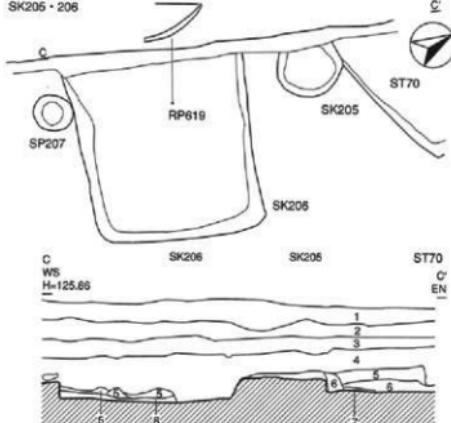
造構実測図

SK201・202・203

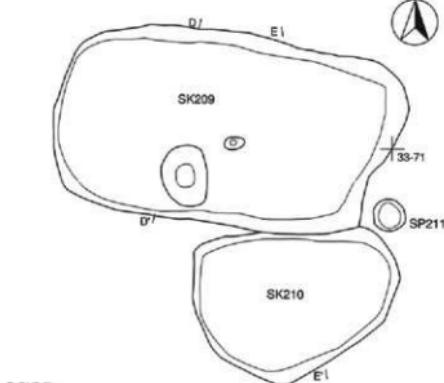


- B-B'
 1 7.5YR3/1暗褐色シルト
 2 7.5YR3/1暗褐色シルト 10YR4/3黄褐色シルトを含む
 3 10YR3/3暗褐色シルト

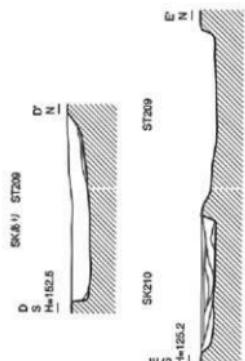
SK205・206



- C-C'
 1 砂、砂混じり表土
 2 10YR4/3黄褐色シルト 10YR3/3
 3 10YR4/3黄褐色シルト
 4 7.5YR3/2暗褐色粘質シルト
 5 10YR3/3黒褐色シルトブロック、砂粒、赤鉄鉻を含む
 6 10YR3/3暗褐色粘質シルト ハリキを含む

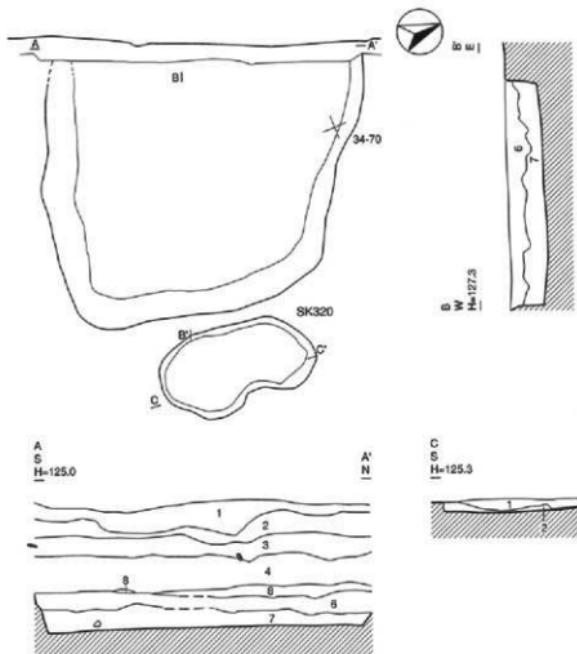


- D-D', E-E'
 1 7.5YR3/1黒褐色粘質シルト
 2 7.5YR4/2暗褐色粘質シルト
 3 7.5YR3/1暗褐色粘質シルト
 4 7.5YR3/1暗褐色シルト
 5 7.5YR3/1黒褐色シルト 10YR2/1黒色シルトブロックを含む
 6 10YR3/1黒褐色シルト 10YR2/1黒色シルトブロックを含む
 7 7.5YR3/1黒褐色シルト暗褐色シルトブロックを含む黒褐色シルトブロック、土器片、石英粒を含む



第33図 SK201、SK202、SK203、SK206、SK209、SK210

SK322

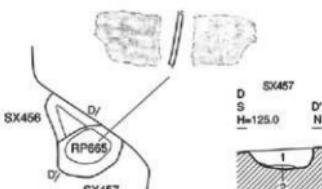


A-A', B-B'

- 1 砂利混じり表土
- 2 10YR4/3純黄褐色シルト 10YR3/3暗褐色粘質シルトを含む
- 3 10YR4/3純黄褐色シルト 10YR3/3暗褐色粘質シルト、土器片、石英粒を含む
- 4 7.5YR3/2黒褐色粘質シルト 10YR2/2シルトブロック、10YR4/3シルトブロック、砂粒、赤鉄鉻を微量に含む 7.5YR3/2と10YR3/3暗褐色粘質シルトの混合層
- 5 10YR3/3暗褐色粘質シルト 10YR3/2シルトブロック、長石粒を主とする砂粒を含む
- 6 10YR3/3暗褐色粘質シルト 混じて認められる。ヘマタイトを含む
- 7 10YR4/3純黄褐色粘質シルト 10YR3/3シルトブロック、ヘマタイトを稀に含む
- 8 7.5YR3/2と10YR3/3暗褐色粘質シルトの混合層

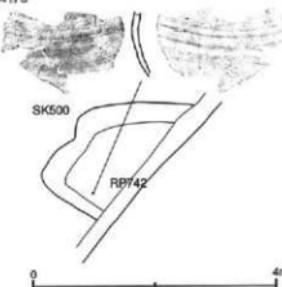
C-C'

- 1 10YR6/3純黄褐色粘質シルト 10YR3/2暗褐色シルトブロック、砂粒を頂に含む
- 2 10YR3/2黒褐色シルト 10YR4/3シルトブロック、砂粒を含む

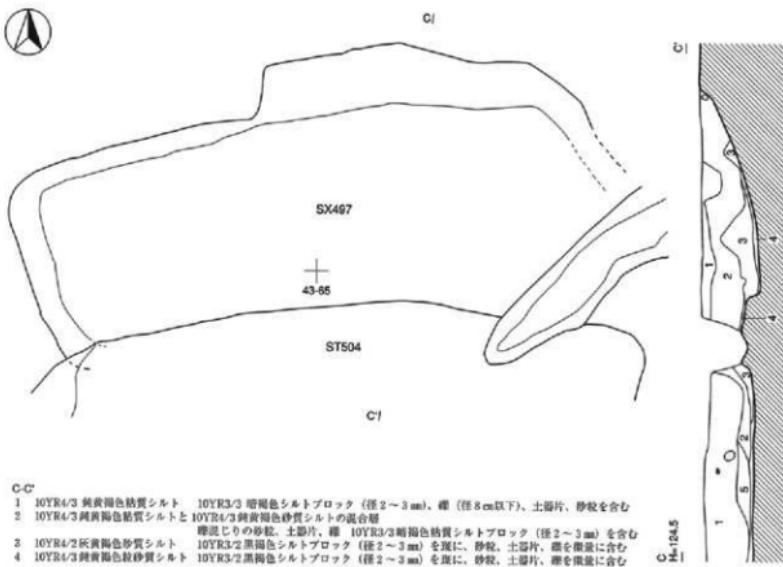
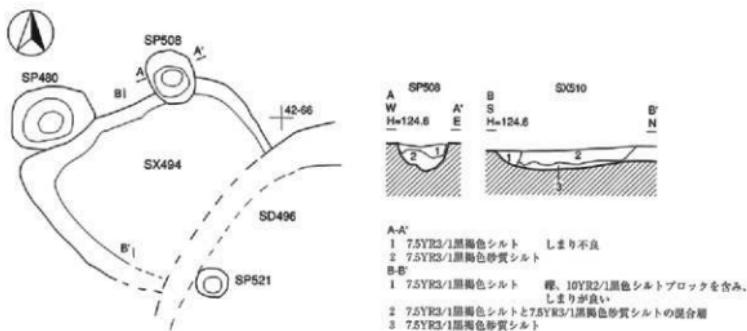


D-D'

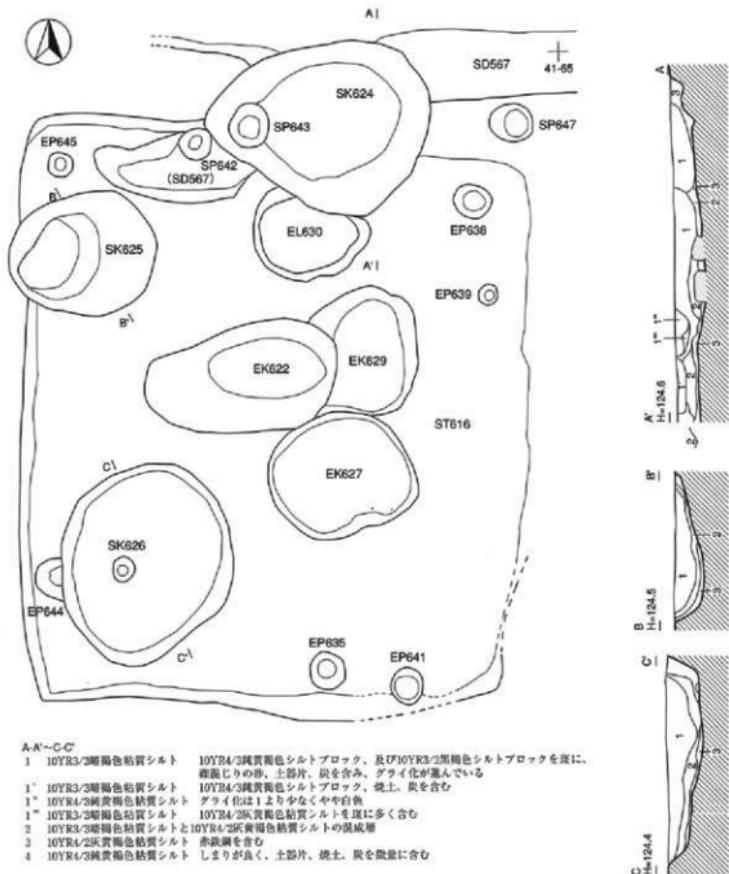
- 1 10YR4/3純黄褐色粘質シルト 10YR3/3暗褐色粘質シルト (往3cm以下) 塗泥じりの砂、土器片を含む
- 2 10YR4/4褐色砂質シルト 10YR3/3暗褐色粘質シルト (往3cm以下)、土器片を含む



第34図 SK320、SX456、SX457、SK500

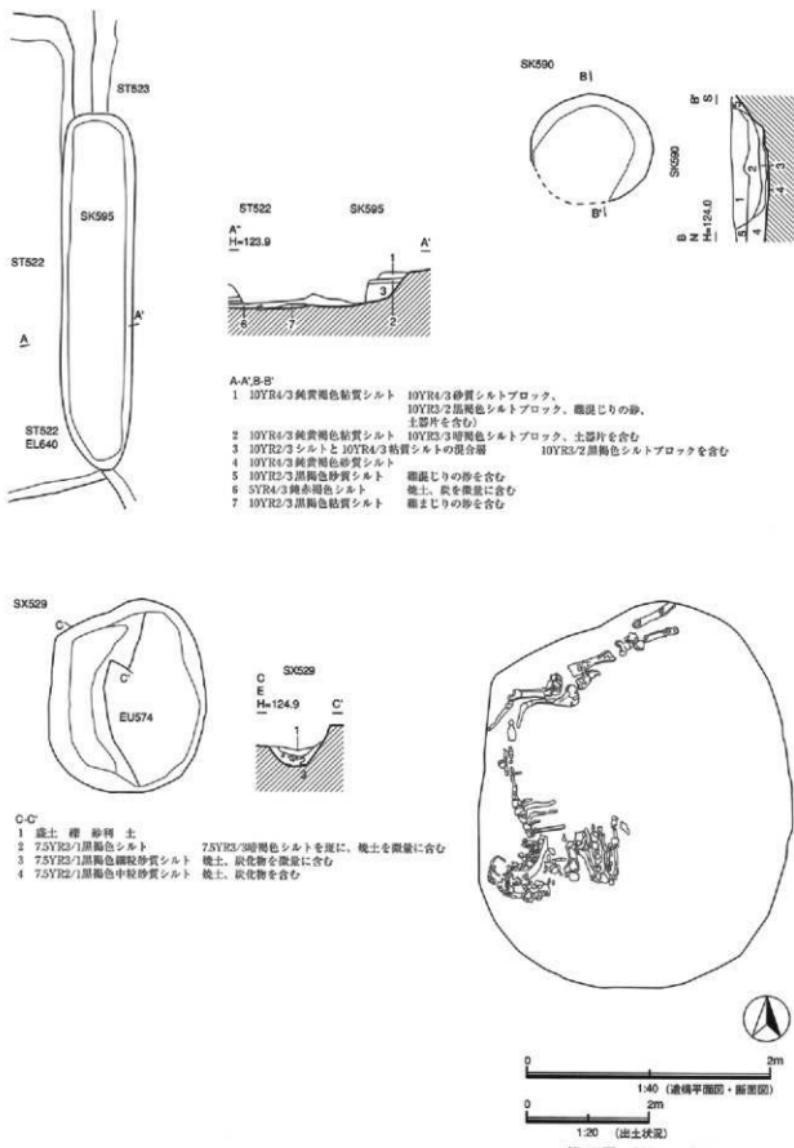


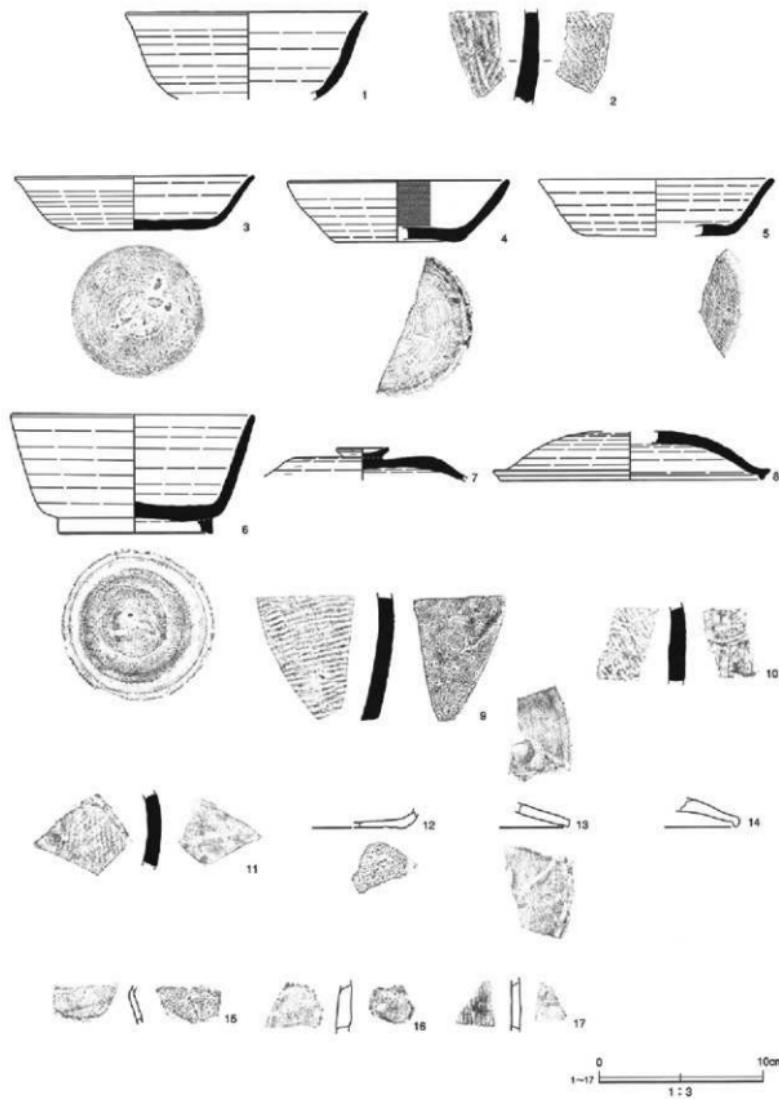
0 4m
1:50
第35図 SX494、SX497



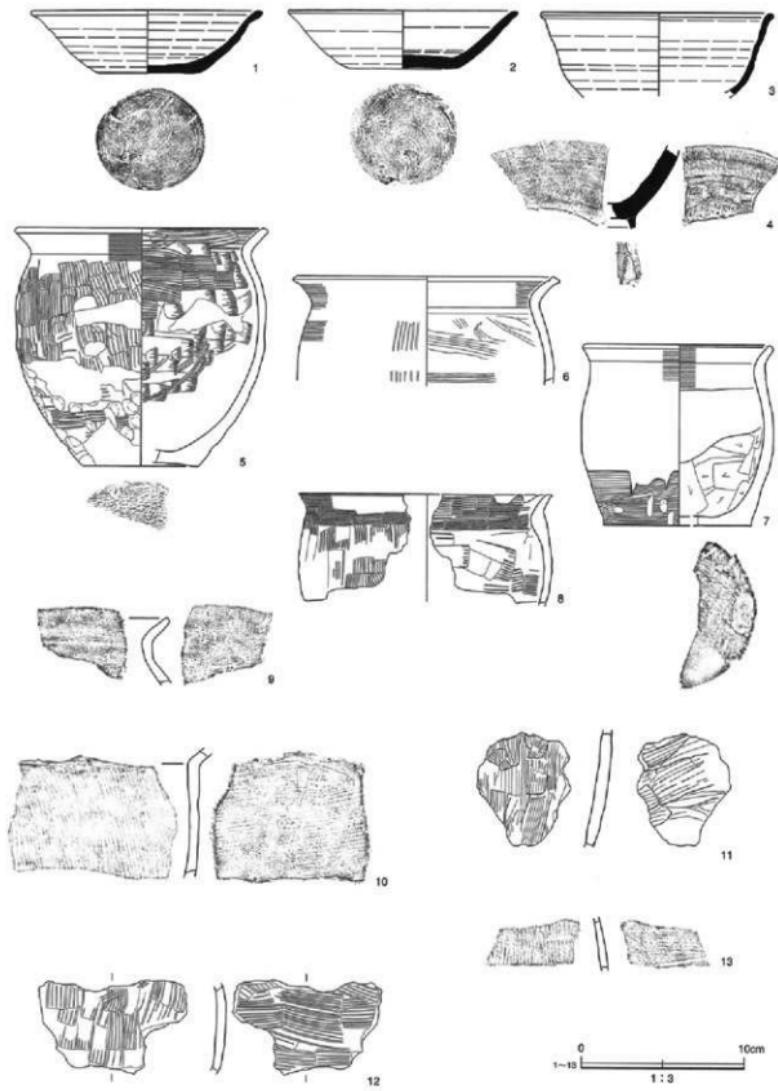
第36図 SK621、SK625、SK626

遺構実測図

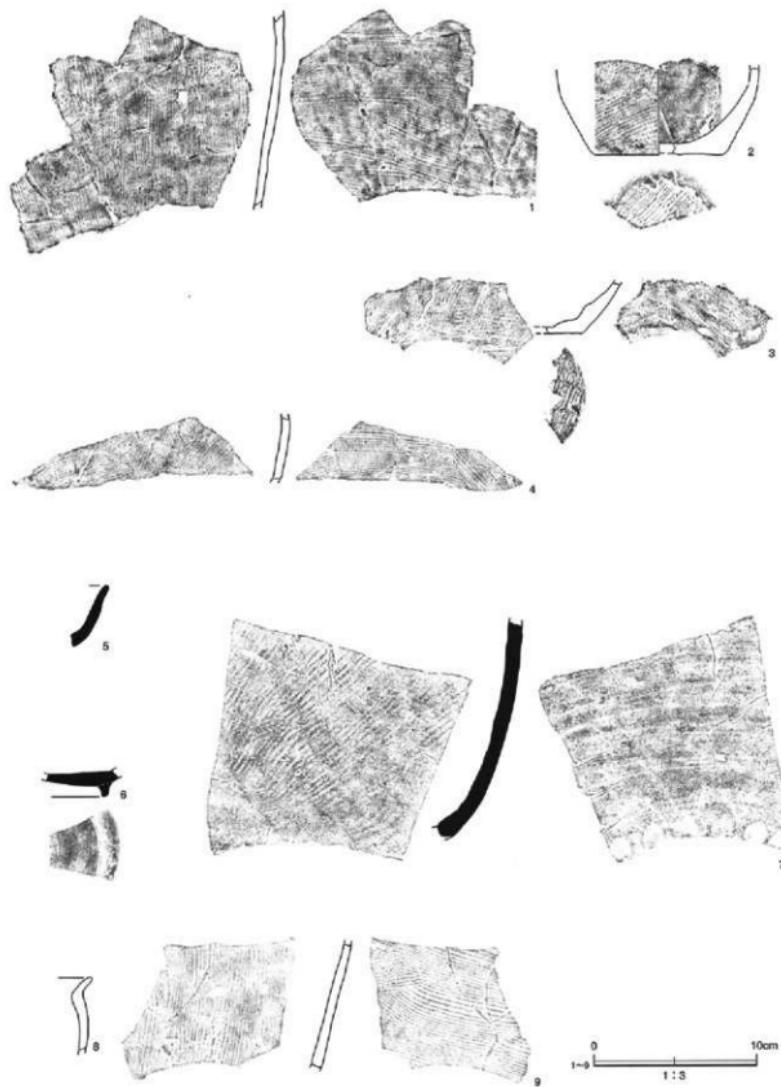




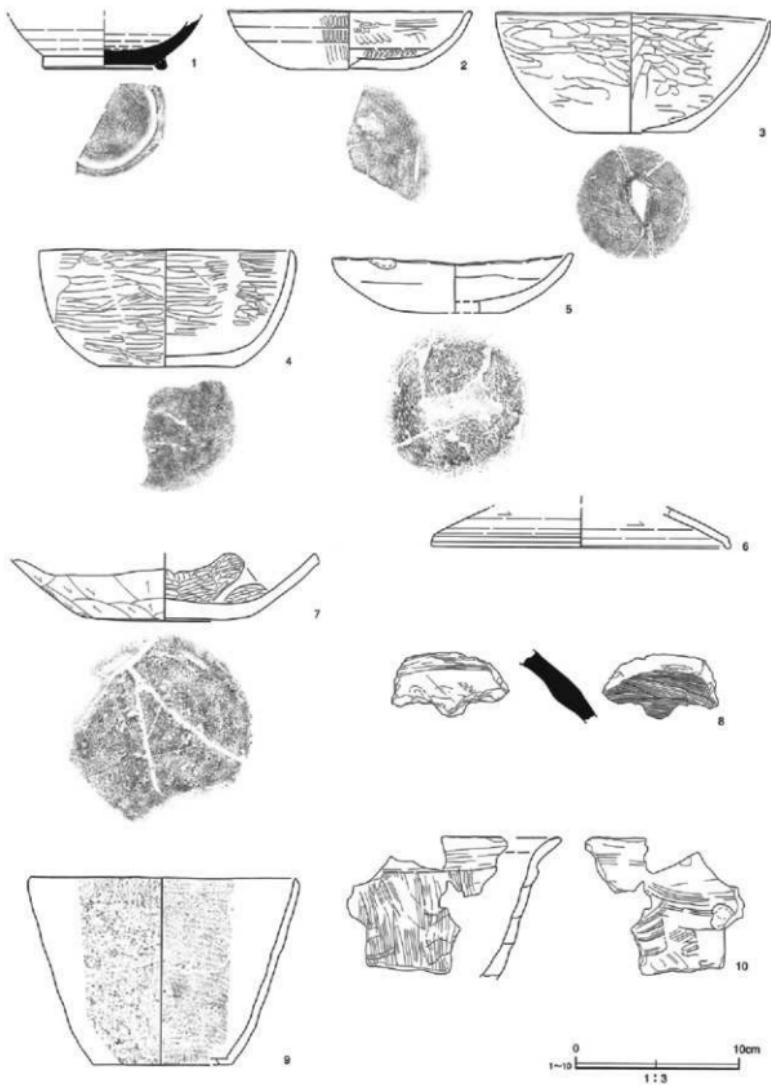
第38図 ST69・70出土遺物



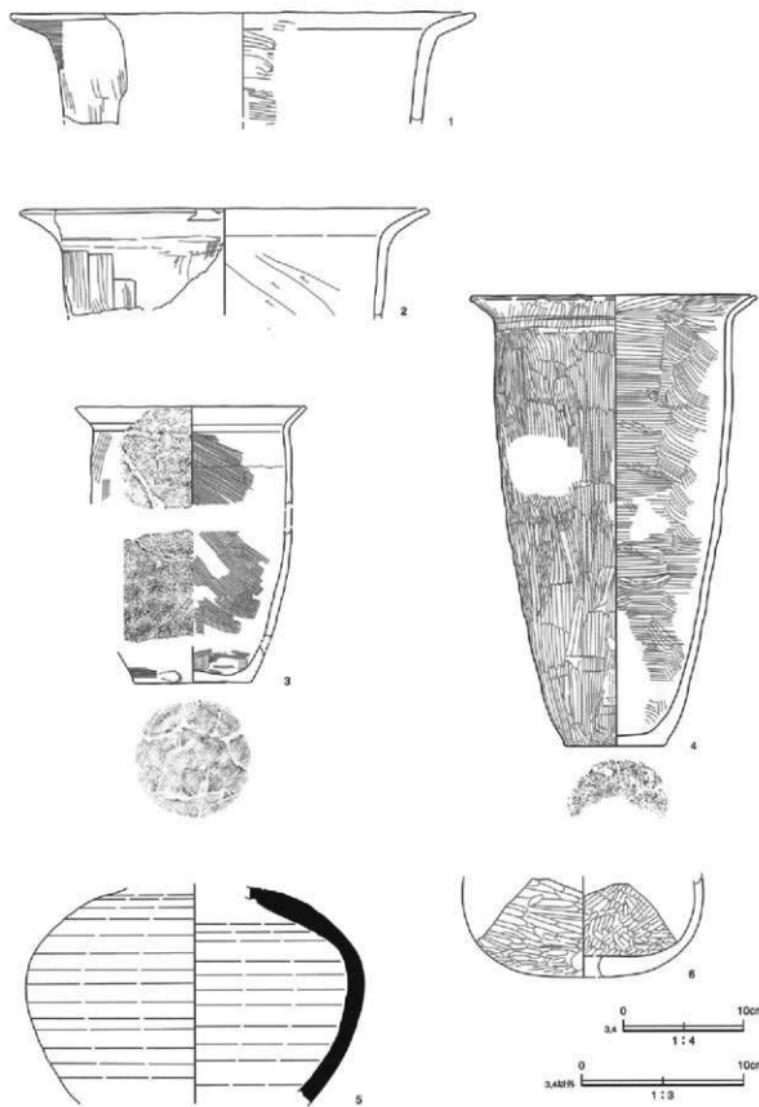
第39図 ST400出土遺物(1)



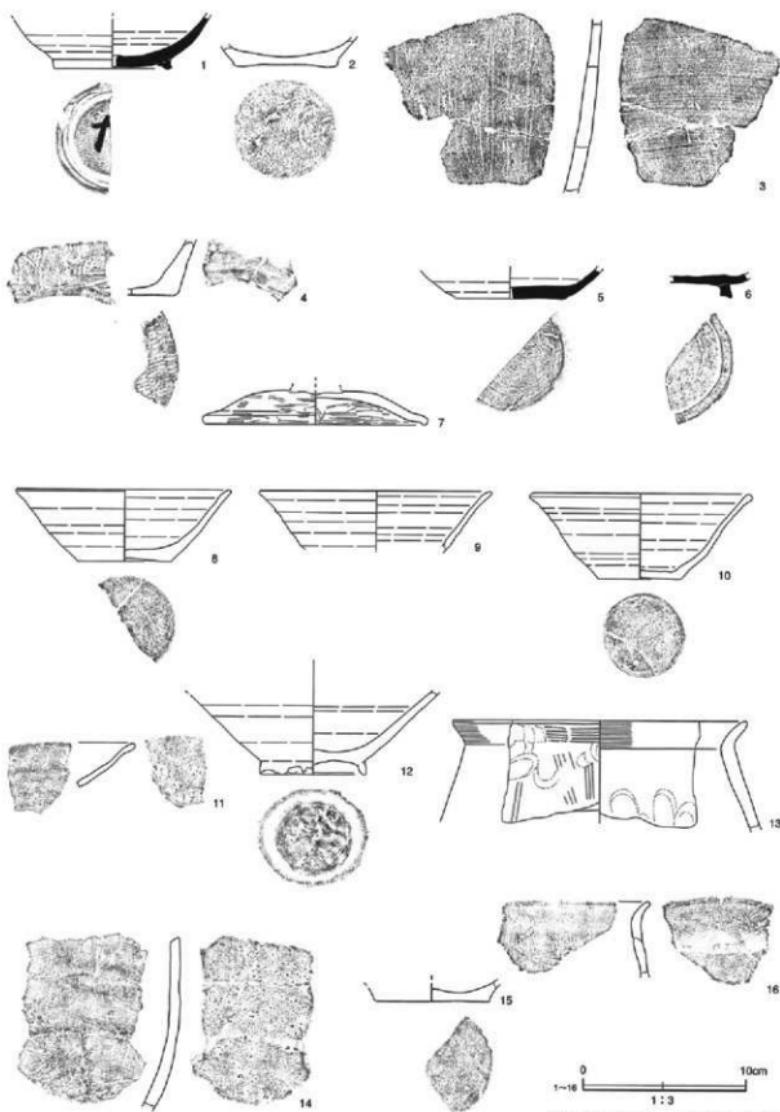
第40図 ST400出土遺物(2)、ST425出土遺物



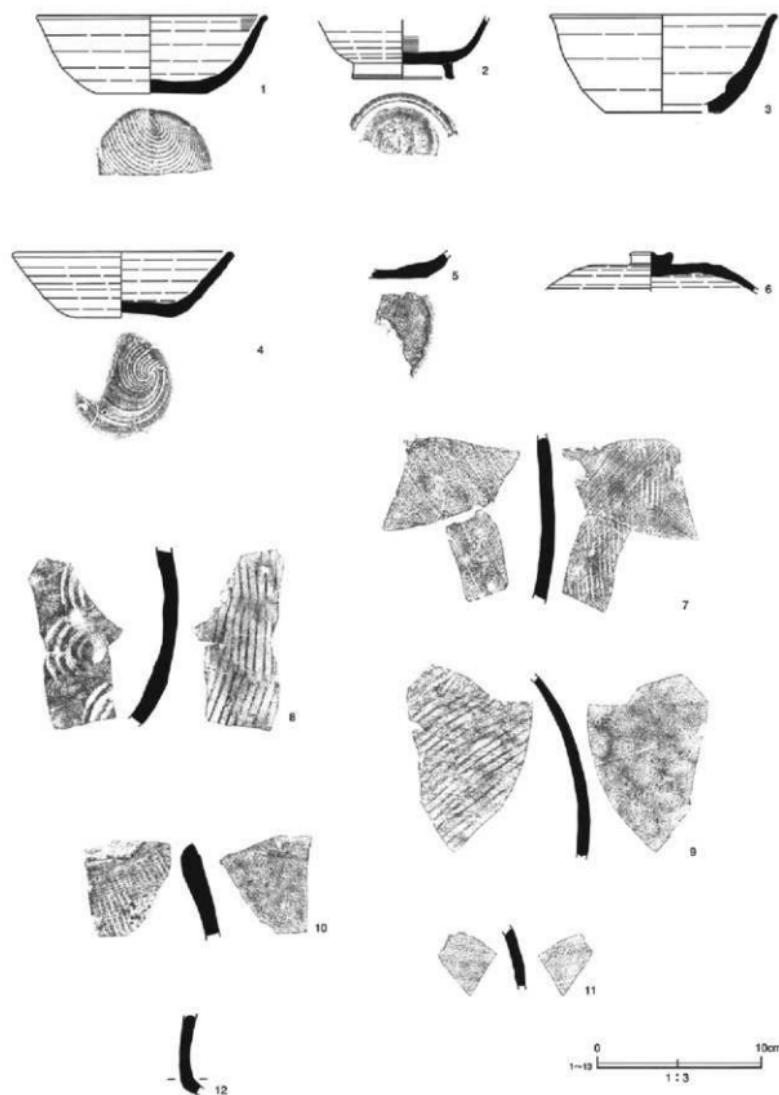
第41図 ST460出土遺物 (1)



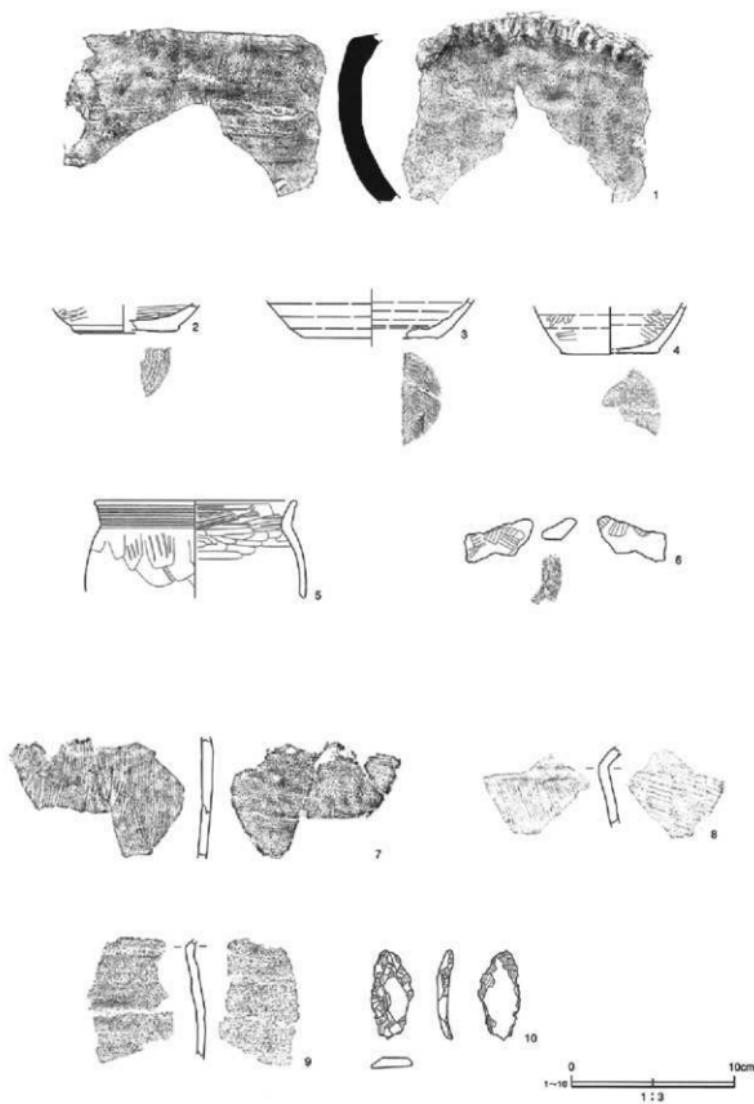
第42図 ST460出土遺物(2)、ST468出土遺物



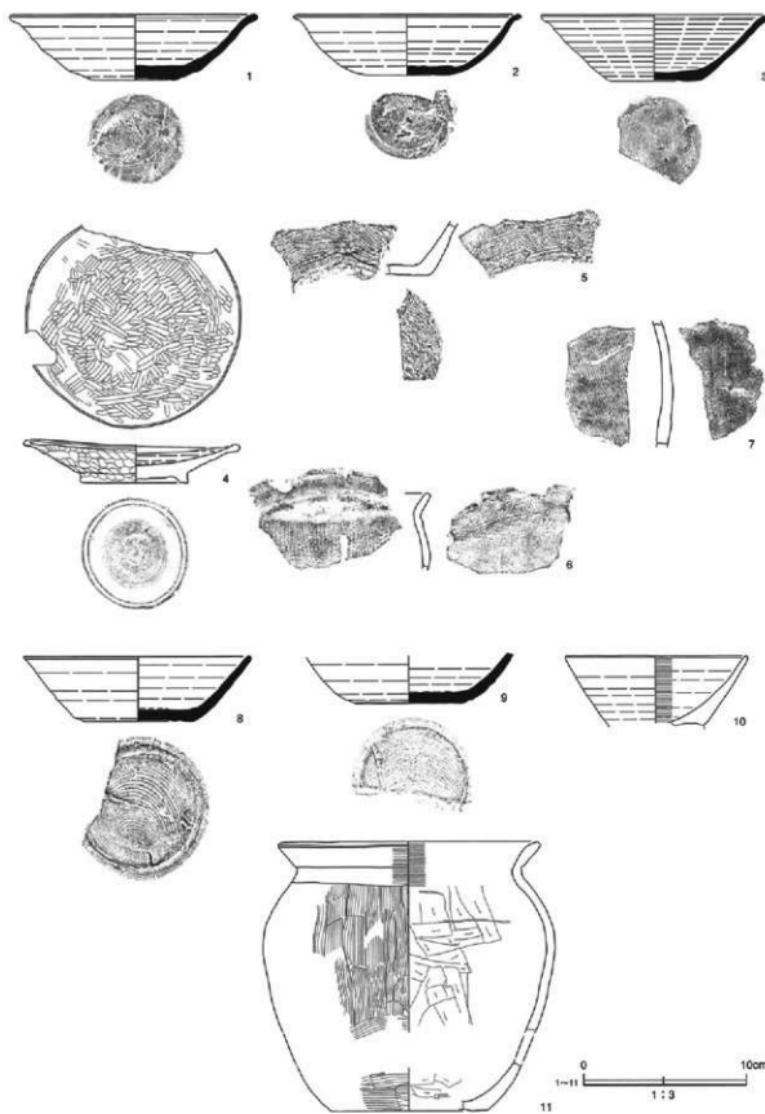
第43図 ST491・ST492出土遺物



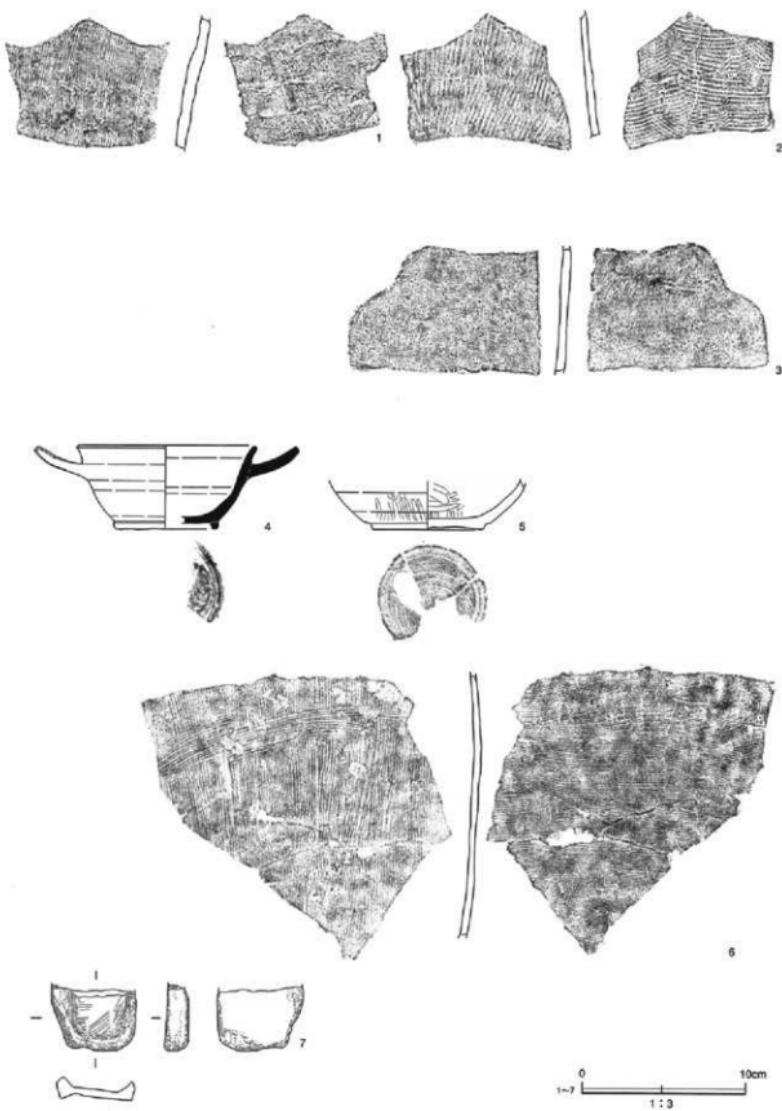
第44図 ST504出土遺物（1）



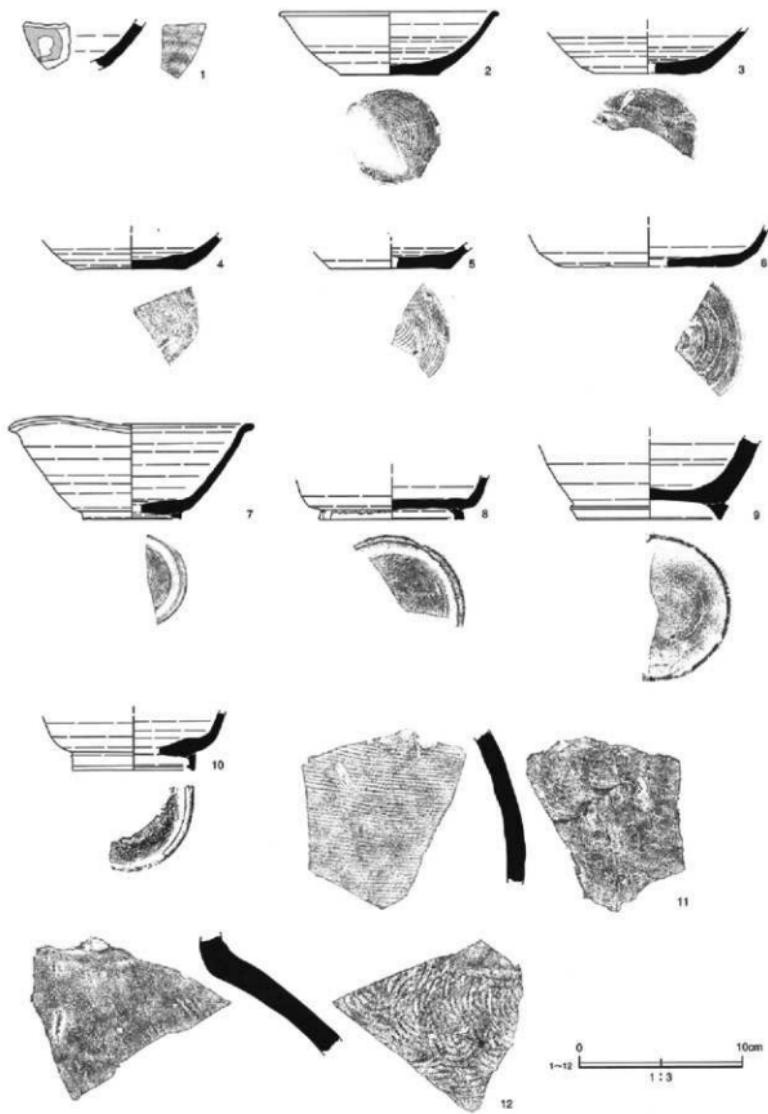
第45図 ST504出土遺物 (2)



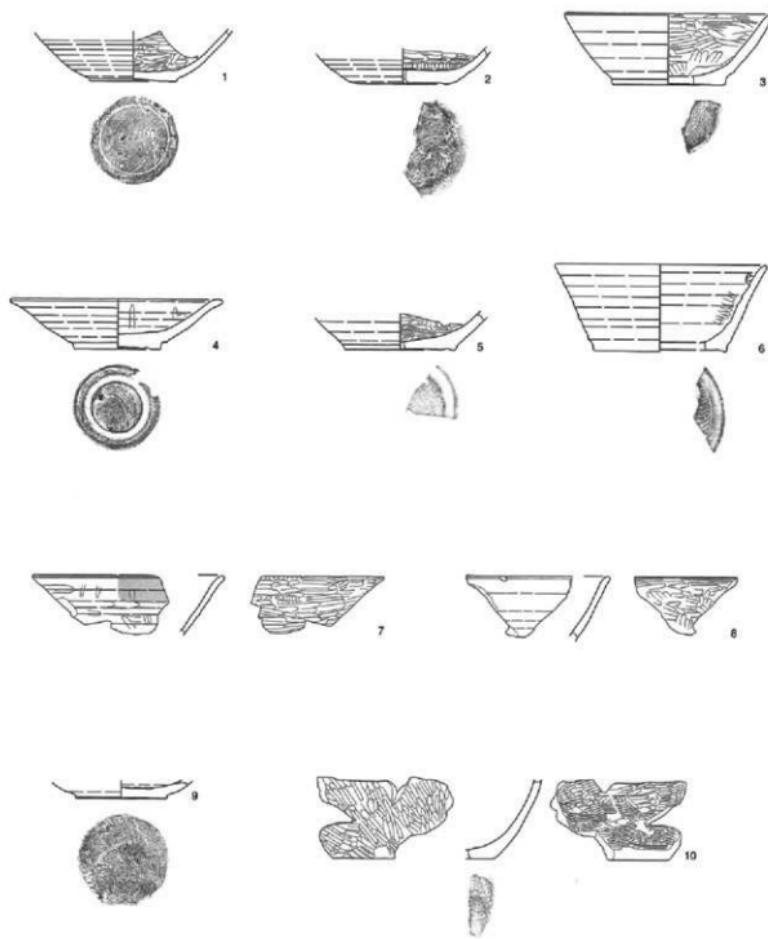
第46图 ST528出土遗物、ST522出土遗物（1）



第47図 ST522出土遺物(2)、ST523出土遺物

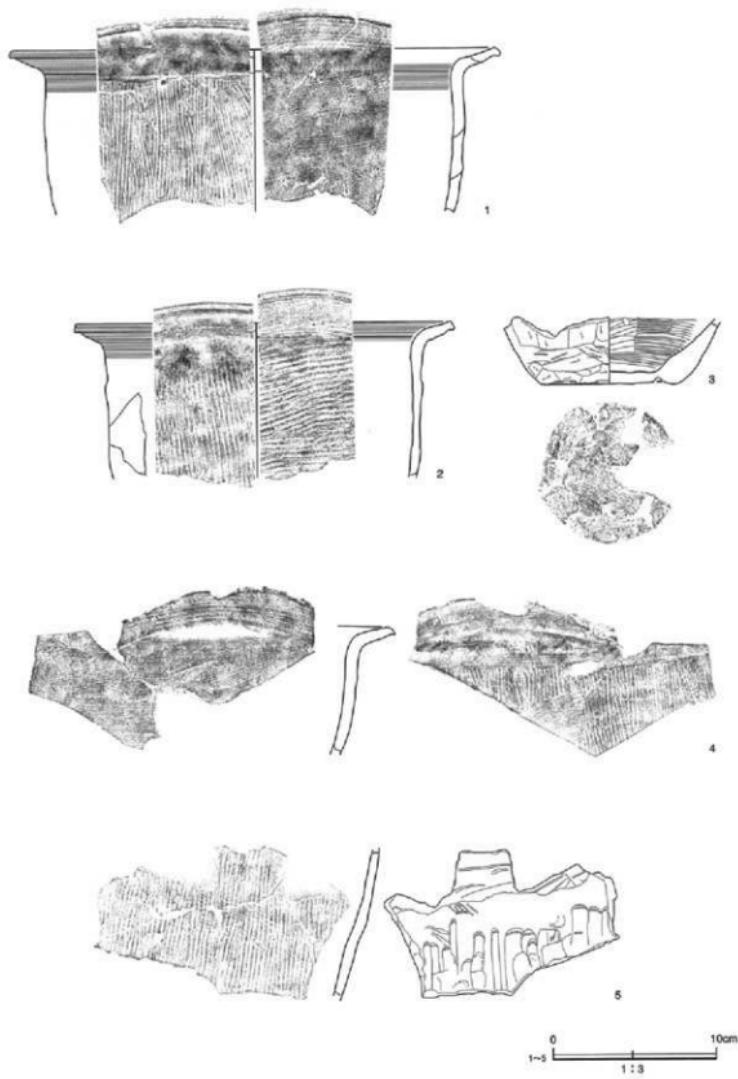


第48図 ST530出土遺物（1）

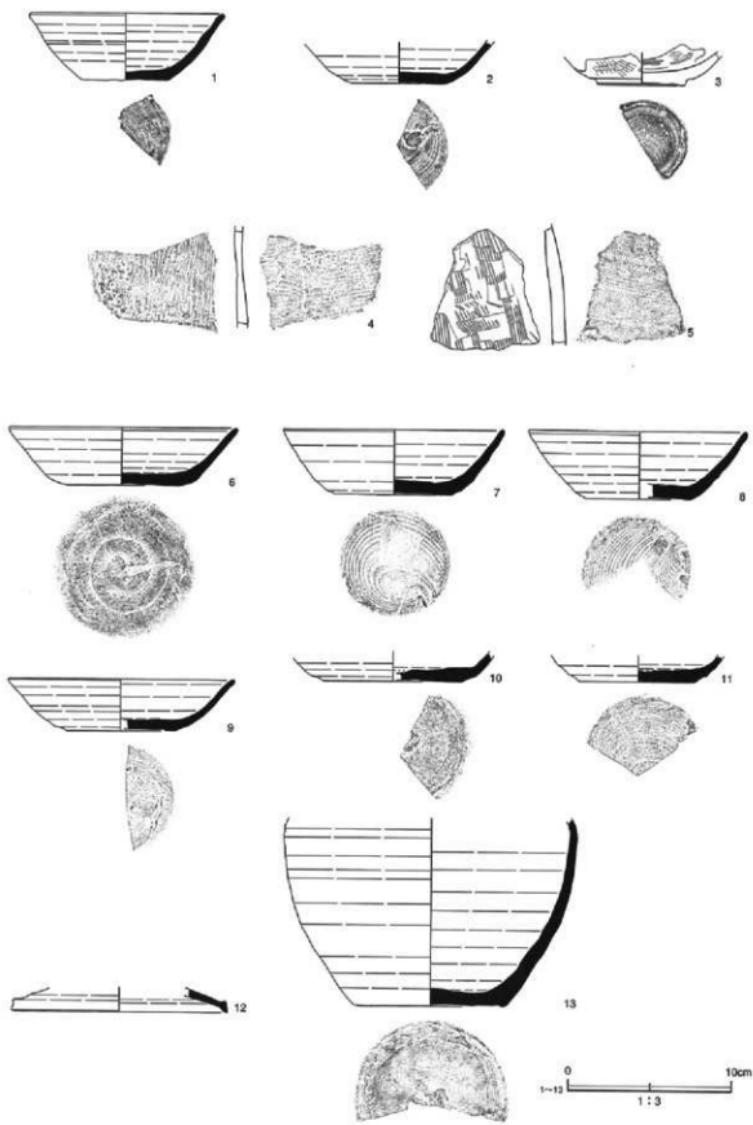


0
1~10 1:3 10cm

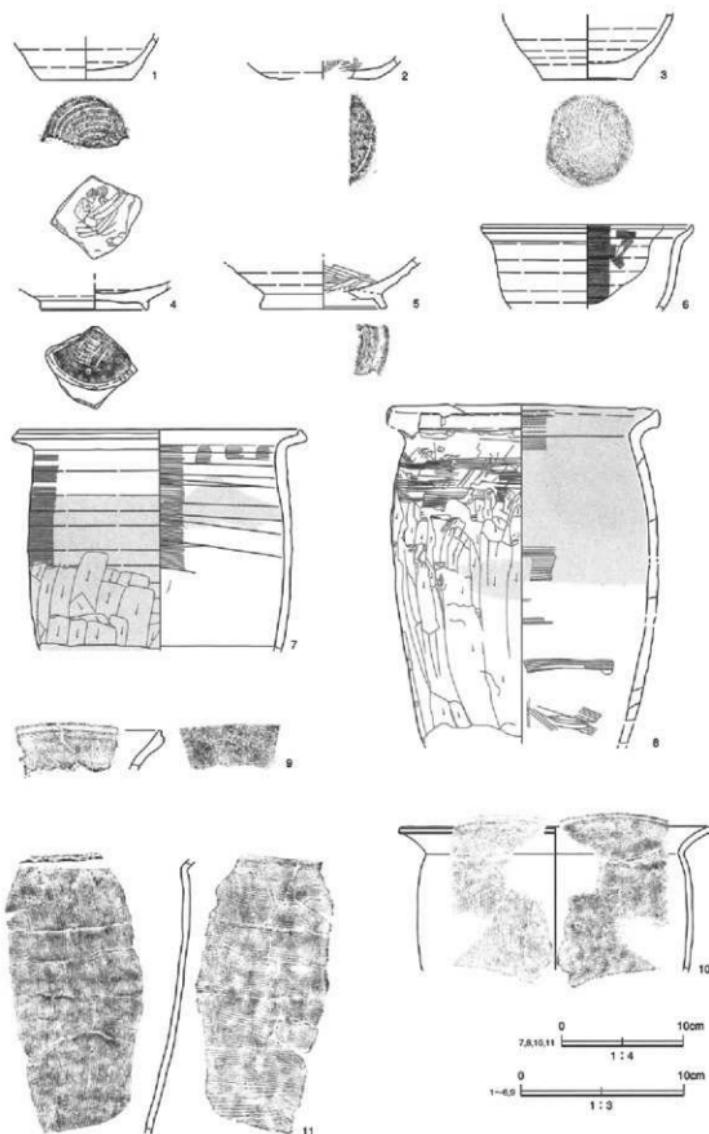
第49図 ST530出土遺物 (2)



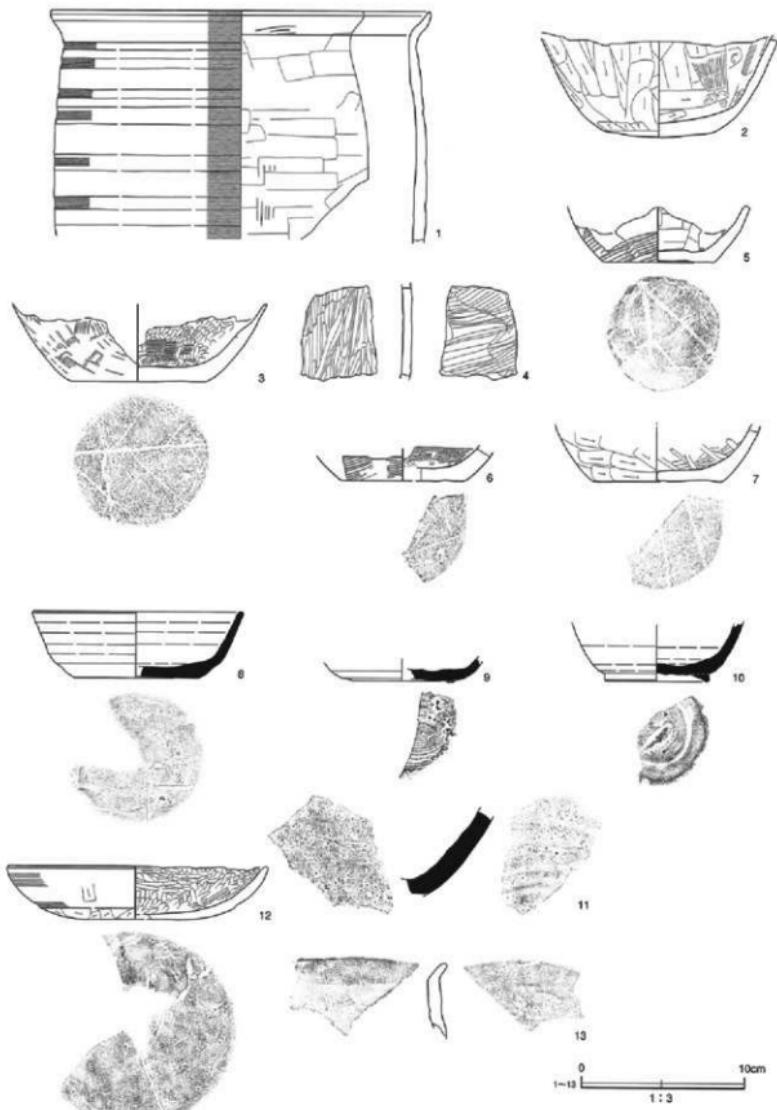
第50図 ST530出土遺物 (3)



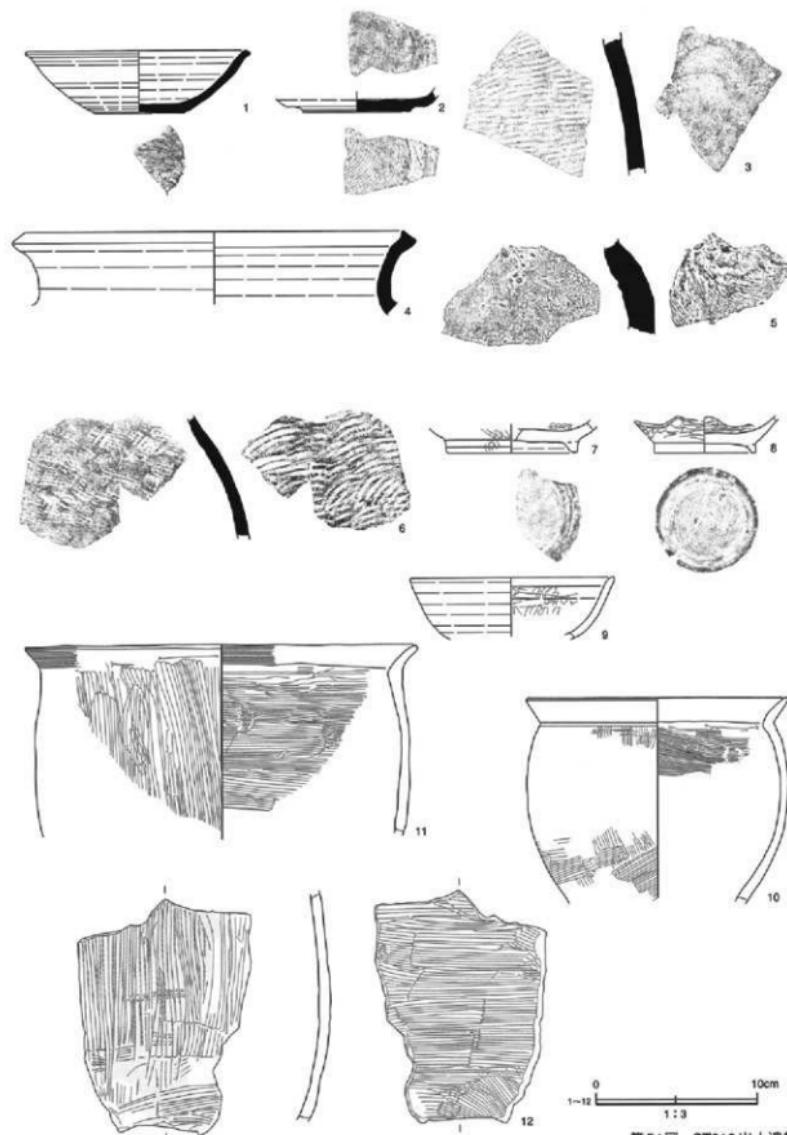
第51図 ST589出土遺物、ST597出土遺物(1)



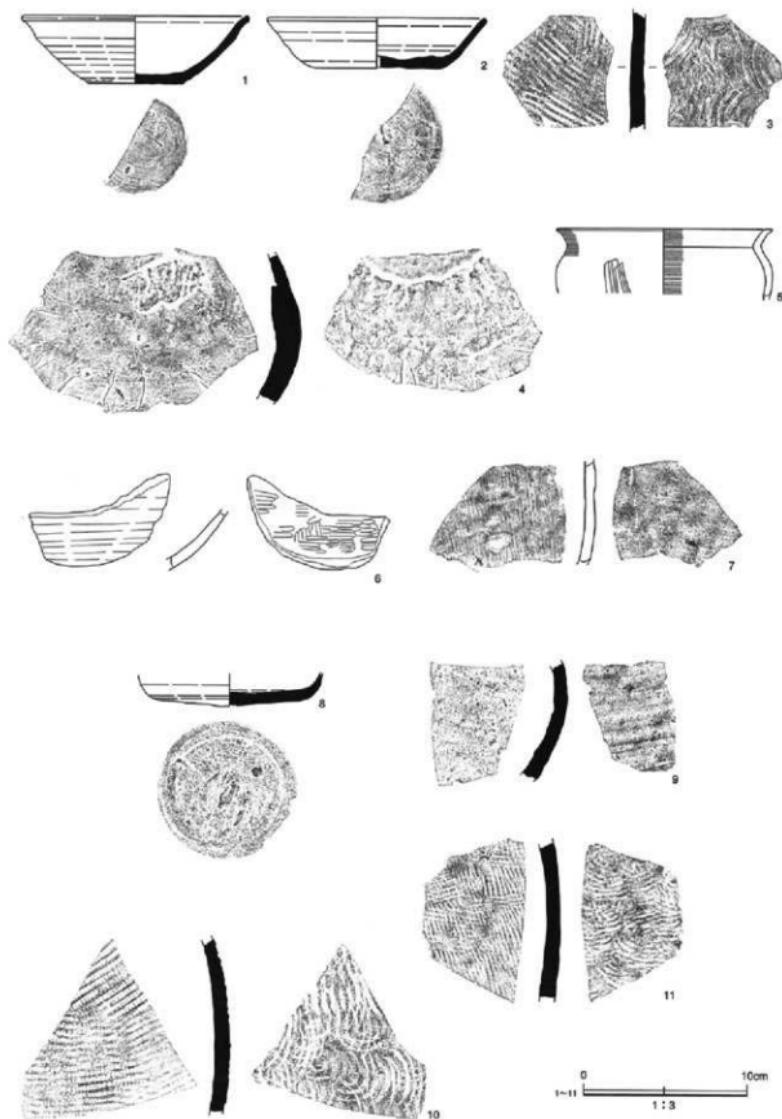
第52図 ST597出土遺物 (2)



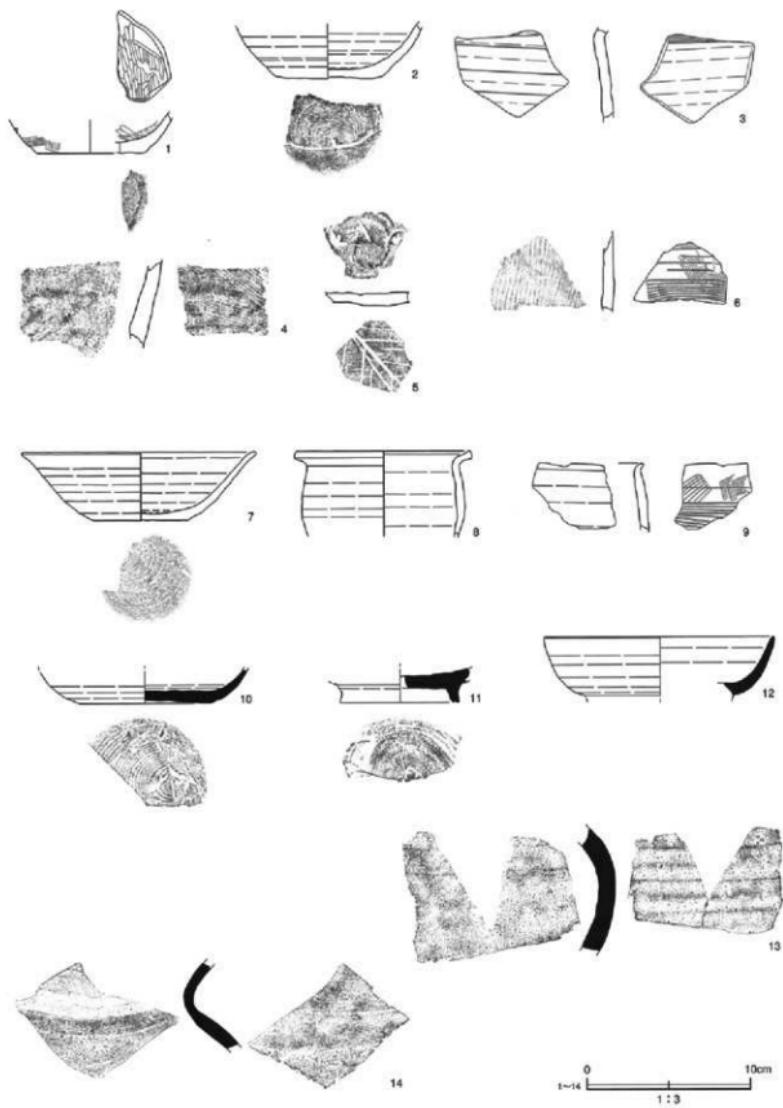
第53図 ST597出土遺物 (3)



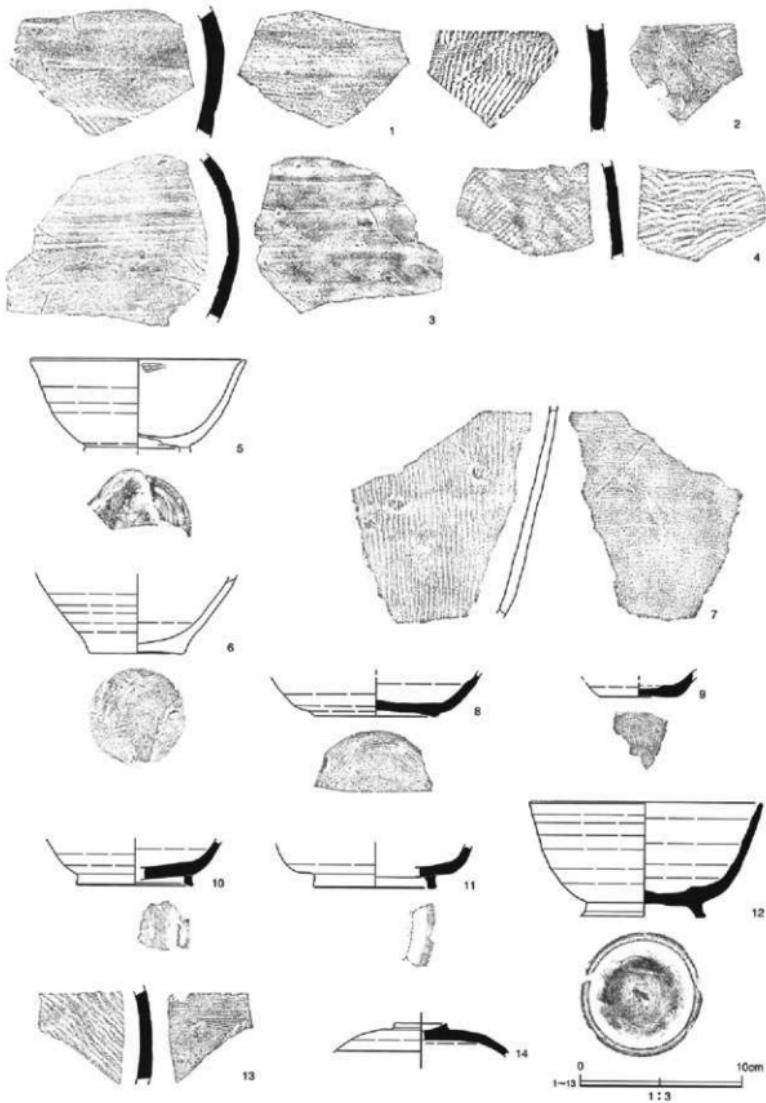
第54図 ST616出土遺物



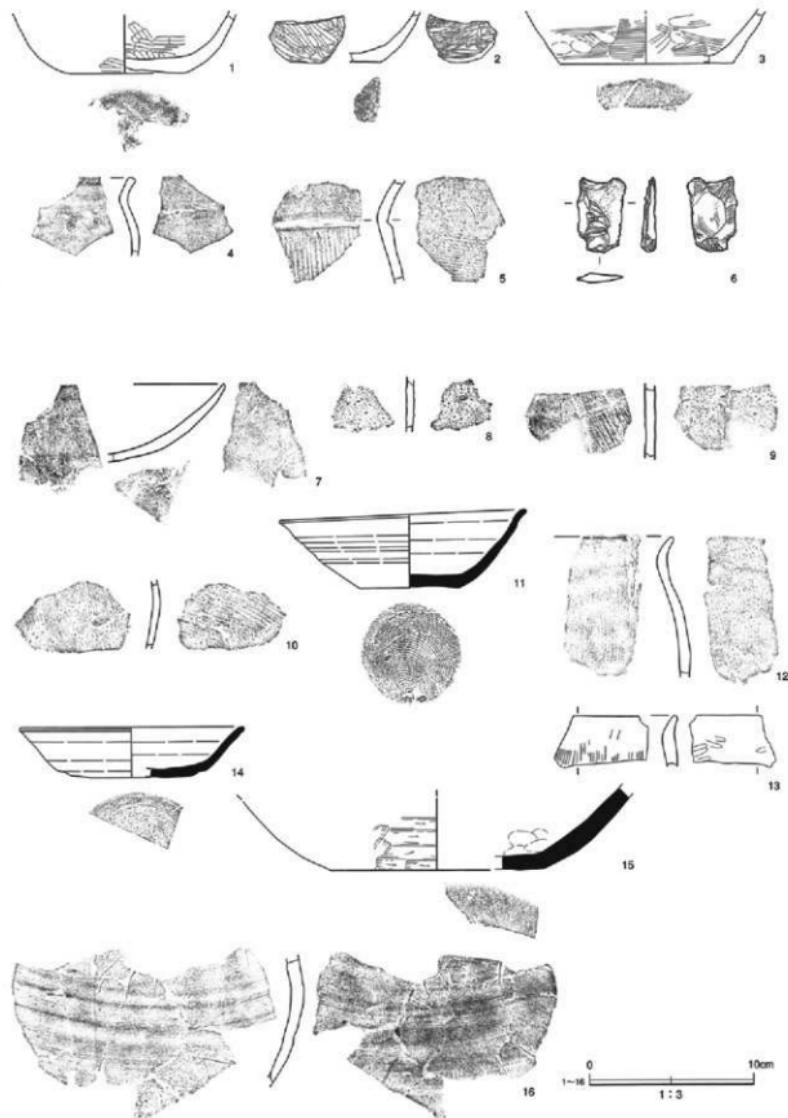
第55図 SD440出土遺物、SD496出土遺物(1)



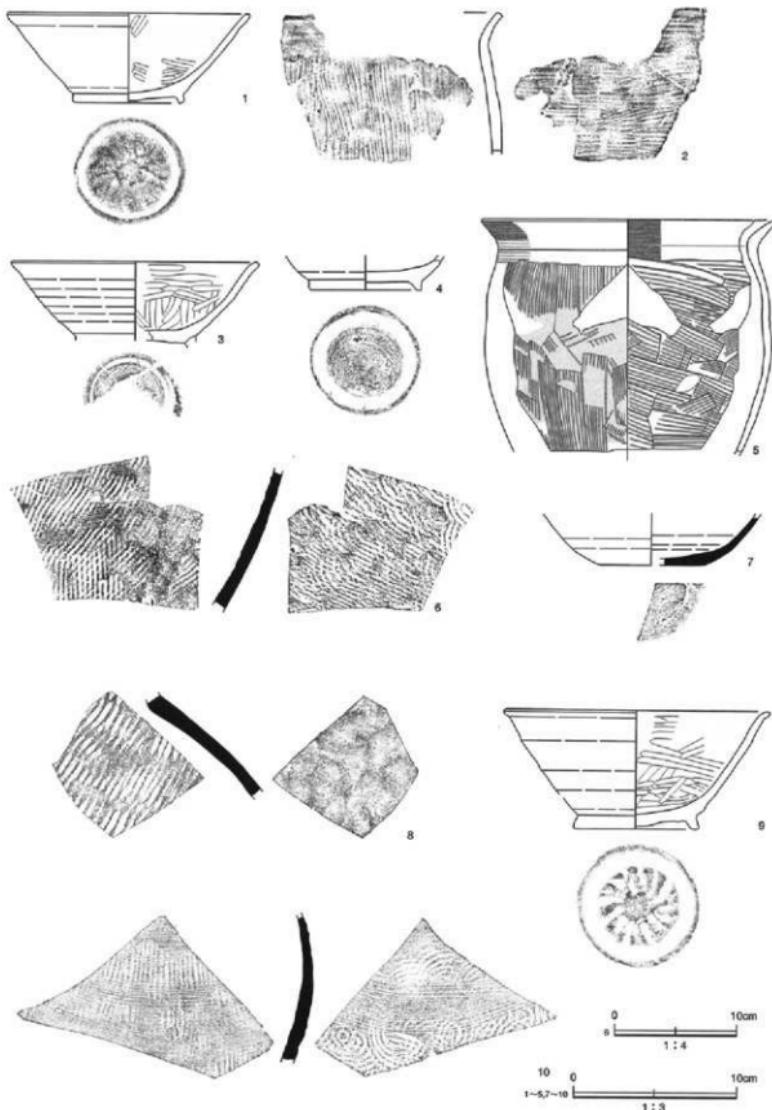
第56図 SD496出土遺物(2)、SD567出土遺物、SD581出土遺物(1)



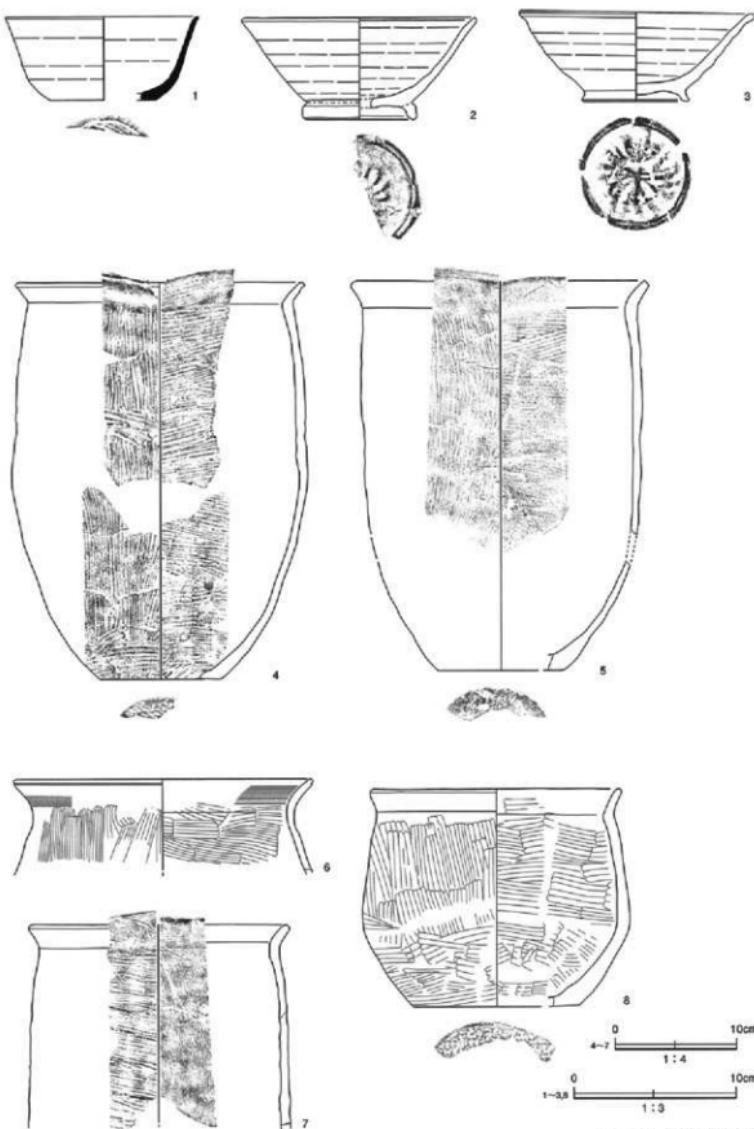
第57図 SD581出土遺物 (2)、SD582出土遺物、SD585出土遺物 (1)



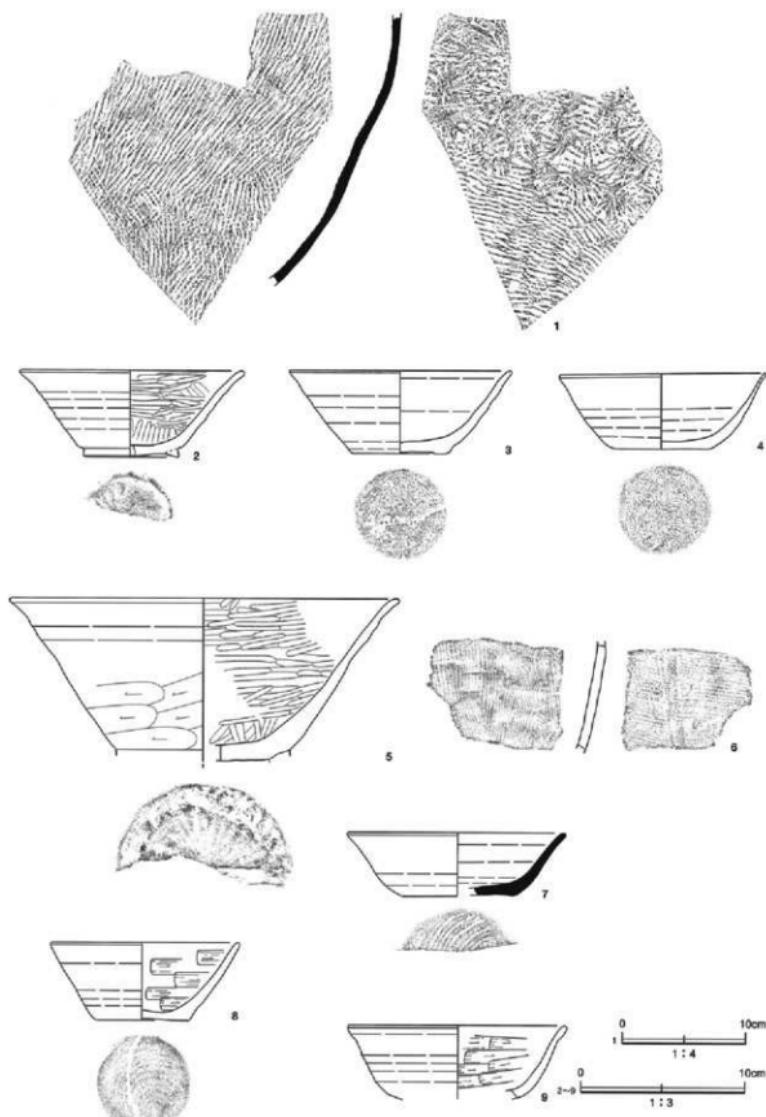
第58図 SD585出土遺物(2)、SK206・SK224・SK568・SK595・SK500出土遺物



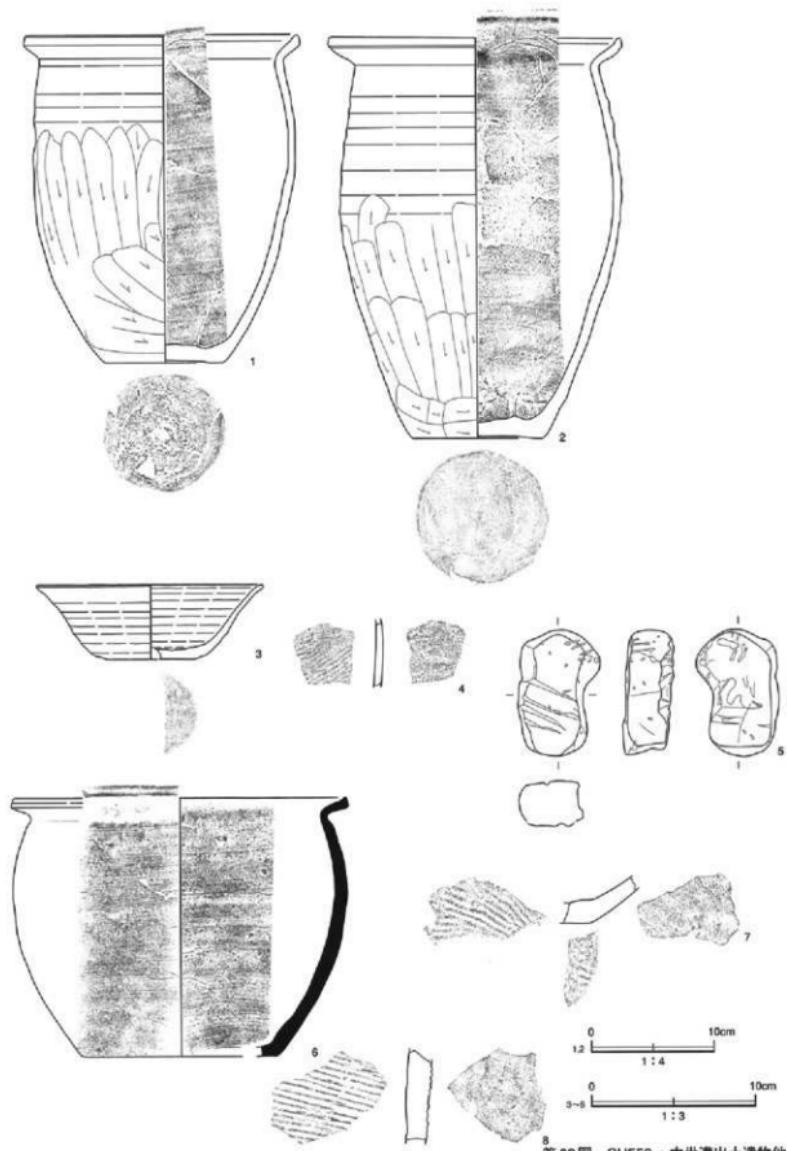
第59図 SK622・SK624・SK625・SK626出土遺物



第60図 SK627出土遺物



第61図 SK629・SX457・SP408・SP570・SP555出土遺物



第62図 SH553・中世溝出土遺物他

綱 約 表

豎穴住居跡観察表

遺構番号 グリッド	平面形	主軸方向 (長軸)	規模 (m) 南北 東西	深さ (m)	床面状況	カマド・炉	ピット・貯蔵穴	備考・出土遺物	
ST69 32-71G				0.06	貼床(純褐色 色粘質シルト)		(柱穴 1)	南西角のみ 段状痕跡ほか、便器	
ST70 32-71G				0.14	貼床(純褐色 色粘質シルト)			南東角のみ複数 段状痕跡ほか、便器	
ST262 34-73G	N10° E			0.05	直床			北西角をわずかに突出 覆土より灰瓦器、土師器の小片のみ	
ST367 37-49G					直床			中世罐によりほとんど削平され 覆土より灰瓦器、土師器の小片のみ	
ST400 39-68G	扇丸方形	N65° W	5.0	4.8	0.26	貼床(純褐色 色粘質シルト)	南辺東部 EL420	6 (EP540, EP541, EP542, EP543, EP544, EP545)	ST425 を切る 須恵器ほか、土師器ほか、土師器蓋等
ST425 39-68G	扇丸方形	N2° W	3.0	3.0	0.20	貼床(純褐色 色粘質シルト)		4 (EP562, EP563, EP564, EP563)	覆土より灰瓦器、土師器等
ST460 41-88G	扇丸長方形	N12° W	4.4	3.6	0.20	貼床(砂壁)	東辺中央?	なし	SD567 に切られる 須恵器ほか、須恵器蓋、土師器ほか、土師器等
ST470 41-87G	長方形	N16° W	2.8	3.2	0.14	直床	南辺東部 EL481	柱穴 3 (EP462, SP465, EP546)	SD567, SD496 に切られる 覆土より灰瓦器、土師器の小片のみ
ST488 41-65G	扇丸方形?	N4° W			0.30	直床		柱穴 4 (EP632, EP633, EP646, EP647)	ST582, ST616 に切られる 須恵器蓋ほか、土師器
ST491 42-87G	扇丸長方形	西北	3.2	3.8	0.23	部分貼床(純 褐色色粘質シルト)		柱穴 3 (EP572, SP482, SP558)	SD496 に切られる 須恵器环(残書を含む)、土師器环、 土師器
ST492 42-66G	長方形?	N10° W	2.8		0.10	部分貼床(純 褐色色粘質シルト)	南辺西部?		ST532 に切られる、SK58 に切られる 須恵器环、須恵器蓋、土師器環
ST504 43-65G	不整形	N8° E	5.0	5.2	0.40	部分貼床(純 褐色色粘質シルト)	東辺中央?		SD585 に切られる、須恵器环、須恵器 蓋、土師器环、土師器蓋、石器
ST522 44-64G	不整形	N4° W	(4.0)		0.20	直床	南辺西部? EL540		ST597 に切られ、ST523 を切る 須恵器环、土師器环、土師器蓋
ST523 44-63G	扇丸方形	N9° W		4.1	0.20	直床		柱穴 2 (SP64., SP611)	ST597, ST322 に切られる 須恵器环、土师器环、土师器蓋
ST528 44-64G	長方形	N5° W	3.8	3.8	0.35	直床			ST530 に切られる 須恵器环、須恵器蓋、土师器环、土师器蓋
ST530 44-64G	不整形	N4° W	4.6	3.0	0.45	貼床(純褐色 色粘質シルト)	南辺西部 EL614		ST538 を切る 須恵器环、須恵器蓋、土师器环、土师器蓋
ST532 42-65G		西北	(6.3)		0.20	直床			ST488, ST616 に切られる 須恵器环、土师器环の小片のみ
ST589 45-63G					0.10	直床			ST591 に切られる、南西角のみ複数 須恵器环、須恵器、土师器蓋
ST591 45-63G					0.27	直床			ST598 を切る 須恵器、土师器の小片のみ
ST597 44-63G	不整形	N35° W		3.0	0.23	貼床(褐色 色粘質シルト)	南辺東部 EL613		ST523, ST522 を切る 須恵器环、須恵器蓋、須恵器、土师 器环、土师器蓋
ST599 45-64G		N10° W			0.30	直床	南辺西部 EL600		南西角のみ複数 須恵器环、土师器の小片
ST616 41-64G	長方形	N4° E	5.7	4.9	0.18	貼床(灰褐色 色及び褐色 色粘質シルト)	南辺中央 EL630	柱穴 6 (EP636, EP639, EP641, EP638, EP644, EP645) 貯藏 穴 1 (EK627)	ST532, ST488 を切る 須恵器环、須恵器蓋、土师器环、土师 器蓋

掘立柱建物跡観察表

遺構番号 グリッド	構成遺構	柱間寸法	備考
SB601 35-72G	SP216, SP219 SP217, SP220	SP216-SP219 間 1.7m, SP219-SP259 間 1.75m SP217, SP220 SP219-SP217 間 1.9m, SP259-SP247 間 1.75m	SP229 に切られる
	SP247		
SB605 35-70G	SP342, SP328 SP331, SP332 SP333, SP329	SP342-SP328 間 1.8m, SP328-SP322 間 1.4m SP331-SP333 間 1.4m, SP333-SP331 間 1.95m SP333, SP329 SP311-SP399 間 1.8m	
	SP468-SP466 SP450-SP446 SP447-SP449 SP467	SP468-SP466 間 1.4m SP450-SP446 間 1.2m, SP466-SP450 間 1.25m SP447-SP449 SP450-SP477 間 1.2m, SP447-SP446 間 1.3m SP467	SD440 を切る
SB610 41-65G	SK621, SP634 SP620, SP619	SK621-SP634 間 1.4m, SP634-SP620 間 1.4m SP620-SP619 間 1.35m	SD567 を切る

杭列・柵跡観察表

遺跡番号	グリッド	構造遺構	寸法	備考
SA606	33-71G	SP240, SP258, SP262, SP257, SP266, SP271, SP291, SP265	13.5m	
SA607	33-71G	SK234, SD244, SP238, SP287, SP236, SP254, SP236, SP275, SP279, SP290, SP274, SP265, SP297, SP202, SP304, SP205, SP206, SP207	5.0m	SK224より須恵器环、土師器片(破片)出土
SA608	33-71G	SP222, SK223, SP239, SP245, SP228, SP235, SP264, SP273, SP282, SP283, SP254, SP265, SP266, SP253, SP316	12.5m	

溝跡観察表

遺跡番号	グリッド	形狀	調査区内の規模 (m)			備考・出土遺物
			長さ	幅	深さ	
SD372	38-70G	直行	1.2	0.5	0.18	円形の掘り込みがあり、柱穴跡・出土遺物なし
SD380	37-69G	U の字屈曲	1.2	0.5	0.07	須恵器、土師器の小片のみ
SD390	38-68G	ほぼ直行	3.6	0.5	0.2	ST400 を切る。ST400 付萬葉残文?、土師器の小片のみ
SD388	38-69G	ほぼ直行	1.7	0.3	0.05	現に延びる可能性がある、中世跡にほんと削除される、出土遺物なし
SD407	39-69G	直行	4.3	0.3	0.1	須恵器、土師器の小片のみ
SD410	39-69G ~ 40-69G	直行	6.4	0.3	0.2	便用?、河岸跡に切られる。須恵器、土師器の小片のみ
SD419	39-68G	直行	2.4	0.4	0.15	河岸跡に切られる。須恵器、土師器の小片のみ
SD440	39-68G ~ 41-67G	縦い蛇行	12.5	1.0	0.25	ST400, ST425 を切る。須恵器、須恵器、須恵器、土師器
SD454	40-67G	直行	2.2	0.9	0.2	円形の掘り込みがあり、柱穴跡・出土遺物なし
SD488	40-68G	直行	1.6	0.9	0.13	出土遺物なし
SD495	41-66G ~ 43-65G	U の字屈曲	16.9	2.5	0.2	ST470, ST491, SX494 を切る。須恵器、須恵器、須恵器、土師器
SD666	41-67G	直行	1.5	0.5	0.15	SD667 に切られる。須恵器、土師器の小片のみ
SD667	41-67G ~	ほぼ直行	15.6	0.9	0.15	SD666 を切る。須恵器、須恵器、土師器
SD681	43-66G ~ 44-65G	縦い蛇行	8.0	0.7	0.45	ST504 を切る。SD682 から分かれ。SD688 に続く。須恵器、須恵器、土師器、土師器
SD682	42-67G ~ 43-66G	縦い蛇行	5.1	0.8	0.4	SD681 から切れる。須恵器、須恵器、土師器、土師器
SD685	43-66 ~ 64G	ほぼ直行	7.3	0.9	0.4	SD681 から縦く。ST504, ST528 を切る。須恵器、須恵器、土師器、土師器

土坑跡観察表

遺跡番号	グリッド	規模 (m)			備考・出土遺物	遺跡番号	グリッド	規模 (m)			備考・出土遺物
		長径	幅径	深さ				長径	幅径	深さ	
SK201	32-71G	1.2	1	0.3	SK202, SK303 を切る。土師器の破片のみ	SK590	45-64G	1	0.9	0.3	土師器、須恵器
SK202	32-71G			-0.15		SK595	44-64G	2.9	0.6	0.25	ST322, ST328 を切る。須恵器、須恵器
SK203	32-71G	1.8			SK203 を切る	SK621	41-64G	0.9	0.8	0.2	SD610 の柱子遺構
SK204	32-71G	1	0.2	0.05		SK622	42-64G	2	0.9	0.2	SK629 を切る。土師器、土師器
SK205	32-71G			0.15	ST70 を切る	SK624	41-65G	2.2	1.8	0.2	SD567, ST165 を切る。須恵器、土師器
SK206	32-71G	1.6			SK625	41-64G	1.4	1.2	0.2	ST616 を切る。須恵器	
ST209	33-71G	2.8	1.6	0.12	貼床(10YB4/3 純質陶色粘質シート)	SK626	42-64G	2	1.7	0.3	ST616 を切る。EP544 を切る。須恵器、須恵器、土師器
SK210	33-71G	1.7	1.2	0.12	ST209 に切られる	SK627	42-64G	1.3	1.2	0.1	須恵器、土師器、土師器
SK223	33-71G	0.7	0.6	0.2	SA608 の園子遺構	SK629	42-64G	1.2		0.2	ER627, EK622 に切られる。須恵器、土師器
SK224	33-71G		0.25	0.1	SD244, SK225 を切る。須恵器、土師器	SK630	42-67G				土師器
SK225	33-71G		0.8	0.1	SA607 の園子遺構土師器	EU564	45-62G				近代の掘り込み
SK251	34-72G		0.5	0.2	東側跡	EU574	44-64G	1.2	0.3	0.4	EU564 の掘り込み
SK320	34-70G	1.2	0.5	0.1		EU576	44-63G				近代の掘り込み
SK336	33-71G	0.5	0.4	0.15		BU577	45-64G				近代の掘り込み
SK347	36-69G	1.2	1.1	0.1		SX248	33-72G				灰被跡
SK348	36-69G					SX340	36-69G				西窓跡
SK359	37-69G	0.9	0.7	0.35		SX350	36-69G	0.8	0.5	0.2	西窓跡。あたりあり
SK366	37-69G	1.9	-1.2		二重柱穴	SX351	36-69G				SX350 に切れる
SK371	37-69G	2.3	1.1	0.2		SX352	36-69G				SX351 を切る
SK374	37-69G	0.8	0.4	0.1		SX353	36-69G				SX352 を切る
SK406	39-69G	-1.5	0.5	0.1	SD407 を切る	SX354	37-70G				SX353 を切る
SK412	39-69G	1	0.8	0.35	SD407 を切る	SX384	37-69G				西窓跡
SK426	39-69G	1.1	0.6	0.2	柱穴跡?	SX408	41-67G				柱穴跡?
SK471	40-66G	0.9	0.4	0.1	二重柱穴。あたりあり	SX456	43-68G				田河道上、SX457 に切られる
SK486	41-66G	0.8	0.5	0.1	柱穴跡	SX457	40-68G		0.4	0.15	田河道上、SX456 を切る。土師器
SX329	44-63G	1.6	1.3	0.2	古代の掘り込み、EUS74 を含む	SX471	40-66G				二重柱穴
SX368	42-66G			0.12	ST492 の園子遺構、カマドを持つ (EL578)、土師器、土師器	SX494	42-66G				SF508 に切られる
SX497	43-65G					SX497	43-65G				ST504, SD496 に切られる

土器觀察表(1)

番号	器物名	種別	構造	底分	口径 口縁部～底部 (mm)	計 面 積 (mm ²)	底形 形状 切手 印	底形 調整 寸法 (mm)	内面調査 底形調整	外面調査 底形調整	出土風入物	表面色調	出土色調	その他	出土場所・位置				
															出土場所・位置				
1	須恵器	环	口縁部～底部 （148.0）	115	115	115	アサヒ 波状線	ロクロ	長石、石英、酸化 鉄	ナカ	灰白色	59R56.1	青灰色	59R56.1	S770 (KPS617)	底部	自然色		
2	須恵器	壳	口縁部～底部 （148.0）	146.0	33.0	80.0	37	ハラ切り	ロクロ	長石、石英	ナカ	灰白色	59S.0	灰白色	59S.0	S780 (KPS623)	自然色		
3	須恵器	环	底部～口縁部 （123.0）	133.0	38.0	70.0	74.0	ハラ切り	ロクロ	長石、長石 石英	2557.1	灰白色	2557.1	灰白色	2557.1	S770 (KPS604)	自然色		
4	須恵器	环	口縁部～底部 （122.0）	134.0	34.0	74.0	74.0	ハラ切り	ロクロ	長石、軸に輪 状	107YR6/6	明黄色	107YR6/6	明黄色	107YR6/6	S770 (KPS607)	朱子仕面		
5	須恵器	环	口縁部～底部 （122.0）	16.0	42	84.0	94.0	ハラ切り	ロクロ	長石、軸に輪 状	2557.1	灰白色	2557.1	灰白色	2557.1	S770 (KPS606)	灰白色		
6	須恵器	高台付环	口縁部～底部 （122.0）	16.0	74.0	94.0	56	ハラ切り	ロクロ	長石、黒砂（微少）	2557.1	灰白色	2557.1	灰白色	2557.1	S770 (KPS609)	灰白色		
7	須恵器	壳	つまみ～底部 （22）	7.0	7.0	7.0	7.0	ロクロ	ロソリ、ナ ホリ	赤色砂粒、石英、長石	59S.0	灰白色	59S.0	灰白色	59S.0	S770	灰白色		
8	須恵器	壳	口縁	170.0	7.0	7.0	7.0	ロクロ	ロクロ	長石、雲母	107YR6/6	灰白色	107YR6/6	灰白色	107YR6/6	S770 (KPS601)	灰白色		
38	須恵器	壳	口縁部～底部 （122.0）	9.1	9.1	9.1	9.1	ロクロ	ロクロ	長石、石英、赤色砂粒	59S.0	灰白色	59S.0	灰白色	59S.0	S770 (KPS610)	赤色砂粒		
10	須恵器	壳	口縁部～底部 （122.0）	8.9	8.9	8.9	8.9	ロクロ	ロクロ	長石、石英、石英（微少）	59Y5/1	灰白色	59Y5/1	灰白色	59Y5/1	S770	自然色		
11	須恵器	壳	口縁部～底部 （122.0）	8.1	8.1	8.1	8.1	ロクロ	ロクロ	長石	525T5.2	乳白色	525T5.1	オーバー ド	525T5.1	金合スズ材質	525T5.1		
12	土師器	环	底	6.7	6.7	6.7	6.7	ロクロ	ロクロ	赤色砂粒、実機	59YR7.6	褐色	59S.0	灰白色	59S.0	S770 (KPS640)	灰白色		
13	土師器	壳	口縁	50.0	6.1	50.0	50.0	ロクロ	ロクロ	赤色砂粒、長石	59YR7.6	褐色	107YR6/4	淡黃褐色	107YR6/4	S770	「薄暗部」に淡黃褐色		
14	土師器	壳	口縁部	7.8	7.8	7.8	7.8	ロクロナナ デ	ロクロナナ デ	長石、石英、実機	59YR7.6	褐色	75T5R4	角柱地	75T5R4	S770 (KPS607)	角柱地		
15	土師器	壳	口縁部～底部 （122.0）	3.3	3.3	3.3	3.3	ロクロ	ロクロ	赤色砂粒、石英、長石	107YR6/4	淡黃褐色	107YR6/4	淡黃褐色	107YR6/4	S770 (KPS609)	淡黃褐色		
16	土師器	壳	口縁部～底部 （122.0）	8.5	8.5	8.5	8.5	羅引目	ロクロ	赤色砂粒、石英、長石	2557.1	灰白色	2557.1	灰白色	2557.1	S770 (KPS602)	灰白色		
17	土師器	壳	口縁部～底部 （122.0）	5.3	5.3	5.3	5.3	ロクロ	ロクロ	赤色砂粒、長石、青白 石	59YR6/6	褐色	107YR6/4	淡黃褐色	107YR6/4	S770	淡黃褐色		
1	須恵器	环	底	142.0	26.0	50.0	50.0	斜板底凹印	ロクロ	ナカ	(定めのため不規 則)	59R6/1	青灰色	250T5.1	オーバー ド	250T5.1	59R6/1	青灰色	
2	須恵器	环	底	138.0	36.0	60.0	53	斜板底凹印	ロクロ	ナカ	(定めのため不規 則)	59R7/0	灰白色	59R7/0	灰白色	59R7/0	S770 (KPS654)	底部深灰色	
3	須恵器	环	口縁部～底部 （140.0）	3.3	3.3	3.3	3.3	ロクロ	ロクロ	長石、石英、實機	59S.0	灰白色	59S.0	灰白色	59S.0	S770 (KPS651)	底部に棒上痕		
4	須恵器	有台环	底	112.0	111.0	90.0	70.0	斜板底凹印	ロクロ	長石、石英、實機	59S.0	灰白色	59S.0	灰白色	59S.0	S770 (KPS653)	斜板底凹印		
5	土師器	小盤	口縁～底部 （150.0）	146.5	70.0	50	50	斜板底凹印	ロクロ	ナカ	ナカ、ナカ ナカ	59YR7.3	褐色	75T5R7.2	明黄色	75T5R7.2	S770 (KPS651)	明黄色	
6	土師器	壳	口縁部～底部 （156.0）	5.0	5.0	5.0	5.0	斜板底凹印	ロクロ	ナカ	ナカ	59YR7.6	褐色	59YR7.4	淡黃褐色	59YR7.6	S770 (KPS652)	淡黃褐色	
39	7	土師器	壳	口縁部～底部 （156.0）	112.0	111.0	90.0	70.0	斜板底凹印	ロクロ	ナカ	ナカ	59YR6/6	褐色	255T5.4	純褐色	255T5.4	S770 (KPS650)	斜板底凹印
8	土師器	小盤	口縁	134.0	6.0	6.0	6.0	ナカナ カナ	ナカ	ナカ、ナカ ナカ	107YR7.2	黃褐色	107YR7.2	黃褐色	107YR7.2	S770	黃褐色		
9	土師器	壳	口縁部	125.0	6.4	6.4	6.4	ナカナ カナ	ナカ	ナカ、ナカ ナカ	107YR6/3	淡黃褐色	107YR6/3	淡黃褐色	107YR6/3	S770 (KPS654)	淡黃褐色		
10	土師器	壳	口縁部～底部 （140.0）	7.0	7.0	7.0	7.0	ナカナ カナ	ナカ	ナカ	59YR7.4	純褐色	59YR7.3	淡黃褐色	59YR7.3	S770 (KPS653)	內外面スズ仕上げ		
11	土師器	壳	口縁部～底部 （140.0）	7.6	7.6	7.6	7.6	糊毛目	糊毛目	ナカ	59YR6/6	純褐色	75YR6/2	淡黃褐色	75YR6/2	S770 (KPS654)	糊毛目		
12	土師器	壳	口縁部～底部 （140.0）	4.9	4.9	4.9	4.9	糊毛目	糊毛目	ナカ	59YR7.6	褐色	59YR7.6	褐色	59YR7.6	S770 (KPS655)	糊毛目		
13	土師器	壳	口縁部～底部 （140.0）	4.9	4.9	4.9	4.9	糊毛目	糊毛目	ナカ	59YR7.6	褐色	75YR6/3	淡黃褐色	75YR6/3	S770 (KPS653)	糊毛目		

土器觀察表(2)

形態 番号	種別	器種	部分	計 量 目	口徑 留 目	底 留 目	外觀測量	内觀測量	胎土塊入物	表面色調	胎土色調	その他	出土場所・位置
1	土師器	甕	全体		5.6	5.6	赤色沙粒、長石 等毛目	赤色沙粒、長石 等毛目	赤色沙粒、長石 等毛目	25YR7/4 赤色	25YR7/3 浅黃褐色	22度同一直線上	ST460 (EP703)
2	土師器	甕	底部-体部		38.0	15.0	底面周長目 ナナメ (100)	底面周長目 ナナメ (100)	底面周長目 ナナメ 等毛目	10YR7/4 赤色	10YR7/4 赤色	45度同一直線上	ST460 (EP707)
3	土師器	小鉢			6.0	6.0	赤色沙粒、長石 等毛目	赤色沙粒、長石 等毛目	赤色沙粒、長石 等毛目	25YR7/6 赤色	25YR7/6 赤色	45度同一直線上	ST460 (EP704)
4	土師器	甕	全体		(100)	(6.0)	赤色沙粒、長石 等毛目	赤色沙粒、長石 等毛目	赤色沙粒、長石 等毛目	25YR7/4 赤色	25YR7/4 赤色	45度同一直線上	ST460 (EP703)
5	土師器	甕	上部断面		(100)	(6.0)	口クロ	口クロ	口クロ	10YR7/1 灰褐色	10YR7/1 灰褐色	45度同一直線上	ST460 (EP707)
40	6	瓦器器	瓦筒-环	底部	(110.0)	(7.0)	側面切切り	側面切切り	側面切切り	25YR7/1 黑色	25YR7/1 黑色	5度同一直線上	ST460 (EP707)
7	瓦器器	瓦	全体(底)		(140.0)	9.1	ヘラカガ 等毛目	ヘラカガ 等毛目	ヘラカガ 等毛目	10YR5/1 灰褐色	10YR5/1 灰褐色	45度同一直線上	ST460 (EP706)
8	土師器	小甕	口部-体部		(120.0)		5.5	5.5	5.5	10YR7/2 赤色	10YR7/2 赤色	45度同一直線上	ST460 (EP705)
9	土師器	瓦	底部-体部		(150.0)	(6.0)	側面切切り	側面切切り	側面切切り	25YR7/4 赤色	25YR7/4 赤色	45度同一直線上	ST460 (EP706)
2	土師器	瓦筒	底部-口部部		169.0	74.0	70.0	5.0	ヘラカガ 等毛目	10YR7/2 灰褐色	10YR7/2 灰褐色	45度同一直線上	ST460 (EP707)
3	土師器	瓦	底部-口部部		(154.0)	(7.0)	70.0	5.0	ヘラカガ 等毛目	10YR7/2 灰褐色	10YR7/2 灰褐色	45度同一直線上	ST460 (EP706)
4	土師器	瓦	底部-口部部		(164.0)	(8.0)	70.0	5.0	ヘラカガ 等毛目	10YR7/2 灰褐色	10YR7/2 灰褐色	45度同一直線上	ST460 (EP706)
5	土師器	瓦	全体		142.0	38.0	75.0	5.0	口クロ?	10YR7/4 灰褐色	10YR7/3 灰褐色	45度同一直線上	ST460 (EP706)
41	6	瓦器器	瓦		(180.0)	5.2	口クロ	口クロ	口クロ	10YR7/4 灰褐色	10YR7/4 灰褐色	45度同一直線上	ST460 (EP706)
7	土師器	杯	全体-体部		(110.0)	6.7	木漆瓶	内留 牛	ナデ	25YR7/6 赤色	25YR7/3 浅黃褐色	45度同一直線上	ST460 (EP705)
8	瓦器器	盆	全体-体部		130	4.8	口クロ	ヘラカガ 等毛目	ヘラカガ 等毛目	10YR7/6 赤色	10YR7/6 赤色	45度同一直線上	ST460 (EP707)
9	土師器	杯	底部-口部部		(162.0)	(1.0)	木漆瓶	等毛目	等毛目	10YR7/8 赤色	10YR7/8 赤色	45度同一直線上	ST460 (EP706)
10	土師器	甕	口部-体部		(60.0)	8.6	8.6	8.6	8.6	10YR7/6 赤色	10YR7/6 赤色	45度同一直線上	ST460 (EP706)
1	土師器	甕	口部-体部		(284.0)	7.6	等毛目	等毛目	等毛目	10YR7/3 赤色	10YR7/3 赤色	45度同一直線上	ST460 (EP707)
2	土師器	甕	口部-体部		(125.0)	(6.0)	ナナメ	ナナメ	ナナメ	25YR7/4 赤色	25YR7/4 赤色	45度同一直線上	ST460 (EP707)
3	土師器	甕	底部-口部部		(188.0)	(6.0)	木漆瓶	木漆瓶	木漆瓶	10YR7/2 赤色	10YR7/2 赤色	45度同一直線上	ST460 (EP706)
42	4	土師器	长脚甕	全体	234.0	37.0	(60.0)	8.5	木漆瓶	10YR7/4 赤色	10YR7/4 赤色	45度同一直線上	ST460 (EP707)
5	瓦器器	盆	全体		100	10.0	口クロ	口クロ	口クロ	5YR7/1 灰褐色	5YR7/1 灰褐色	45度同一直線上	ST460 (EP706)
6	土師器	甕	底部-体部		40?	13.0	ミガキ	ミガキ	ミガキ	25YR7/6 赤色	25YR7/6 赤色	45度同一直線上	ST460 (EP707)
1	瓦器器	瓦筒	全体-口部部		70.0	6.0	側面切切り	側面切切り	側面切切り	10YR7/1 黑色	10YR7/1 黑色	45度同一直線上	ST460 (EP706)
43	2	土師器	甕	底部	(220)	6.0	側面切切り	側面切切り	側面切切り	10YR7/8 赤色	10YR7/8 赤色	45度同一直線上	ST460 (EP707)

土器類別表(3)

固形物 番号	通 番号	種別	分類	断面 口径	計測 基高	地径	周厚	底延 部形	底延 部形	外側調査	底土層入物	表面色調	粘土色調	その他	
3	土壌器	甕	筒形	6.0	6.0	6.0	0.5	切口目?	石英、長石、雲母	107YR7/4 黄褐色	107YR7/4 黄褐色	107YR7/4 黄褐色	107YR7/4 黄褐色	ST68F	
4	土壌器	甕	筒形	10.0	10.0	10.0	1.0	断面丸切口	白色砂粒、貝石	55YR7/2 黃褐色	107YR7/2 黄褐色	107YR7/2 黄褐色	107YR7/2 黄褐色	ST68F	
5	東北器	甕	筒形	(660)	4.1	4.1	0.5	断面丸切口	白色砂粒、貝石	25YR8/2 灰白色	25YR8/2 灰白色	25YR8/2 灰白色	25YR8/2 灰白色	ST62F	
6	東北器	甕	筒形	(786)	4.5	4.5	0.5	断面丸切口	長石	25YR6/1 灰色	25YR6/1 灰色	25YR6/1 灰色	25YR6/1 灰色	ST62F	
7	土壌器	甕	筒形	6.4	6.4	6.4	0.5	切口、ミガ 底	石英、長石、雲母	32YR7/2 黑色	107YR7/2 黄褐色	107YR7/2 黄褐色	107YR7/2 黄褐色	ST68F	
8	土壌器	甕	筒形	(1320)	45.0	(580)	5.5	断面丸切口	石英、長石、雲母	55YR7/6 黃褐色	107YR7/1 灰色	107YR7/1 灰色	107YR7/1 灰色	ST62 (RP713)	
9	土壌器	甕	筒形	(1125)	(3.2)	(3.2)	0.5	断面丸切口	白色砂粒、石英、長石、 雲母	25YR7/2 灰白色	107YR7/1 灰白色	107YR7/1 灰白色	107YR7/1 灰白色	ST62F	
43	10	土壌器	甕	(1370)	55.5	(520)	4.0	断面丸切口	白色砂粒、長石、石英	30YR6/6 灰色	35YR7/6 灰色	107YR7/4 灰褐色	107YR7/4 灰褐色	ST62 (RP726)	
11	土壌器	甕	筒形	(1600)	3.3	3.3	0.5	断面丸切口	白色砂粒、長石、 雲母	25YR7/6 灰色	107YR7/6 灰色	107YR7/6 灰色	107YR7/6 灰色	ST62 (RP713)	
12	土壌器	甕	筒形	-口縁部	63.0	8.0	0.5	断面丸切口	白色砂粒、石英、長石、 雲母	55YR7/4 黃褐色	55YR7/4 黃褐色	55YR7/4 黃褐色	55YR7/4 黃褐色	ST62 (RP714)	
13	土壌器	小甕	筒形	-口縁部	(1800)	8.2	0.5	断面丸切口	白色砂粒、雲母	25YR7/2 灰白色	107YR7/1 灰白色	107YR7/1 灰白色	107YR7/1 灰白色	ST62 (RP715)	
14	土壌器	甕	筒形	7.5	7.5	7.5	0.5	断面丸切口	白色砂粒、長石、雲母	107YR7/2 黃褐色	107YR7/2 黃褐色	107YR7/2 黃褐色	107YR7/2 黃褐色	ST62 (RP716)	
15	土壌器	甕	筒形	(710)	7.5	7.5	0.5	ヘラ切り?	長石、雲母、石英	107YR8/2 灰色	107YR8/2 灰色	107YR8/2 灰色	107YR8/2 灰色	ST62 (RP712)	
16	土壌器	小甕	筒形	-口縁部	(1260)	5.6	0.5	断面丸切口	白色砂粒、長石、雲母	25YR7/6 灰褐色	107YR8/6 灰褐色	107YR8/6 灰褐色	107YR8/6 灰褐色	ST62 (RP715)	
1	須恵器	甕	筒形	(1380)	(47.0)	(580)	(9.0)	断面丸切口	ヘラ切り?	白色砂粒、 長石	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	ST59F
2	須恵器	甕	筒形	150.0	70.0	75.0	9.0	断面丸切口	白色砂粒、カ 白化鉄鉱、 長石	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	ST59F (RP731)	
3	須恵器	甕	筒形	146.0	60.0	60.0	8.0	断面丸切口	白色砂粒、 長石	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	ST59F (RP735)	
4	須恵器	有台甕	筒形	135.0	60.0	60.0	8.0	断面丸切口	白色砂粒、 長石	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	ST59F	
5	須恵器	甕	筒形	146.0	60.0	60.0	8.0	断面丸切口	白色砂粒、 長石	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	ST59F	
44	6	須恵器	甕	筒形	(700)	9.2	0.5	断面丸切口	ヘラナード 白色砂粒	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	ST59F (RP726)	
7	須恵器	甕	筒形	6.0	6.0	6.0	0.5	断面丸切口	白色砂粒	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	25YR7/1 黃褐色	ST59F	
8	須恵器	甕	筒形	8.5	8.5	8.5	0.5	カキメ、テ ナキメ	長石、雲母、 白色砂粒	107YR7/1 新鮮灰褐色	107YR7/1 新鮮灰褐色	107YR7/1 新鮮灰褐色	107YR7/1 新鮮灰褐色	ST59F (RP751)	
9	須恵器	甕	筒形	11.0	11.0	11.0	0.5	アコ(青) 底次元	長石、 白色砂粒	25YR7/1 黑色	Ns.0	灰色	白色	白色	ST59F
10	須恵器	甕	筒形	8.0	8.0	8.0	0.5	ヘナナード、 強次元	長石、 白色砂粒	25YR5/1 黑色	25YR5/1 黑色	25YR5/1 黑色	25YR5/1 黑色	ST59F	
11	須恵器	甕	筒形	11.0	11.0	11.0	0.5	ヘナナード、 底次元	長石、 白色砂粒	25YR7/1 黑色	25YR7/1 黑色	25YR7/1 黑色	25YR7/1 黑色	ST59F	
12	須恵器	甕	筒形	6.0	6.0	6.0	0.5	カキメ	長石、 白色砂粒	25YR7/1 黑色	25YR7/1 黑色	25YR7/1 黑色	25YR7/1 黑色	ST59F	
13	須恵器	甕	筒形	9.0	9.0	9.0	0.5	ロクロ	長石	32YR7/1 灰色	32YR7/1 灰色	32YR7/1 灰色	32YR7/1 灰色	ST59F	

土樣觀察表(4)

國名 省名	地名	種別	花崗岩	部分	計 面 積 (單位 : m ²)	計 面 積 (單位 : m ²)	高 度 標 高	標 高	外觀特徵	內面觀 察	黏土混入物	表面色調	底土色調	その他の 特徴・位置	
1	東忠留	英	口継谷~谷部		130	100	130	100	石塊、カ ルトロ、た き目、木 目、火打目 等	石塊、火打 目等	長石、安山岩質 砂	25Y5/1 5YR7/6	褐灰色 褐色	SRT5/1 SRT5/4	
2	土浦留	坏	底部~体部		650	100	650	100	圓板狀切 口	ロクロ	長石、雲母 等	75Y5/8/4 5YR7/6	浅黃褐色 褐色	自然色、內部 黑色或深 色	
3	土浦留	坏	底部~体部		800	85	800	85	火打目、 木目	ロクロ	赤色砂粒、長石、雲母	5YR7/6 5YR5/6	褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F	
4	土浦留	坏	底部		(60.0)	8.0	(60.0)	8.0	赤切引?	ロクロ、ミ ガキ?	赤色砂粒、石英、長石	5YR5/6 5YR5/6	褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F	
46	5	土海留	小型變	口継谷~谷部	1100	6.5	650	6.5	火打目、ナ カキ?	ナ カキ?	赤色砂粒、石英、長石、 火打目	10YR5/3 5YR7/6	純黃褐色 褐色	10YR5/3 5YR7/6	
6	土浦留	燒	底部~体部		110	木打目?	110	木打目?	火打目	火打目	長石(少)、石英	5YR7/6 10YR8/2	褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F	
7	土海留	燒	体部		6.5	6.2	6.5	6.2	火打目、ナ カキ?	火打目、ナ カキ?	長石、海綿狀 物質、火打目	10YR8/2 5YR7/6	灰褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F	
8	土浦留	燒	底部~体部		6.2	6.2	6.2	6.2	火打目、ナ カキ?	火打目、ナ カキ?	長石、火打目	10YR8/2 5YR7/6	灰褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F	
9	土浦留	燒	底部~体部		6.5	6.5	6.5	6.5	火打目	火打目	長石、雲母	5YR7/6 5YR7/6	褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F	
10	石留	石留			250	10.0	550	7.0	火打目	火打目	石英	10YR2/2 5YR7/6	黑褐色 黑褐色	10YR2/2 5YR7/6	
11	泉忠留	坏	底部~中間部		1520	40.5	560	7.0	赤切引?	火打目	長石、雲母(極少)	10YR6/1 5YR7/6	褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F	
12	泉忠留	坏	底部~中間部		1360	37.5	560	4.7	圓板狀切 口	火打目	長石、雲母	10YR6/1 5YR7/6	褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F	
13	泉忠留	坏	底部~中間部		(14.0)	4.0	(14.0)	4.0	圓板狀切 口	火打目	長石、雲母	10YR6/1 5YR7/6	褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F	
14	土浦留	燒	底部~中間部		1350	26.0	670	8.0	火打目	火打目	長石、火打目	10YR6/1 5YR7/6	褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F	
15	土浦留	燒	底部		7.5	7.5	7.5	7.5	火打目?	火打目	長石	10YR6/2 5YR7/6	灰褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F	
16	土浦留	燒	底部		(7.2)	木打風	(5.0)	木打風	火打目	火打目	長石	10YR6/2 5YR7/6	灰褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F	
17	泉忠留	坏	底部~中間部		1400	41.0	700	8.0	圓板狀切 口	火打目	赤色砂粒、長石	25Y7/1 10YR6/2	褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F	
18	泉忠留	坏	底部~中間部		(66.0)	6.5	(66.0)	6.5	赤切引?	火打目	長石、雲母、石英(極少)	10YR6/2 5YR7/6	灰褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F	
19	泉忠留	坏	底部~体部		59	59	59	59	火打目、糊 目	火打目	赤色砂粒、長石	5YR7/6 10YR6/3	灰褐色 灰褐色	5YR7/6 10YR6/3	
20	土海留	有合坏	口継谷~体部		1120	100.0	6.5	木打風	火打目	火打目	長石、雲母、石英(極少)	5YR7/6 5YR7/6	灰褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F	
21	土海留	燒	底部~中間部		(160.0)	5.5	(64.0)	5.5	糊目	糊目	長石、赤色砂粒(極少)	75Y7/3 10YR6/3	褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F	
22	1	土海留	燒	体部		70	70	70	70	糊目	糊目	長石、赤色砂粒(極少)	75Y7/4 10YR6/4	褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F
23	2	土海留	燒	体部		4.7	4.7	4.7	4.7	糊目	糊目	長石、雲母、赤色 砂粒(極少)	75Y7/6 10YR6/6	褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F
24	3	土海留	燒	体部	5.2	5.2	4.5	4.5	糊目	糊目	長石、雲母、赤色 砂粒(極少)	75Y7/6 10YR6/5	褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F	
47	4	泉忠留	口継谷~体部		52.5	52.5	4.5	4.5	花崗岩狀物 質	火打目	長石、雲母、赤色砂 粒(極少)	75Y7/4 10YR6/4	褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F	
5	5	土海留	坏	底部	67.0	5.5	67.0	5.5	圓孔小石 子?	火打目	長石、雲母、赤色砂 粒(極少)	75Y7/4 10YR6/4	褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F	
6	6	土海留	坏	体部	4.5	4.5	4.5	4.5	糊目	糊目	長石、雲母、赤色 砂粒(極少)	75Y7/6 10YR6/2	褐色 灰褐色	ST5/4 ST5/4F	
7	7	石留	糊狀外殼		(280)	(14.0)	(53.5)	(13.0)	糊之殼	糊之殼	長石、雲母、赤色 砂粒(極少)	10YR6/2 10YR6/2	褐色 灰褐色	10YR6/2 10YR6/2	

土器觀察表(5)

測量

24

番号	名前	種別	形態	部分	計画		鉢形	底面	外縁調整	内面調整	粘土混入物	表面色調	粘土色調	その他		
					口径	縦高										
1	頭頂部	杯	底部	全体	15	3.0	口径	5.0	口径	5.0	口径	5.0	灰白色	25YR7/2 N5.0	灰白色	
2	頭頂部	杯	底部～口縁部	(135.0)	30.0	60.0	3.7	口縫合切り	口縫合	口縫合	口縫合	口縫合	SYR6/2 N4.0	灰褐色	ST530(RP784)	
3	頭頂部	杯	底部～全体	(65.0)	4.0	65.0	5.0	口縫合切り	口縫合	口縫合	口縫合	口縫合	SYR6/2 N4.0	灰褐色	ST530(RP615)	
4	頭頂部	杯	底部	(60.0)	5.8	60.0	5.8	口縫合切り	口縫合	口縫合	口縫合	口縫合	SYR6/2 N4.0	灰褐色	ST530(RP615)	
5	頭頂部	杯	底部	(64.0)	4.6	64.0	4.6	口縫合切り	口縫合	口縫合	口縫合	口縫合	SYR6/1 N5.0	灰褐色	ST530(RP784)	
6	頭頂部	杯	底部	(56.0)	5.0	56.0	5.0	口縫合～下切	口縫合	口縫合	口縫合	口縫合	SYR6/2 N4.0	灰褐色	ST530(RP784)	
46	頭頂部	高台杯	底部～口縁部	(152.0)	62.0	60.0	3.6	口縫合切り	口縫合	口縫合	口縫合	口縫合	SYR6/1 N4.0	灰褐色	ST530(RP784)	
8	頭頂部	高台杯	底部～全体	(57.0)	8.0	57.0	9.0	口縫合～下切	口縫合	口縫合	口縫合	口縫合	SYR6/1 N4.0	灰褐色	ST530(RP784)	
9	頭頂部	杯	底部	(57.0)	12.0	57.0	12.0	口縫合～下切	口縫合	口縫合	口縫合	口縫合	SYR6/1 N4.0	灰褐色	ST530(RP784)	
10	頭頂部	高台杯	底部～全体	(75.0)	5.2	75.0	5.2	口縫合～下切	口縫合	口縫合	口縫合	口縫合	SYR6/1 N4.0	灰褐色	ST530(RP784)	
11	頭頂部	美	全体	(12.0)	1.0	12.0	1.0	口縫合～下切	口縫合	口縫合	口縫合	口縫合	SYR6/1 N4.0	灰褐色	ST530(RP784)	
12	頭頂部	美	全体	(14.0)	1.0	14.0	1.0	口縫合～下切	口縫合	口縫合	口縫合	口縫合	SYR6/1 N4.0	灰褐色	ST530(RP784)	
1	土壤器	杯	底部～全体	(54.0)	5.0	54.0	5.0	口縫合～下切	口縫合	口縫合	口縫合	口縫合	SYR6/4 N5.0	灰褐色	ST530(RP784)	
2	頭頂部	杯	底部～全体	(54.0)	5.0	54.0	5.0	口縫合～下切	口縫合	口縫合	口縫合	口縫合	SYR6/4 N5.0	灰褐色	ST530(RP784)	
3	土壤器	杯	底部～口縁部	(128.0)	4.0	68.0	6.2	口縫合～下切	口縫合	口縫合	口縫合	口縫合	SYR6/4 N5.0	灰褐色	ST530(RP784)	
4	土壤器	有台杯	底部～口縁部	(130.0)	3.0	54.0	6.8	口縫合～下切	口縫合	口縫合	口縫合	口縫合	SYR6/4 N5.0	灰褐色	ST530(RP784)	
5	土壤器	高台杯	底部	(68.0)	7.9	68.0	7.9	口縫合～下切	口縫合	口縫合	口縫合	口縫合	SYR6/4 N5.0	灰褐色	ST530(RP784)	
6	土壤器	高台杯	底部～口縁部	(130.0)	5.5	82.0	7.8	口縫合～下切	口縫合	口縫合	口縫合	口縫合	SYR6/4 N5.0	灰褐色	ST530(RP784)	
7	土壤器	杯	口縁部	(129.0)	3.8	61.0	4.0	口縫合～下切	口縫合	口縫合	口縫合	口縫合	SYR6/4 N5.0	灰褐色	ST530(RP784)	
8	土壤器	高台杯	底部	(162.0)	4.3	61.0	4.3	口縫合～下切	口縫合	口縫合	口縫合	口縫合	SYR6/4 N5.0	灰褐色	ST530(RP784)	
9	土壤器	杯	底部	(56.0)	6.1	56.0	6.1	口縫合～下切	口縫合	口縫合	口縫合	口縫合	SYR6/4 N5.0	灰褐色	ST530(RP784)	
10	土壤器	美	底部	(80.0)	8.0	80.0	8.0	木座無	木座	木座	木座	木座	SYR6/6 毛目	灰褐色	ST530(RP784)	
1	土壤器	美	口縁部～全体	(282.0)	6.1	61.0	6.1	研毛目	研毛目	研毛目	研毛目	研毛目	SYR6/4 毛目	灰褐色	ST530(RP784)	
50	2	土壤器	美	口縫合～全体	240.0	5.2	75.0	7.0	ヘラ開き	ヘラ開き	ヘラ開き	ヘラ開き	ヘラ開き	SYR6/4 毛目	灰褐色	ST530(RP784)
3	土壤器	美	底部	(84.0)	15.2	84.0	15.2	ヘラ開き	ヘラ開き	ヘラ開き	ヘラ開き	ヘラ開き	SYR6/3 毛目	灰褐色	ST530(Y)	

土器観察表(6)

順番	器物 等	形別	器種	形分	計・面積 (面積×体積) mm ²	口径	高さ	底径	厚さ	底部形状	外縁形状	胎土組入部	表面調査	胎土色調	新土色調	その他	出土場所・位置
50	4 土器胎 瓦 等	口沿部~全体			6.7					斜毛口、ナ ゲ	斜毛口、ナ ゲ	褐色砂粒、長石、漂石	57YR6/8	褐色	107YR4/4	浅黄色	ST530 (RP10)
50	5 土器胎 瓦 等	全体			5.7	5.7	4.7	5.7	1.0	褐色砂粒、長 石、漂石	斜毛口 (ナ ゲ)	褐色砂粒、長石、漂石	75YR6/3	褐色	107YR3/3	浅黄色	ST530F
51	1 領部器 壺	底部~口沿部	(13.0)	4.5	5.0	5.0	4.5	4.5	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR7/1	灰白色	55YR7/1	灰白色	ST530 (RP100)
51	2 領部器 壺	全体			5.0	5.0	4.5	5.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	50YR6/1	灰白色	50YR6/0	灰白色	ST530 (RP100)
51	3 土器胎 有孔环 等	底部			5.0	6.3	5.0	5.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/6	浅黄色	ST530 (RP101)
51	4 土器胎 瓦 等	全体			5.0	6.3	5.0	5.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/4	浅黄色	ST530 (RP102)
51	5 土器胎 壺	底部~口沿部	(14.2)	3.6	6.0	4.1	3.6	4.1	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/4	浅黄色	ST530 (RP103)
51	6 領部器 壺	底部~口沿部	(14.6)	4.0	7.0	7.0	4.0	7.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/4	浅黄色	ST530 (RP104)
51	7 領部器 壺	底部~口沿部	(13.3)	4.0	6.0	6.0	4.0	6.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/4	浅黄色	ST530 (RP105)
51	8 領部器 壺	底部~口沿部	(14.0)	3.6	6.0	6.0	3.6	6.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/4	浅黄色	ST530 (RP106)
51	9 領部器 壺	底部~口沿部	(14.0)	3.6	6.0	6.0	3.6	6.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/4	浅黄色	ST530 (RP107)
51	10 領部器 壺	底部			5.0	6.0	5.0	5.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/4	浅黄色	ST530 (RP108)
51	11 領部器 壺	底部			5.0	6.0	5.0	5.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/4	浅黄色	ST530 (RP109)
52	12 領部器 壺	底部~全体	(13.4)	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/2	浅黄色	ST530 (RP110)
52	13 領部器 壺	底部~全体	(13.4)	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/2	浅黄色	ST530 (RP111)
52	1 土器胎 瓦 等	全体			5.0	5.0	5.0	5.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/4	浅黄色	ST530 (RP112)
52	2 土器胎 瓦 等	全体			5.0	5.0	5.0	5.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/4	浅黄色	ST530 (RP113)
52	3 土器胎 瓦 等	全体			5.0	5.0	5.0	5.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/4	浅黄色	ST530 (RP114)
52	4 土器胎 高脚环 等	全体			5.0	5.0	5.0	5.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/4	浅黄色	ST530 (RP115)
52	5 土器胎 有孔环 等	全体			5.0	5.0	5.0	5.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/4	浅黄色	ST530 (RP116)
52	6 土器胎 瓦 等	全体			5.0	5.0	5.0	5.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/4	浅黄色	ST530 (RP117)
52	7 土器胎 瓦 等	全体			5.0	5.0	5.0	5.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/4	浅黄色	ST530 (RP118)
52	8 土器胎 高脚环 等	全体			5.0	5.0	5.0	5.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/4	浅黄色	ST530 (RP119)
52	9 土器胎 有孔环 等	全体			5.0	5.0	5.0	5.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/4	浅黄色	ST530 (RP120)
52	10 土器胎 瓦 等	全体			5.0	5.0	5.0	5.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/4	浅黄色	ST530 (RP121)
52	11 土器胎 瓦 等	全体			5.0	5.0	5.0	5.0	1.0	斜毛ヘラ型	ロクロ	斜毛口	55YR6/6	褐色	107YR6/4	浅黄色	ST530 (RP122)

土器観察表(7)

測定番号	測定番号	測定番号	測定番号	部分	計測値 (単位:mm)			内面調査	外面調査	施士痕人物	表面色調	胎土色調	その他	
					口径	底周	壁厚							
1	土器物	要	口縁部～全体	230.0	(75)	ハナメ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	107YR4	浅黄色	ST197 (EP844)	
2	土器物	美	全体		6.4	網毛目	ナダ	ケズ	ナダ	ナダ	75YR7.4	輪形容色	ST197 (EP774)	
3	土器物	要	底部		68.0	5.7	ナダ	ケズ	ナダ	ナダ	75YR7.6	浅黄色	ST197 (EP824)	
4	土器物	要	底部		68.0	(75)	木板状	ナダ	ナダ	ナダ	75YR7.4	輪形容色	ST197 (EP844)	
5	土器物	伴	底部～全体		84.0	8.0	木板状	ナダ	ナダ	ナダ	107YR4	浅黄色	ST197 (EP796)	
6	土器物	伴	底部		76.0	(9.6)	木板状	ナダ	ナダ	ナダ	107YR7.3	輪形容色	ST197 (EP776)	
7	土器物	坏	底部～全体		98.0	6.0	木板状	ナダ	ナダ	ナダ	107YR8.2	灰白色	ST199 (EP811)	
8	須恵器	坏	底部～口縁部	(130.0)	41.0	(76.0)	5.2	ヘラ切り	ロクロ	ロクロ	ロクロ	25YR7.6	灰白色	ST197 (EP827)
9	須恵器	坏	底部		(62.0)	5.6	ヘラ切り	ロクロ	ロクロ	ロクロ	25YR7.1	灰白色	ST197 (EP720)	
10	須恵器	底付	底部～全体		(54.0)	7.4	ヘラ切り	ロクロ	ロクロ	ロクロ	5YR6.1	灰白色	ST197 (EP720)	
11	須恵器	底付	底付立ち～口縁部		11.8	ナダ	ナダ	ケズ	ナダ	ナダ	5YR6.1	灰白色	ST197 (EP721)	
12	土器物	墨	底部～口縁部	(160.0)	33.0	丸底	6.2	ナガナ	ナダ	ナダ	107YR7.4	輪形容色	ST197 (EP718)	
13	土器物	小切妻	口縁部	(132.0)	8.2	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	107YR8.2	灰白色	ST197 (EP722)	
1	須恵器	坏	底部～口縁部	(138.0)	(60.0)	4.8	網毛目	ロクロ	ロクロ	ロクロ	25YR7.6	ナリーブ	ST198	
2	須恵器	坏	底部		(60.0)	6.4	網毛目	ロクロ	ロクロ	ロクロ	5YR6.1	灰白色	ST198	
3	須恵器	要	底部 (付?)		11.5	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	107YR7.1	灰白色	ST198	
4	須恵器	美	口縁部	(230.0)	(8.2)	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	ナダ	25YR7.1	灰白色	ST198	
5	須恵器	要	全体		18.0	アテ	タカナ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	25YR6.1	灰白色	ST198	
6	須恵器	前	全体		7.1	アテ	タカナ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	25YR6.1	灰白色	ST198	
7	土器物	有台坏	底部		(80.0)	7.3	(1)ガキのため(?)	ミガキ	ミガキ	ミガキ	25YR7.4	灰白色	ST195	
8	土器物	有台坏	底部		63.0	7.5	ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	107YR8.2	灰白色	ST195	
9	土器物	坏	口縁～全体	(125.0)	4.7	ロクロ	ミ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	75YR7.4	輪形容色	ST195	
10	土器物	小切妻	口縁～全体	(160.0)	6.3	網毛目	網毛目	網毛目	網毛目	網毛目	75YR7.4	輪形容色	ST195 (EP8384)	
11	土器物	要	口縁～全体	(240.0)	7.5	網毛目	網毛目	網毛目	網毛目	網毛目	5YR7.6	輪形容色	ST195 (EP8357)	
12	土器物	美	全体		7.5	網毛目	網毛目	網毛目	網毛目	網毛目	5YR7.7	輪形容色	ST195	
55	1	須恵器	坏	底部～口縁部	140.0	58.0	66.0	網毛目	ロクロ	ロクロ	5YR6.2	灰白色	SD440 (EP740)	
55	2	須恵器	坏	底部～口縁部	(134.0)	(51.0)	76.0	4.8	ヘラ切り	ロクロ	ロクロ	5YR7.1	灰白色	SD440

土器調査表(8)

取扱物 番号	種別	器種	部分	計面積 (単位: m ²)	面積 割合	底面 形状	底面開口 幅高	外周開口 幅高	内面開口 (状況)	内面開口 幅高	底土掘入部	表面色調	粘土層	その他	出土遺物・位置			
3	直筒器	甌	全体		8.4	アチ(付脚 脚短) ハ タナデ	長石、雲母(微少) 石英、長石、雲母、青田 石	N.S.0	灰白色	25767.2	灰黄色		SD469Y					
4	直筒器	瓶	全体		16.0	アチ(付脚 脚短) ハ タナデ	赤褐色、長石、 長石、長石、長石、 長石	5177.1	灰白色	10747.1	灰白色		SD469 (RP745)					
5	土師器	小判型 口縁部~全体	(132.0)	4.8	(6.3)	ナデ	陶毛目	ロクロ?	赤褐色、長石、 雲母	5177.6	褐色	25753.6	浅黄色		SD469Y			
6	土師器	甌	全体		6.5	ナデ ガリ?	ロクロ	赤褐色、長石、雲母	7.5Y77.4	褐色	10748.2	浅黄色		SD469 (RP711)				
55	7	土師器	甌	全体	6.5	ナデ?	陶毛目	赤褐色、長石、雲母	5177.6	褐色	25753.7	浅黄色		SD469Y				
8	直筒器	甌	底部	(9.0C)	1.8	圓盤ヘタ切 り	ロクロ	長石	1077.1	灰白色	10756.1	灰白色		SD469 (RP727)				
9	直筒器	甌	全体	9.1	9.1	ナデ	ロクロ?	長石、雲母	25767.6	灰白色	N.S.0	米白色		SD469 (RP724)				
10	直筒器	甌	全体		9.0	ナデ(付 脚短) ハ タナデ	長石、長石G、雲母	5075.1	灰白色	N.S.0	灰白色		SD469 (RP722)					
11	直筒器	甌	全体		9.8	ナデ(付 脚短) ハ タナデ	長石、輝石?	SD469Y	紫灰色	585.1	赤灰色		SD469 (RP741)					
1	土師器	甌?	底部~全体	64.0	9.5	圓盤糸切 り?	ナデ	長石、赤色砂粒、雲母、 石英(微少)	25757.6	褐色	SD466	内面褐色風化、鉄物 含む		SD466				
2	土師器	甌?	底部~全体	(62.1)	5.8	圓盤ヘタ切 り	ロクロ	長石、雲母、 長石、長石、 雲母	5176.6	褐色	25737.4	褐灰色		SD466 (RP725)				
3	土師器	甌	全体		6.7	ナデ	ロクロ	長石、雲母	7.5Y78.6	浅黄色	SD466			SD466				
4	土師器	甌	全体		10.5	ナデ	陶毛目	長石、具形(微少) 赤褐色砂粒	10746.3	灰白色	10744.1	灰白色		SD466 (RP723)				
5	土師器	甌?	全体		8.2	木製舟	赤褐色砂粒、長石、 長石	N.S./A	25737.4	浅黄色	SD466			SD466				
6	土師器	甌	全体~口縁部~全体	(144.0)	(42.0)	(56.6)	4.5	圓盤糸切 り	陶毛目、ナデ	25737.4	浅黄色	5176.1	灰白色		SD466			
56	7	土師器	甌	全体~口縁部~全体	146.0	5.0	ナデ	ロクロ	長石、長石、雲母	5176.6	褐色	10747.6	浅黄色		SD466 (RP777)			
8	土師器	小判型 口縁部~全体	(108.0)	5.7	ナデ	ロクロ	長石、長石、雲母	25737.6	浅黄色	10747.3	浅黄色		SD466					
9	土師器	小判型 口縁部~全体	(134.0)	80.0	5.0	棒棒糸切引	ロクロナデ	長石、長石	5175.3	褐灰色	25737.1	黑褐色		SD466				
10	直筒器	甌	底部		82.0	6.5	ナデ	ロクロナデ	長石	5175.4	褐灰色	SD466			SD466			
11	直筒器	有合环	全体		72.0	6.5	ハタ切り	ロクロナデ	長石	25737.6/1	ナリーブ		SD466		SD466			
12	直筒器	有合环 口縁部~全体	146.0	5.0	10.0	ロクロナデ	ロクロナデ	長石、雲母	5175.1	灰白色	25737.1	灰白色		SD466		SD466		
13	直筒器	甌	全体		8.0	ロクロナデ	ロクロナデ	長石、雲母(微少)	5176.1	灰白色	10746.1	灰白色		SD466		SD466		
14	直筒器	甌	全体		9.0	ロクロナデ	ロクロナデ	長石、雲母、石英、 長石、長石、雲母	7.5Y75.6	灰白色	10746.1	灰白色		SD466 (RP778)		SD466		
1	直筒器	甌	全体		6.5	ナデ	ロクロナデ	長石、雲母、石英、 長石、長石、雲母	N.S.0	灰白色	25757.2	灰白色		SD466		SD466		
2	直筒器	甌	全体		9.0	ナデ(付 脚短)	ナデ	長石、雲母、 長石、長石、雲母	5176.1	灰白色	25747.1	灰白色		SD466		SD466		
3	直筒器	甌	全体		6.5	ナデ	ロクロナデ	長石、雲母、 長石、長石、雲母	5176.1	灰白色	5748.1	灰白色		SD466		SD466		
4	直筒器	甌	全体~全体		60.0	5.0	棒棒糸切引	ロクロナデ	長石、雲母、 長石、長石、雲母	25737.6	浅黄色	25737.6	浅黄色		SD466 (RP767)		SD466	
5	土師器	甌	全体~全体		60.0	5.0	棒棒糸切引	ロクロナデ	長石、雲母、 長石、長石、雲母	N.S.0	灰白色	25737.6	浅黄色		SD466		SD466	

土器観察表(9)

番号	部位	寸合	相別	器形	底分	計測 値 (単位: mm)			内部構造	外観特徴	新土器入物	表面色調	胎土色調	その他の	
						口径	高さ	底径							
6	土器部	有台环	底盤~口縁	1330	540	650	45	50	粗面あく切り	粗面ロクタ	長石	10YR8/4	浅黄褐色	S1038P	
7	土器部	要	体部	50	760	53	50	50	粗面あく切り	研毛目	長石、雲母、石英(微少)	72YR8/2	灰褐色	褐色斑点(少)	
8	直腹器	环	底盤~体部	500	760	53	50	50	粗面あく切り	ロクロロナダ	長石	10YR8/4	浅黄褐色	S1038I (EP756)	
9	土器部	耳	底盤	500	760	50	50	50	粗面あく切り	ロクロロナダ	長石、赤色砂粒、石英	57YR7/1	灰褐色	内面部黑色斑点(少)	
57	10	直腹器	高台环	底盤~体部	7210	60	60	50	50	粗面あく切り	ロクロロナダ	長石、石英、雲母	57YR7/6	灰褐色	S1038P (EP756)
11	直腹器	高台环	底盤	7060	60	60	50	50	粗面あく切り	ロクロロナダ	長石	57YR7/2	灰褐色	S1038P (EP756)	
12	直腹器	要	体部	80	80	60	50	50	粗面あく切り	研毛目	長石	23YR5/1	黄褐色	S1038P	
13	直腹器	蓋	底盤~体部	300	60	70	75	70	黒褐色	ロクロロナダ	長石、石英、雲母、赤色	54YR5/1	灰褐色	S1038P	
1	土器部	环	底盤~体部	700	75	70	75	70	黒褐色	ミガキ	長石、ミガキ	N3/0	灰褐色	上面部の部分が2枚	
2	土器部	环	底盤~体部	800	95	80	85	80	黒褐色	ミガキ	長石、石英、長石、長石、	72YR6/6	灰褐色	S1038P	
3	土器部	要	底盤~体部	1060	70	70	65	70	黒褐色	研毛目	長石、新	10YR7/4	灰褐色	S1038P	
4	土器部	要	口縁~体部	45	45	45	45	45	粗面あく切り	研毛目	長石(微少)、長石(微少)、長石(微少)	10YR7/3	灰褐色	S1038P	
5	土器部	要	口縁~口縁部	60	60	60	60	60	粗面あく切り	研毛目	長石(微少)、長石(微少)、長石(微少)	10YR7/4	灰褐色	S1038P (EP757)	
6	石器	要	口縁	280	110	460	110	50	石	粘板岩	長石	10YR8/6	明黄色	S1038P	
7	土器部	环	底盤~体部	560	72	90	55	55	粗面あく切り	研毛目	長石、雲母	72YR7/6	灰褐色	S1038P (EP756)	
58	8	土器部	要	体部	42	42	42	42	42	粗面あく切り	ケズリ	長石、研磨砂粒、石英、長石、	72YR6/8	灰褐色	S1038P (EP756)
9	土器部	要	体部	58	41	58	41	58	粗面あく切り	研毛目	長石、雲母	72YR7/4	灰褐色	S1038P (EP756)	
10	土器部	要	体部	1510	60	900	50	50	粗面あく切り	ロクロロナダ	長石	57YR6/4	灰褐色	S1038P (EP756)	
11	直腹器	折合环	底盤~口縁部	550	550	550	550	550	粗面あく切り	ヘラナダ	長石、雲母、赤色	57YR6/4	灰褐色	S1038P (EP756)	
12	土器部	要	口縁部~体部	65	65	65	65	65	粗面あく切り	ミガキ	長石、雲母、赤色	10YR8/3	浅黄褐色	S1038P (EP756)	
13	土器部	要	口縁部~体部	1400	75	75	75	75	粗面あく切り	研毛目	石英、長石、雲母、赤色	10YR8/3	浅黄褐色	S1038P (EP756)	
14	直腹器	环	底盤~口縁部	1260	310	760	40	40	粗面あく切り	ロクロロナダ	長石	23YR6/1	灰褐色	S1038S	
15	直腹器	要	底盤	1300	110	110	110	110	粗面あく切り	ロクロロナダ	長石	57YR7/1	灰褐色	S1038S	
16	土器部	*	体部	73	73	73	73	73	粗面あく切り	ロクロロナダ	長石、石英、海綿骨格、	57YR7/4	灰褐色	S1038S	
1	土器部	有台环	底盤~口縁部	1680	500	670	40	40	粗面あく切り	ナダ、研毛	長石、石英、海綿骨格、	10YR8/4	浅黄褐色	S1038P (EP756)	
2	土器部	要	口縁部~体部	70	70	70	70	70	粗面あく切り	ナダ、研毛	長石(微少)	10YR8/3	浅黄褐色	S1038P (EP756)	

土器觀察表（10）

地名 番号	遺物 番号	種類	部分	計量 働		内面調査	外面調査	断土器入物	表面色調	断土色調	その他
				口径	底高						
3	土師器 有合环	直筒形	底部～口部	152.0	(49.5)	4.0	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、長石、雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭
4	土師器 有合环	直筒形～口部	底部～口部	160.0	5.0	4.0	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭
5	土師器 瓢	口縁幅～全体	(180.0)		4.5		赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭	
59	6 細胞器 瓢	全体		115.5		4.3	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/2 淡褐色	10YR8/2 淡褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭
7	須毛器 环	底部～全体	64.0	4.3	4.3	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭	
8	須毛器 強	全体	80.0	4.0	4.0	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭	
9	土師器 有合环	底部～口部	163.0	7.0	7.0	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭	
10	須毛器 瓢	全体	75.0		4.4	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭	
1	須毛器 有合环	口縁部～全体	(118.0)	5.0	6.0	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭	
2	土師器 有合环	底部～口部	(143.0)	6.0	5.0	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭	
3	土師器 有合环	底部～口部	144.0	5.0	6.0	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭	
4	土師器 瓢	底部～口部	(234.0)	(320.0)	(100.0)	7.0	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭
5	土師器 有合环	底部～口部	(246.0)	319.0	(100.0)	7.0	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭
6	土師器 瓢	口縁幅～全体	(241.0)		6.5		斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭
7	土師器 瓢	口縁部～全体	212.0		7.0	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭	
8	土師器 瓢	底部～口部	(154.0)	134.0	(100.0)	8.0	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭
1	須毛器 瓢	全体		6.0		4.5	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭
2	土師器 有合环	底部～口部	138.0	5.0	6.0	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭	
3	土師器 瓢	底部～口部	136.0	5.0	5.0	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭	
4	土師器 瓢	底部～口部	127.0	4.0	5.0	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭	
5	土師器 有合环	底部～口部	238.0	(100.0)	7.0	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭	
6	土師器 瓢	全体		6.0		4.5	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭
7	須毛器 瓢	底部～口部	134.0	36.0	4.5	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭	
8	土師器 瓢	口縁部～全体	134.0	(44.0)	5.0	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭	
9	土師器 瓢	底部～口部	117.0	47.5	6.0	斜長ヘタ切 口	赤色砂粒、石英、具石、 雲母	10YR8/4 淡黃褐色	10YR8/4 淡黃褐色	内面黒色無斑、高台 矢頭	

土器觀察表 (11)

番号	種類	縦幅	横幅	部分	前 回 質 (単位 : m)		板形調査 割合	内面調査 割合	外面調査 割合	施士施入物	施土色調	その他	施土選択・企画 SEIS3 (G22) (RP22)	
					口径	壁厚								
1	土器	堀	堀	底部	22.0	20.5	10.0	7.0	7.0	石墨、赤土、白土	10YR7/3	真黄褐色	10YR7/4	浅黄褐色
2	土器	堀	堀	底部～口縁部	28.0	35.0	16.0	8.0	8.0	長石、石墨、赤土、白土	7.5YR8/4	浅黄褐色	7.5YR8/4	浅黄褐色
3	土器	堀	堀	底部～口縁部	(16.0)	4.0	(5.0)	4.5	4.5	長石、石墨、赤土、白土	2.5YR6/8	褐色	7.5YR8/4	浅黄褐色
62	4 土器上部	堀	堀	体部	4.3	地をLR	石墨、長石、赤土	石墨、長石、赤土	7.5YR2/1	黒色	7.5YR7/4	純黑色	内外面スズ付着 SEIS3	
5	石器品	柄形壺		底部	7.0	5.0	よこ	よこ	よこ	石墨、長石	10YR4/3	真黄褐色	10YR7/4	真黄褐色
6	灰化壺	堀	堀	底部～口縁部	(20.0)	15.0	(12.0)	7.0	7.0	赤色砂、長石、石英	5Y6/1	灰色	7.5Y7/1	灰白色
7	灰化壺	堀	堀	底部～全体	(6.0)	10.5	(6.0)	5.0	5.0	長石、白色砂	7.5Y5/1	灰色	N4.0	灰色
8	中面陶器	堀	堀	体部						石墨、長石、赤土	10YR6/2	灰黄褐色		中性鐵 F 中性鐵 F 中性鐵 F

付 編

北向遺跡の土壤化学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

北向遺跡は、山形市の東北部風間地区にあり、村山高瀬川の左岸に位置する奈良～平安時代を主とした集落跡である。今回の自然科学分析調査では、平安時代の合口壺棺内に充填されていた土壤について、リン・カルシウム分析を行い、壺棺内の内容物に関する検討を行う。

1 試 料

分析試料は、合口壺棺内の土壤と対照試料を合わせた13点である。合口壺棺内からは、骨や副葬品は見つかっていないが、線刻記が発見されたことや、これまでの事例などから、埋葬に関わるものと推定されている。これらはつぶれた状態で発見されていたため、内部の土壤は土器によって密閉された状態ではなかった。土器内の土壤をRP622、RP623とともに5分割して採取されており、10点を分析用試料とする。その他、対照試料として、遺構外の試料3点についても選択する。

2 分析方法

今回の分析では、リン酸およびカルシウム含量を測定する。リン酸は硝酸・過塩素酸分解－バナドモリブデン酸比色法、カルシウムは硝酸・過塩素酸分解－原子吸光光度法で実施する（土壤養分測定法委員会1981；土壤標準分析・測定法委員会1986）。以下に各項目の具体的な操作工程を示す。

試料を風乾後、軽く粉碎して2.00mmの篩を通過させる（風乾細土試料）。風乾細土試料の水分を加熱減量法（105℃、5時間）により測定する。風乾細土試料の一部を粉碎し、0.5mmのふるいを全通させる（微粉碎試料）。

風乾細土試料2.00gをケルゲール分解フラスコに秤量し、硝酸約5mlを加えて加熱分解する。放冷後、過塩素酸約10mlを加えて再び加熱分解を行う。分解終了後、水で100mlに定容してろ過する。ろ液の一定量を試験管に採取し、リン酸発色液を加えて分光光度計によりリン酸（P₂O₅）濃度を測定する。別にろ液の一定量を試験管に採取し、干渉抑制剤を加えた後に原子吸光光度計によりカルシウム（CaO）濃度を測定する。これら測定値と加熱減量法で求めた水分量から乾土あたりのリン酸含量（P₂O₅mg/g）とカルシウム含量（CaOmg/g）を求める。

3 結 果

結果を表1に示す。合口壺棺内のリン酸は、約1.5～2mg/gの間で変化し、平均値は1.74mg/gである。またばらつきを示す標準偏差は0.22、変動係数は12.85である。カルシウムは、約5～6mg/gの間で変化し、平均値は5.18mg/gである。またばらつきを示す標準偏差は

0.46、変動係数は8.87である。

対照試料と合口壺棺内土壤のそれぞれの平均値を比較すると、リン酸は対照試料1.25に対し合口壺棺内は1.74、カルシウムは対照試料4.57に対し合口壺棺内は5.18であり、合口壺棺の方が若干高い。また、全試料におけるリン酸とカルシウムの相関は0.86と非常に高い相関を示す。

4 考 察

リンやカルシウムは、哺乳動物の生命維持に必要な元素であり、特に、脳、内臓、骨などに多く含まれている。これらの元素は、土壤中にも含まれており、周辺地形、土壤の種類、周辺植生などによって、その含量が異なる。動物の遺体に含まれるリン酸やカルシウムは、土壤中と比べて桁違いに多いので、これらが土壤中に埋納されると、高濃度のリン酸やカルシウムが土壤中に多く残存することになる。これらは、遺体が腐敗したあと成分として土壤中に残存するが、経年変化によって徐々に流失していく。このなかでも、リン酸は水に溶けにくいことから、土壤中の移動が少なく、長い間残ると考えられている。

今回のリン酸含量をみると、約1.5~2mg/gの間で変化する。対照試料と合口壺棺内について、それぞれの平均値で比較すると、対照試料に対して合口壺棺内が若干高い。一方、本遺跡の河川性の堆積物が母材となっている場合、これまでの事例をみると、自然状態でのリン酸値は1mg/g前後である。これ

表1 リン・カルシウム分析結果

試料名	土性	土色	P ₂ O ₅ (mg/g)	CaO (mg/g)
SH533 遺構外土壤サンプル	LIC	10YR2/2 黒褐色	1.52	5.11
SH533 遺構周囲土壤サンプル	SL	10YR3/2 黒褐色	0.96	4.19
RP621 SH533	CL	10YR2/2 黒褐色	1.28	4.42
RP622 内土サンプル1	LIC	10YR3/1 黒褐色	1.68	5.28
RP622 内土サンプル2	LIC	10YR3/1 黒褐色	1.80	5.45
RP622 内土サンプル3	LIC	10YR3/1 黒褐色	2.29	6.16
RP622 内土サンプル4	LIC	10YR3/1 黒褐色	1.75	5.25
RP622 内土サンプル5	LIC	10YR3/1 黒褐色	1.82	4.76
RP623 内土サンプル1	LIC	10YR3/1 黒褐色	1.61	4.70
RP623 内土サンプル2	LIC	10YR3/1 黒褐色	1.56	4.72
RP623 SH533 3	LIC	10YR3/1 黒褐色	1.81	5.22
RP624 内土サンプル4	LIC	10YR3/1 黑褐色	1.50	4.79
RP623 内土サンプル5	LIC	10YR3/1 黑褐色	1.59	5.46

注 (1) 土色：マンセキ黄色系に準じた標準色粘土による。

(2) 土性：土壤開発ハンドブックの野土性による。

CL...砂質土(粘土0~15%、シルト0~35%、砂55~85%)

SL...粘質土(粘土15~20%、シルト20~40%、砂5~65%)

LIC...砂粘土(粘土25~40%、シルト0~40%、砂10~55%)

と比較しても、合口壺棺内の試料はやや高い。また、遺構内では、遺体が直接存在していた場所では濃度が高く、埋土のみの場所では薄くなる。この結果、複数の遺構・層位を対象として調査すると、組成のばらつきが起こり、これを遺体埋納の指標とすることができる。今回、ばらつき度を示す標準偏差や変動係数を求めたが、これらの値は低い。

一方、カルシウムは、水に溶けやすいため流失しやすく、石灰岩を含む土壤などでは非常に高くなるなど、後背の地質に影響されやすい。今回の結果は、リン酸と同様対照試料に対して若干高いものの、ばらつきは小さい。なお、リン酸とカルシウムの相関は0.86と強い正の相関を示すことから、カルシウムとリン酸の給源が同一の可能性がある。

以上のように、今回の結果ではリン酸、カルシウム分析とともに合口壺棺の平均値が対照試料より若干高い傾向がみられるものの、全体として値が低く、測定値のばらつきも小さい。したがって、今回の結果から、動物遺体の有無に関して言及することは難しい。リン酸は、地下水によって粘土とともに移動するとされる (バーンズほか1986)。合口壺棺の検出状況をみると、

斐は平たく押しつぶされていることから、仮に遺体が埋納され、リン酸が濃集していたとしても、経年変化により拡散した可能性もある。今回のように、対照試料との有意差が不明瞭な時には、土壤中における腐植含量とリン酸との相関を調べることによって、リン酸の由来を検討する方法があり、今後この手法により情報が得られる可能性もある。

引用文献

- 土壤養分測定法委員会編 1981 「土壤養分分析法」 豊賀堂 p.440
土壤標準分析・測定法委員会編 1986 「土壤標準分析・測定法」 博友社 p.354
ジナ・バーンズ、ルール・プラント、サイモン・ケーナ、デイビット・ロリガー、西田史朗
1986 「日本の土壤中での構成塩の挙動」『考古学と自然科学』19 p.57-68.

写真図版



B区完掘状況（北東から）



C区完掘状況（南西から）



D区掘下状況（南西から）



E区完掘状況（西から）



基本層序（A-A'）（西から）



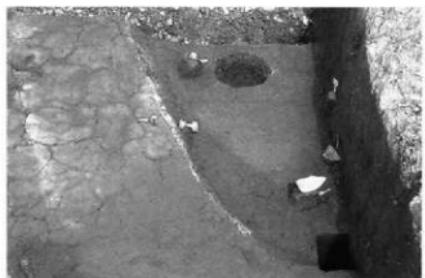
基本層序（C-C'）（西から）



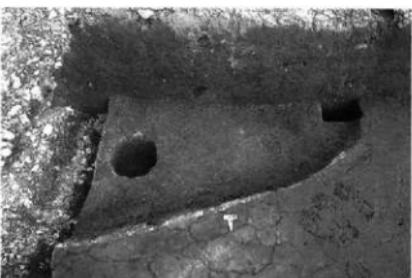
基本層序（D-D'）（西から）



基本層序（G-G'）（北から）



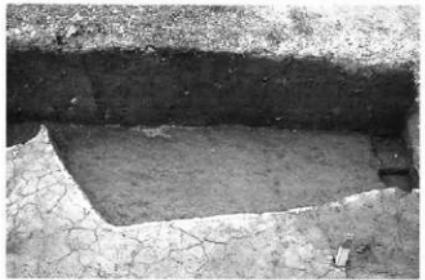
S T 69 出土状況（南から）



S T 69 完掘状況（西から）



S T 70 出土状況（東から）



S T 70 完掘状況（東から）



S T 367 完掘状況（南から）



ST 400 出土状況（北から）



ST 400 東西ベルト断面（北から）



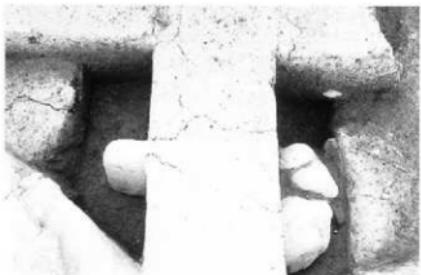
ST 400 EL 420 出土状況（北から）



ST 400 完損状況（北から）



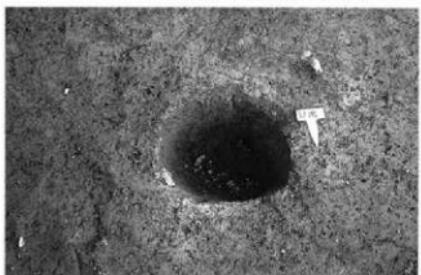
ST 400 床面東西ベルト断面（北から）



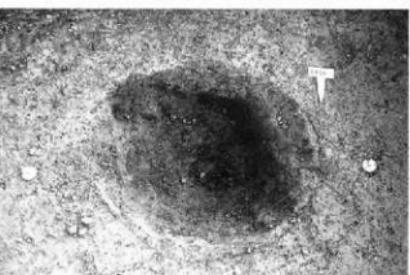
S T 400 E L 420 南北断面（東から）



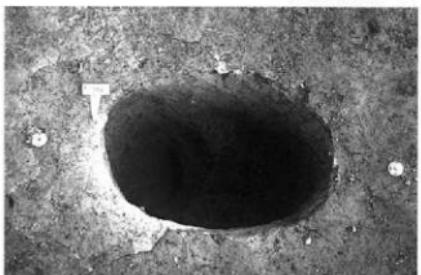
S T 400 E L 420 東西断面（北から）



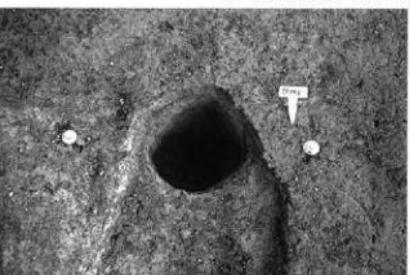
E P 540 完掘状況（北から）



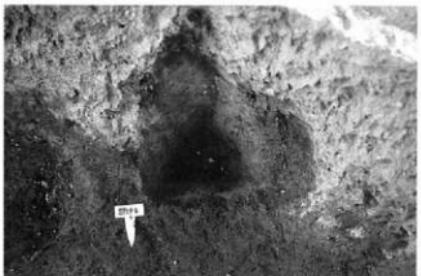
E P 541 完掘状況（北から）



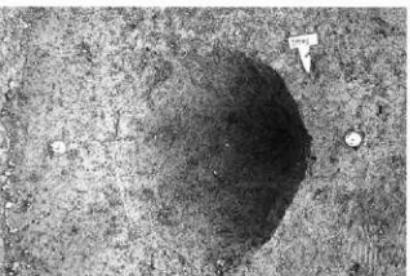
E P 542 完掘状況（北から）



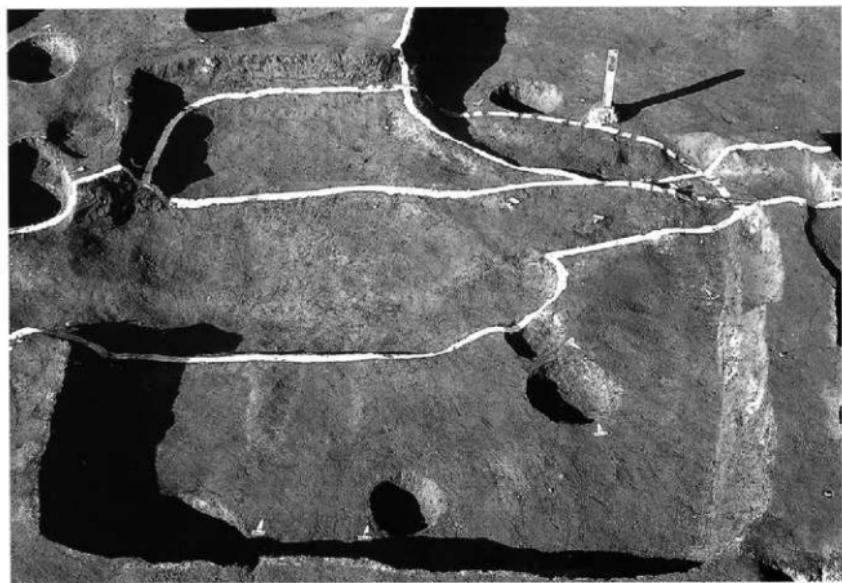
E P 543 完掘状況（北から）



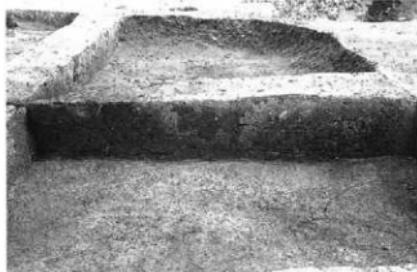
E P 544 完掘状況（南から）



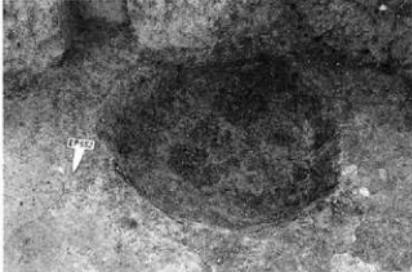
E P 545 完掘状況（北から）



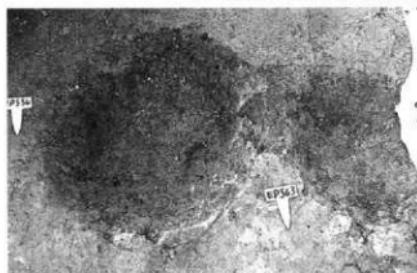
S T 425 完掘状況（南から）



S T 425 東西ベルト断面（南から）



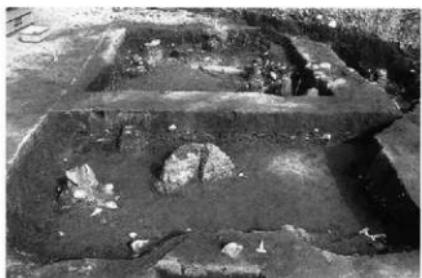
E P 552 完掘状況（北から）



E P 554・563 完掘（北から）



S T 425 R P 707 出土状況（南から）



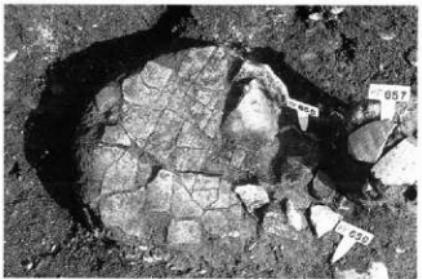
S T 460 南北ベルト断面（西から）



S T 460 南北ベルト断面（西から）



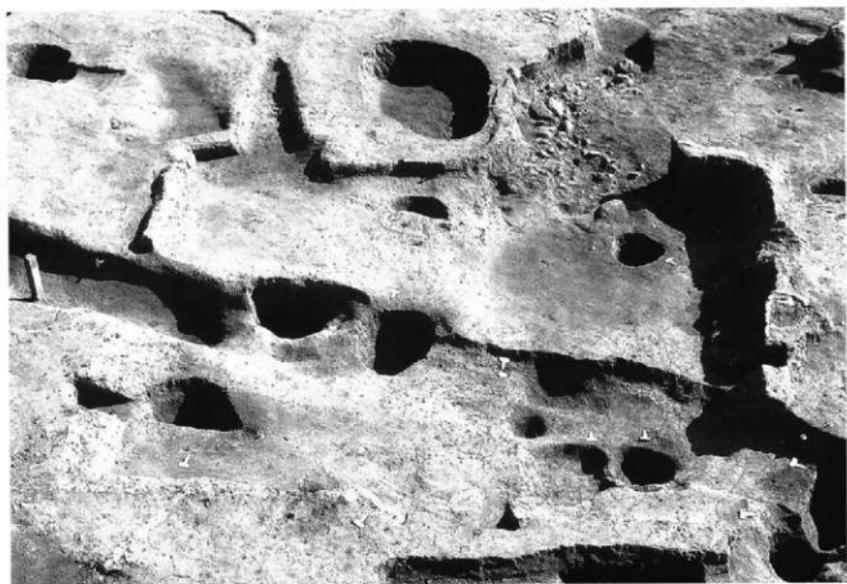
S T 460 出土状況（西から）



S T 460 R P 656 出土状況（西から）



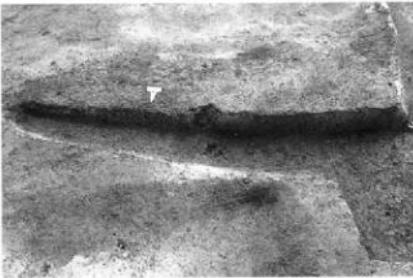
S T 460 完掘状況（西から）



S T 470 完掘状況（北から）



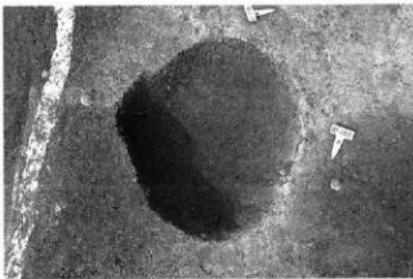
S T 470 南北ベルト断面（西から）



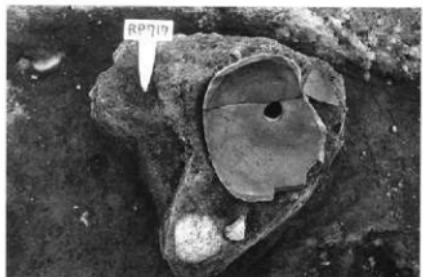
E L 481 断面（東から）



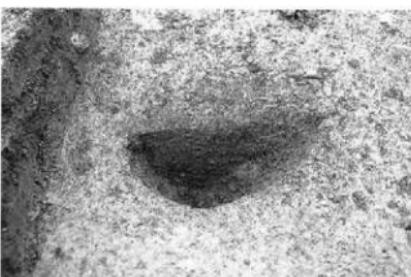
E P 462 断面（南から）



E P 462 完掘状況（南から）



S T 488 R P 717 出土状況（西から）



S T 488 E P 632 断面（南から）



S T 488 出土状況（南東から）



S T 488 E P 646、S P 588 実掘状況（西から）



S T 532 東西ベルト断面（南から）



S T 532 南北ベルト断面（東から）



S T 532 出土状況（南から）



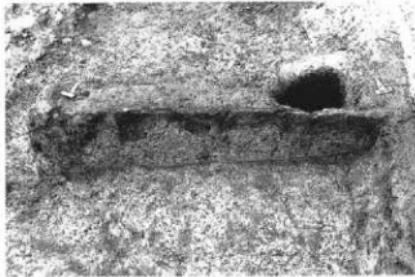
S T 488 + 532 実掘状況（東から）



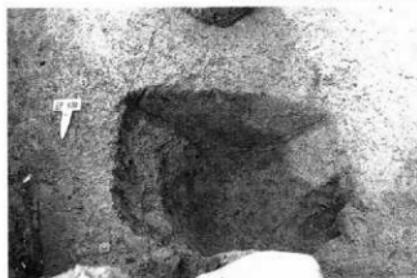
S T 491 完掘状況（北から）



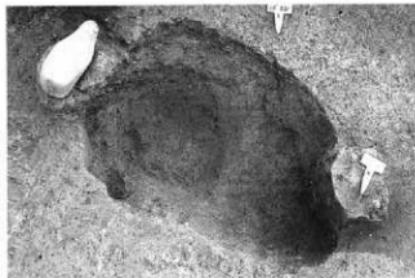
R P 748 出土状況（北から）



S T 491 東西ベルト断面（南から）



S T 491 E P 572 断面（東から）



S T 491 E P 572 完掘状況（北から）



S T 492 出土状況（南から）



S T 492 南北ベルト断面（東から）



S K 568 完掘状況（東から）



E L 578 断面（南西から）



S T 492 完掘状況（南から）



S T 504 出土状況（北から）



S T 504 南北ベルト断面（東から）



S T 504 東西ベルト断面（南から）



S T 504 挖掘状況（南から）



S T 504 R P 737 出土状況（北から）



S T 522・597 出土状況（北から）



S T 522 東西ベルト断面（北から）



S T 522 南北ベルト断面（西から）



S T 522 E L 640 検出状況（南から）



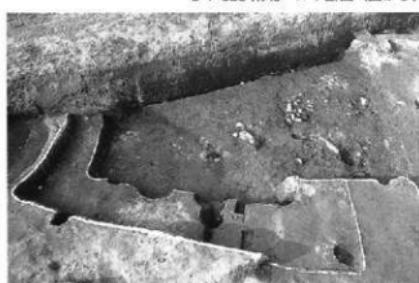
S T 522 R P 844・845 出土状況（南から）



S T 523 南北ベルト断面（西から）



S T 523 RP 769・770・771 出土状況（東から）



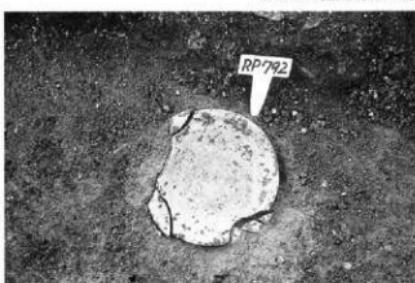
S T 523 完掘状況（南から）



S P 641 断面（北から）



S T 528 南北ベルト断面（西から）



S T 528 RP 792 出土状況（東から）



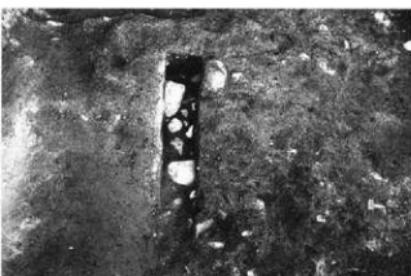
S T 528 RP 804 出土状況（北から）



S T 528 完掘状況（北から）



S T 530 東西ベルト断面（北から）



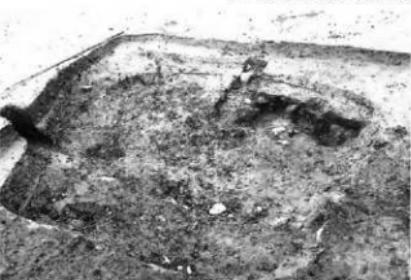
S T 530 床面焼土検出状況（西から）



S T 530 出土状況（北から）



S T 530 E L 614 断面（西から）



S T 530 完成状況（西から）



S T 597 出土状況（南から）



S T 597 ベルト断面（東から）



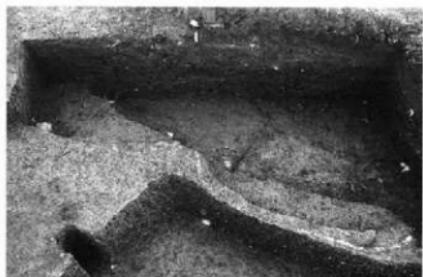
S T 597 R P 824 出土状況（西から）



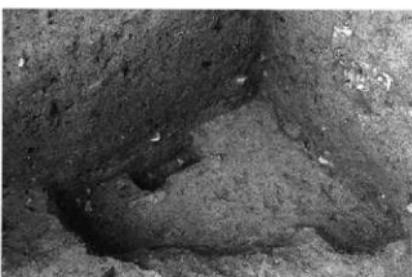
S T 597 E L 613 断面（北から）



S T 597 完成状況（東から）



S T 589 出土状況（北から）



S T 591 出土状況（東から）



S T 589・591 完掘状況（東から）



S T 589 R P 790 出土状況（西から）



S T 599 R P 811 出土状況（西から）



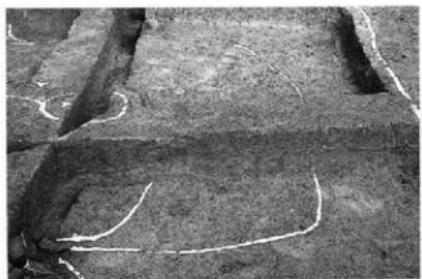
S T 599 E L 600 断面（西から）



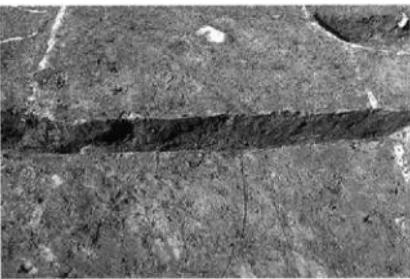
S T 599 E L 600 完掘状況（西から）



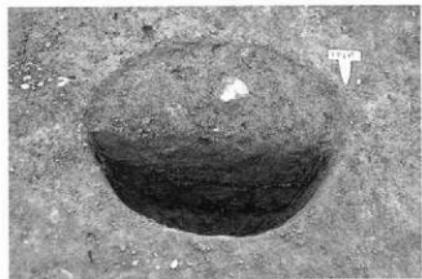
S T 599 完掘状況（北から）



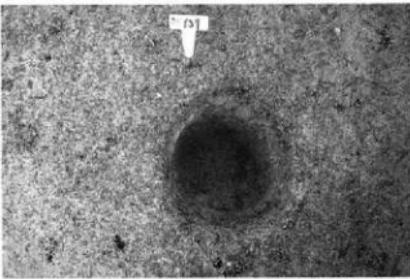
E区東西ベルト断面（南から）



E区南北ベルト断面（東から）



S T 616 E P 635 断面（北から）



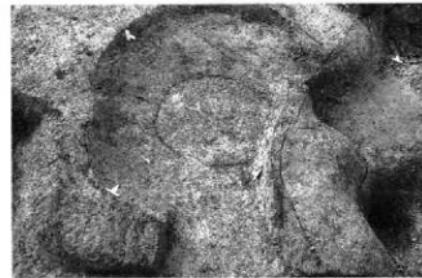
S T 616 E P 639 完掘状況（西から）



S T 616 E L 630 出土状況（西から）



S K 629 R M 846 出土状況（東から）



S T 616 E L 630 完掘状況（東から）



S T 616 完掘状況（西から）



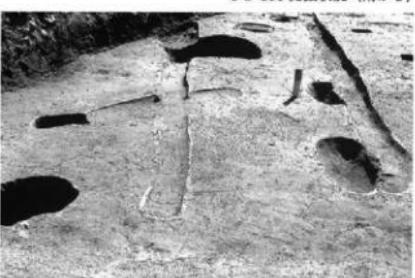
S D 390 断面（北から）



S D 390 完掘状況（南から）



S D 410 断面（南から）



S D 407 完掘状況（北から）



S D 419 完掘状況（北から）



S D 440 完掘状況（南から）



S D 440 断面（東から）



SD 566 断面（南から）



SD 566 完掘状況（南から）



SD 496 断面（南から）



SD 496 掘下状況（北東から）



SD 567 掘下状況（東から）



SD 567 断面（西から）



SD 581 断面（西から）



SD 581 出土状況（西から）



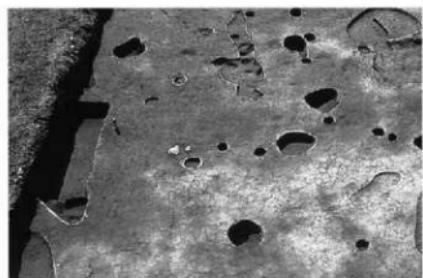
SD 581・582 実掘状況（北から）



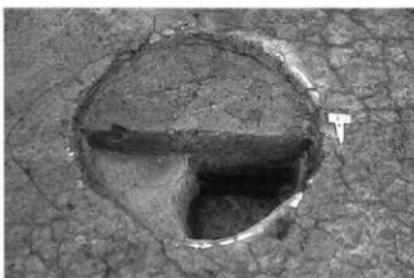
SD 582 断面（南から）



SD 585 実掘状況（東から）



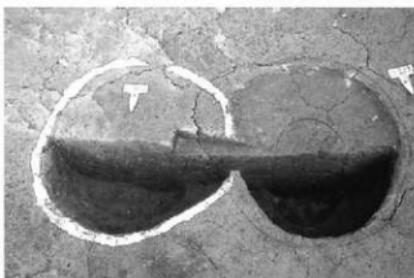
SB 603 完掘状況 (北から)



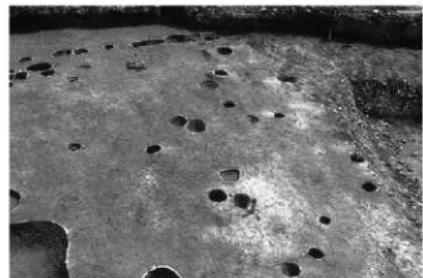
SP 216 断面 (南から)



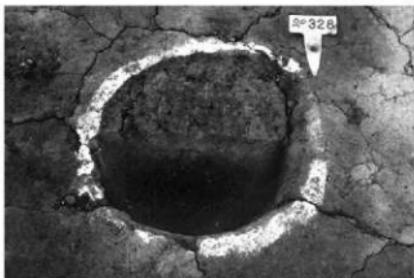
SP 219 断面 (南から)



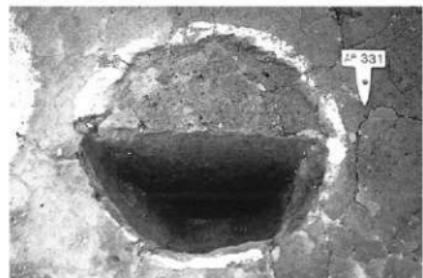
SP 246・247 断面 (南から)



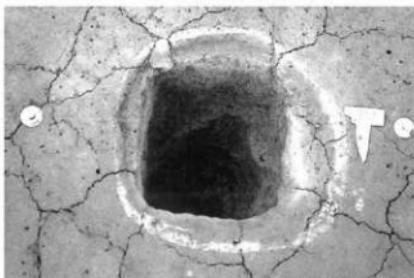
SB 604 完掘状況 (西から)



SP 328 断面 (南から)



SP 331 断面 (東から)



SP 311 完掘状況 (南から)



S B 609 完掘状況（南から）



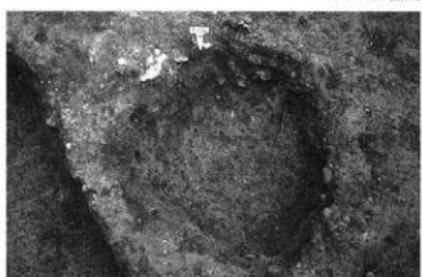
S P 447 断面（西から）



S P 450 断面



S P 468 断面



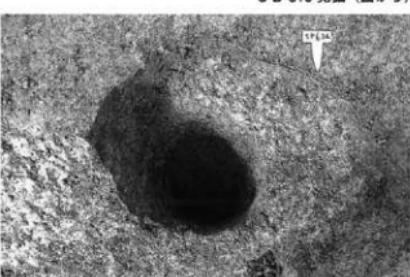
S P 446 完掘状況（西から）



S B 610 完掘（西から）



S K 621 断面（東から）



S P 634 完掘状況（南から）



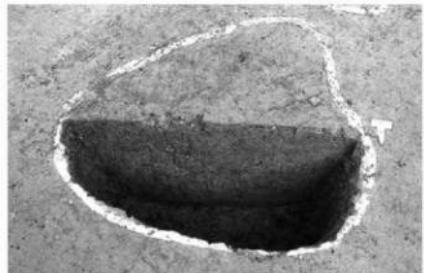
S A 606・607・608 完掘状況（北から）



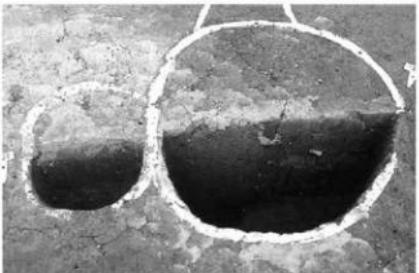
S D 244 断面（南から）



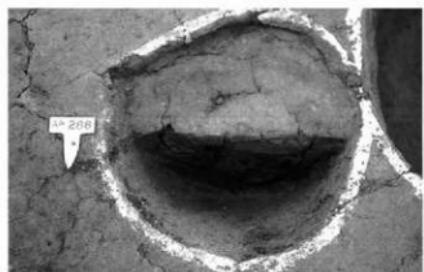
S K 224・225 出土状況（南から）



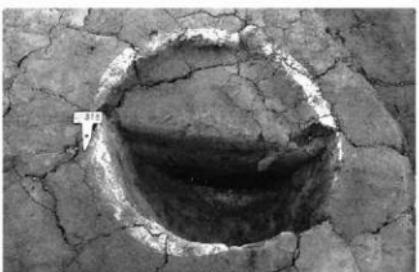
S K 223 断面（南から）



S P 228・229 断面（南から）



S P 286 断面（南から）



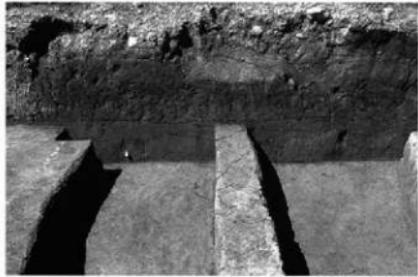
S P 316 断面（南から）



S K 206 完掘状況（東から）



S T 322 ベルト断面（南から）



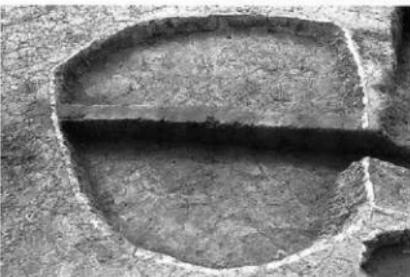
S T 322 西壁断面（東から）



S T 322 完掘状況（東から）



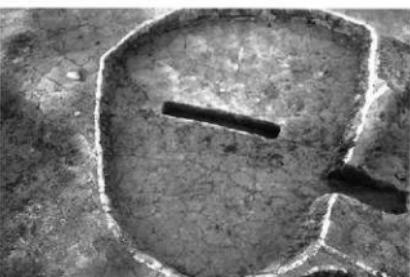
S K 209 ベルト断面（東から）



S K 210 ベルト断面（東から）



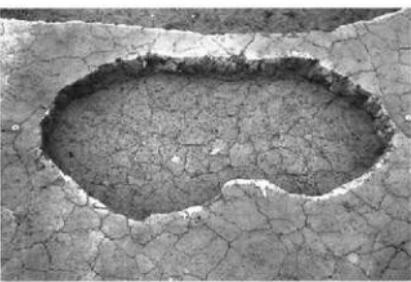
S K 209 完掘状況（東から）



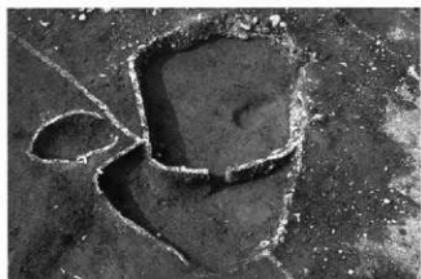
S K 210 完掘状況（東から）



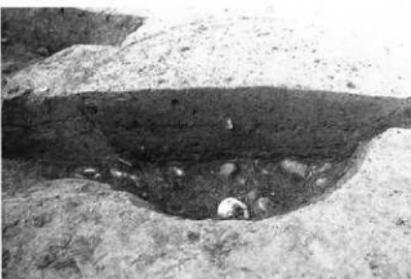
SK 201・202・203 完掘状況（東から）



SK 320 完掘状況（東から）



SK 370 完掘状況（南から）



SK 590 断面（東から）



SK 590 出土状況（西から）



SK 590 完掘状況（北から）



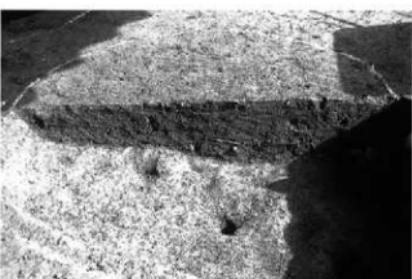
SK 595 南北断面（西から）



SK 595 完掘状況（西から）



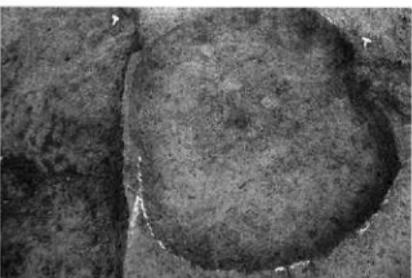
S K 625 断面（西から）



S K 626 断面（西から）



E K 627 出土状況（西から）



E K 627 完掘状況（西から）



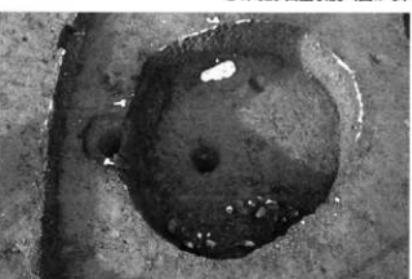
E K 622 + 629 出土状況（西から）



E K 629 出土状況（西から）



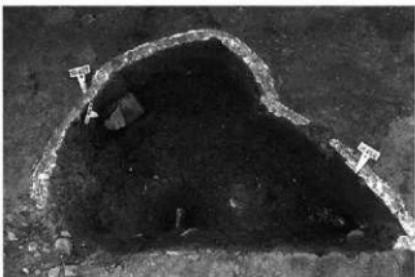
S K 624 出土状況（北から）



S K 626 完掘状況（南から）



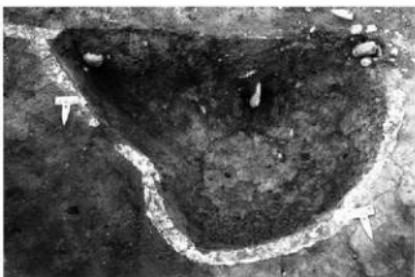
S X 352・353 完掘状況（南から）



S X 457 出土状況（北から）



S X 510 断面（東から）



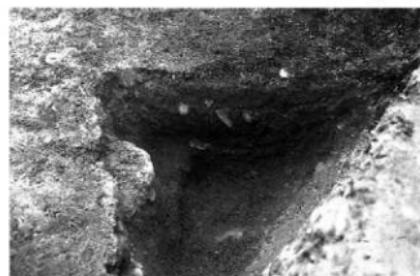
S X 456・457 完掘状況（南から）



S X 497 断面（東から）



S X 497 完掘状況（南から）



S X 529 断面（北から）



S X 529 完掘状況（北から）



S X 529 出土状況（東から）



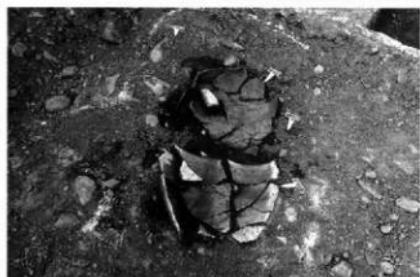
E U 576 出土状況（北東から）



S H 533 合口壺出土状況（南から）



S H 533 断面（東から）



S H 533 合口壺取り上げ状況（南から）



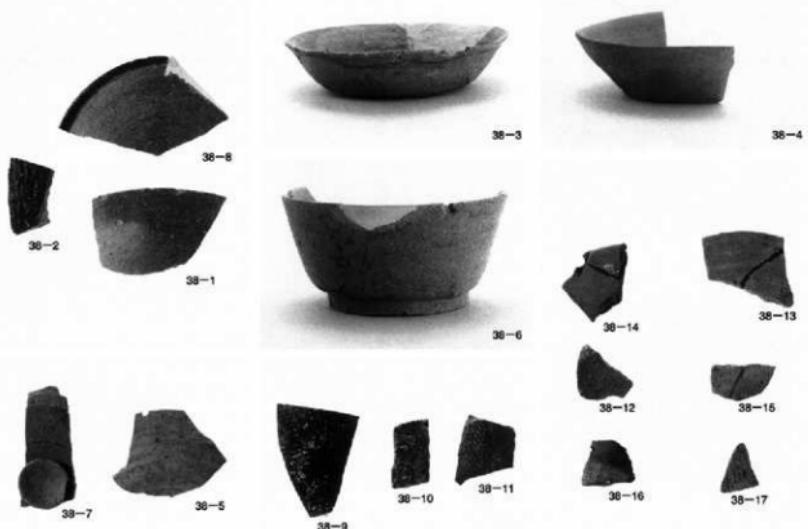
表土除去作業状況（北から）



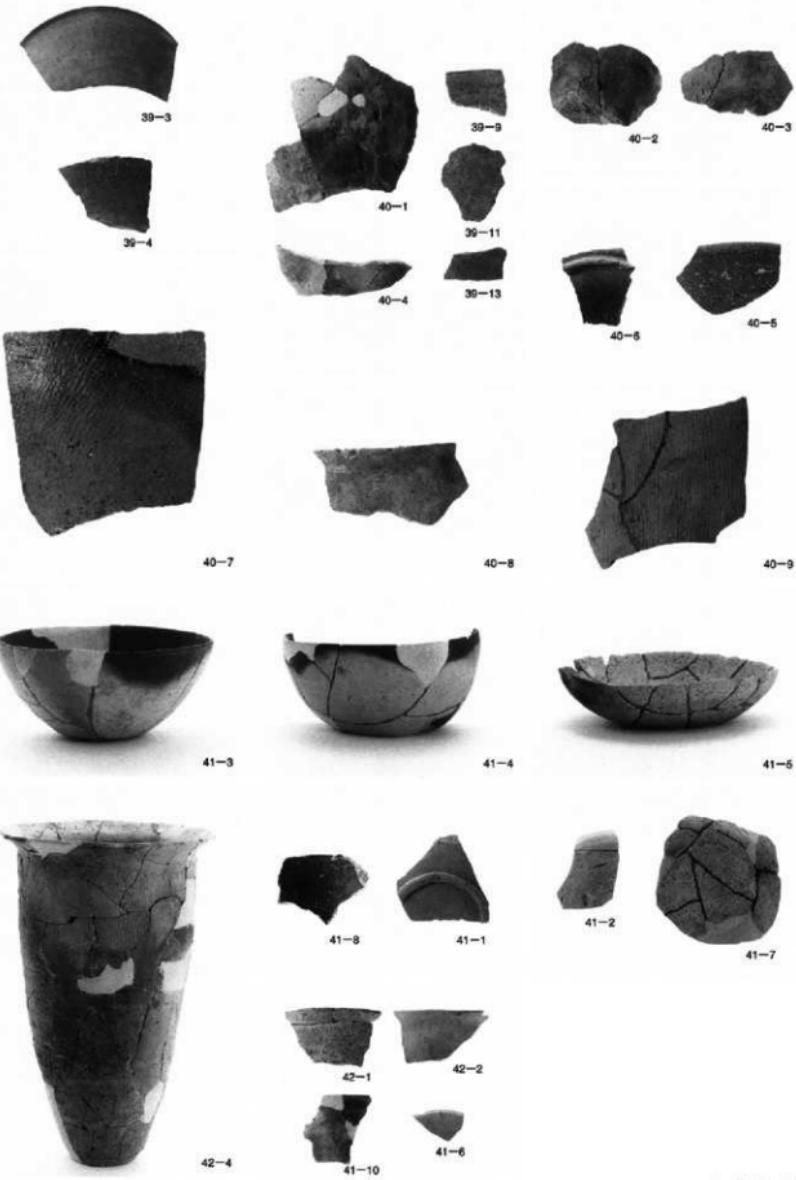
遺構精査状況（北から）



調査員・発掘作業員（南から）



出土遺物 (1)



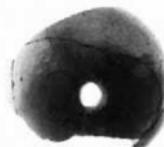
出土遺物 (2)



42-3



41-9



42-6



42-5



43-1



43-3



43-2



43-4



43-8



43-15



43-6



43-16



43-9



43-10



43-11



43-5



43-14



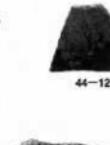
43-13



43-12



44-11



44-12



44-1



44-2

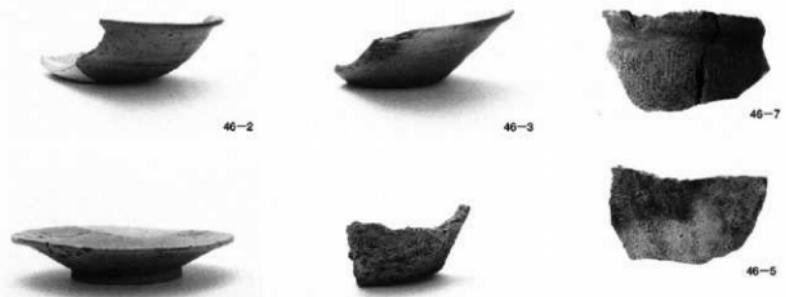
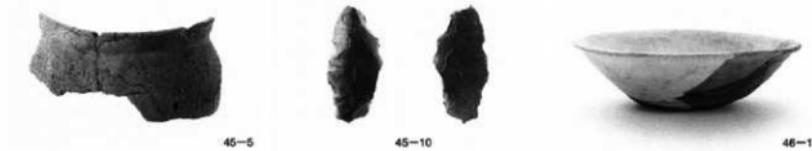
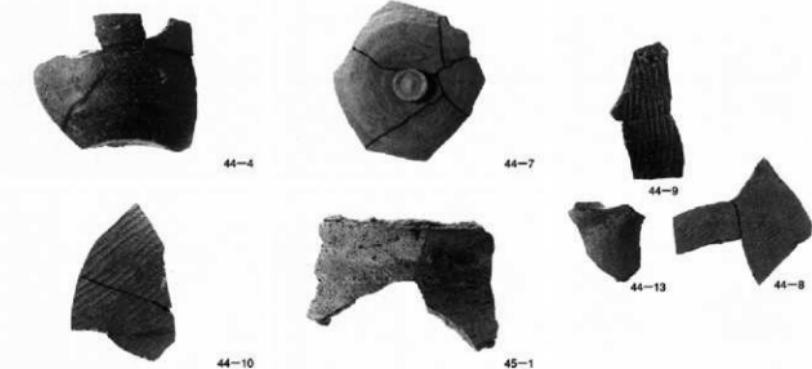


44-8



44-5

出土遺物 (3)



出土遺物 (4)



46-8



46-11



47-2



47-3



46-10



46-9



47-1



47-4



47-5



47-6



47-7



48-2



48-7



48-9



49-4



48-1



48-11



48-4



48-5



48-3

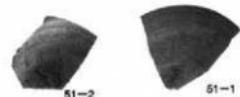


49-8

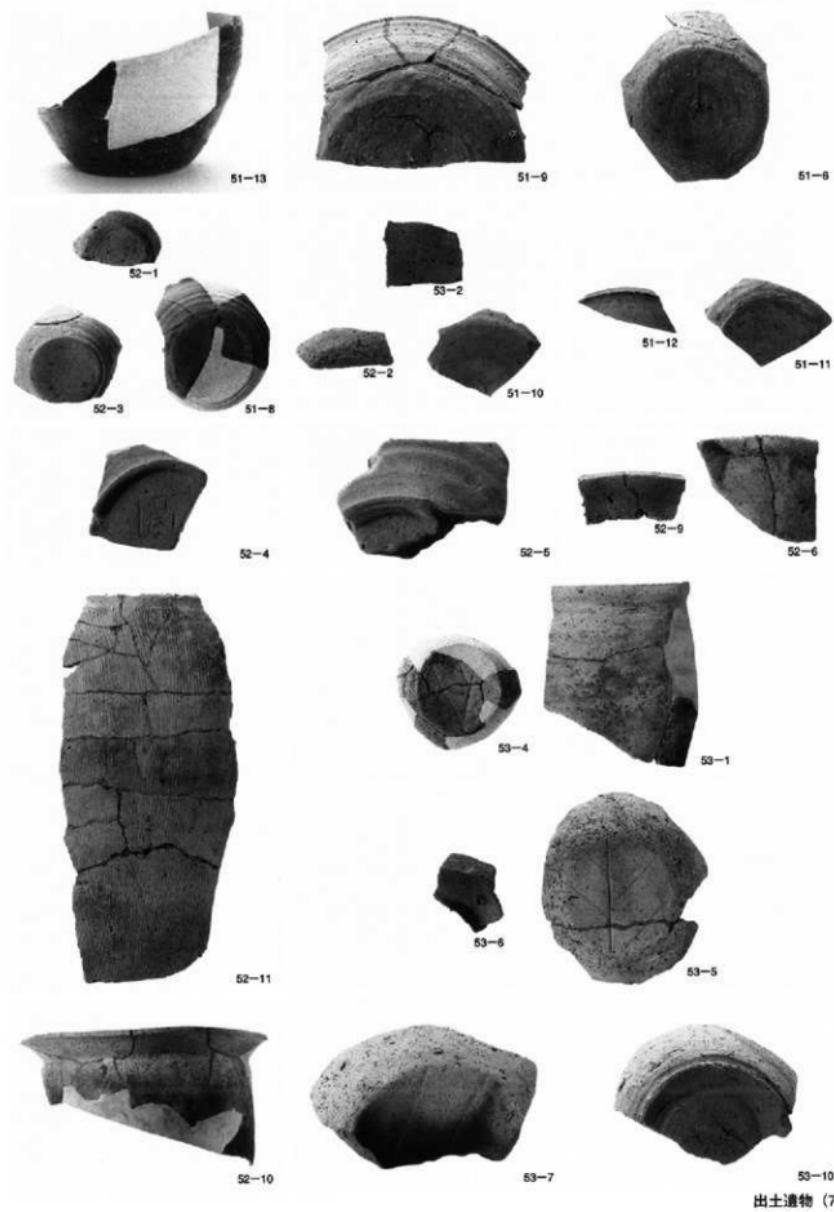


49-6

出土遺物 (5)



出土遗物 (6)

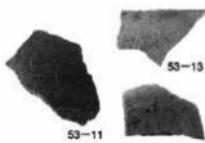




53-8



53-12



53-11



53-9



54-10



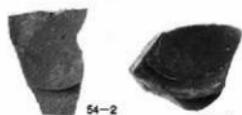
54-1



54-11



54-9



54-2

54-7



54-12



54-3



54-6



54-6



64-5



54-4



55-1



55-3



55-4



55-2



55-7



55-5



55-9



55-8

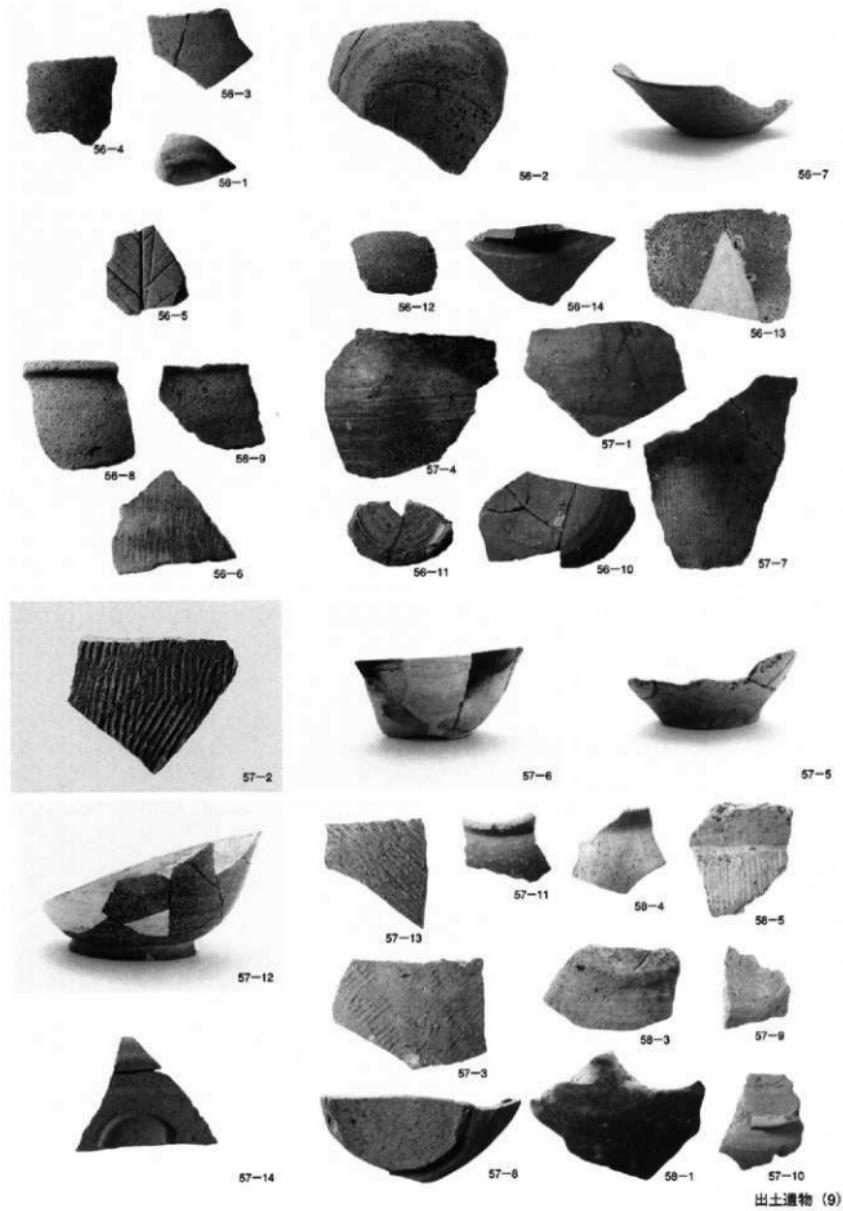


55-10



55-11

出土遺物 (8)



出土遺物 (9)



58-2



58-6



58-10



58-8



58-11



58-12



58-13



58-9



58-7



58-14



58-15



58-16



59-1



59-2



59-3



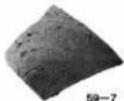
59-5



59-6



59-4



59-7



59-10



59-8

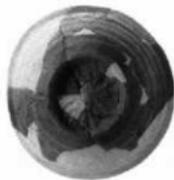


59-9

出土遺物 (10)



60-3



60-6



60-1



60-2



60-5



60-4



60-7



60-8



61-1



61-5



61-2



61-3



61-4



61-5



61-6



61-7



61-9

出土遺物 (11)



62-1



62-2



62-3



62-4



62-5



62-6



62-10

出土遺物 (12)

報告書抄録

ふりがな	きたむかえいせきだい2じはくつちょうさほうこくしょ					
書名	北向遺跡第2次発掘調査報告書					
副書名						
卷次						
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書					
シリーズ番号	第154集					
編著者名	伊藤成賢・今田秀樹					
編集機関	財団法人 山形県埋蔵文化財センター					
所在地	〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301					
発行年月日	2006年3月28日					

ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
北向遺跡	山形県 山形市 大字青柳 字十文字	6201	平成14年 度登録	38度 18分 5秒	140度 22分 0秒	20050822 5 20051117	900 m ²	臨時道路 整備事業 一般県道 東山七浦 線
種別		主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
集落跡	奈良・平安時代	堅穴住居 掘立柱建物 溝跡 土坑	22 4	土師器 須恵器 石製品 陶器	遺跡は、村山高瀬川と立谷川の複合扇状地の自然堤防上に広がる。主に平安時代の住居跡が場所によっては何回か建て替えられた形で検出された。また、これらの住居に伴って遺物が多く検出された。(文化財認定箱数: 35)			

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第154集

北向遺跡第2次発掘調査報告書

2006年3月28日発行

発行 財團法人 山形県埋蔵文化財センター

〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号

電話 023-672-5301

印刷 藤庄印刷株式会社

〒990-0821 山形市北町1丁目3-1

電話 023-684-5555